

「から」を用いる日本語原文とその中国語対訳

注：分類欄に記載されている記号は次の意味を表す。
A=「原因・理由を表すもの」、B=「接続機能を持つもの」、C=「無標」

原文		訳文		分類一覧		作品名
会話文	地の文	会話文	地の文			
	言うなり、今上げたばかりのリュックを網棚から降ろし、また食堂車へ引き返し出した。伝票を間違ったに違いないと思いついたからである。		说着,把刚刚放上去的背囊又取回手里,再次折身往餐车那边走去。他断定刚才拿错了传票	C		あした来る人(情系明天)
	・・・彼女は恐らく二等の乗客であろうから、探すにしても、たいしたことはないと思根は思った。		她坐的可能是二等车,找也不至于太费事。	C		あした来る人(情系明天)
	ひどく小さい声で、相手は言った。自分も声を低くするから、曾根にも声を低くしてもらいたいといった表情だった。		///对方声音低微。表情仿佛在说:既然我如此小声,请你也别再粗声大气好了。	A-21		あした来る人(情系明天)
	とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな!これもやはり友達の有難さというものだ。		不管怎样,是他给自己找的这个“窝”!毕竟是有朋友的好处啊!	C		あした来る人(情系明天)
	これだけ東京に人がうようよ居るのだから、一人ぐらい、百万円の出版資金を出してくれる奇特な人物がいても不思議はないではないか。		东京城如此人如潮涌,其间有一两个肯赞助一百万出版经费的出众人物,又有什么奇怪的呢!	C		あした来る人(情系明天)
	擦過傷程度だが、心配だから病院に入れて手当をしてもらってある。		虽说只是擦伤,但由于放心不下,还是送到医院去了。	A-15		あした来る人(情系明天)
	詳しいことは電話だから判らないが、骨折もしていないし、出血箇所もない。		因是电话告知,八千代无法了解详情。不过既未骨折,又未出血。	A-10		あした来る人(情系明天)
「ここあとで片づけるから、このままにしておいてちょうだい・・・」		“这里一会儿我再收拾,就这样放着好了。・・・”		B-1		あした来る人(情系明天)
	母は毎月要るだけのものは父から取り上げるから、さして不自由はしない。		母亲每月所需之物,尽可从父亲手里讨取。并无什么限制。	C		あした来る人(情系明天)
「あれから毎日東京を方々歩き回ったんですが、その挙句の果に自動車にぶつかったんですから、どうもあまり名譽なこととは言えません。・・・」		“那天下车以后,每天都在东京东西转,到头来竟转到车身上去了,实在有失体面。・・・”		C		あした来る人(情系明天)
「すぐそこですから、お歩き下さいませ?」		“就在那儿,走着去好么?”		C		あした来る人(情系明天)
	よろしゅうございますの、自動車でときき直した、先刻の東京人は自動車に乗りすぎるといふ曾根の言葉を思い出したからである。		八千代想起曾根说过的东京人过于贪恋坐年的那句话,便又问:“可以么,坐小车?”	C		あした来る人(情系明天)
「病院の受付に二三時間と書いておきましたから、そろそろ帰るとしましょうか」		“跟医院讲好寄存两三个小时,差不多该回去了。”		C		あした来る人(情系明天)
「五時きっかりに日本ホテルの玄関に行かなければなりませんから、そのつもりでいて下さい」		“五点整要到日本大酒店门口。请掌握好时间!”		C		あした来る人(情系明天)
「りかさん、すぐおはいり、旦那さまは宴会だから、どうせはいらないわよ」		“理嘉,进去洗吧。大贯有宴会,反正洗不成的。”		C		あした来る人(情系明天)
「そうね、何だかんだと言って、とうとうはいらなかったわね。でも、今夜も遅いからだめよ。・・・」		“呃一一,这个那个总有理由,总之没洗是吧?不过今晚回来晚,等不及。・・・”		C		あした来る人(情系明天)
「・・・構わないからおはいんなさいよ」		“你只管洗好了。”		C		あした来る人(情系明天)
「ほかに入れるところがないんだ。小さくてもいきものだから、おおっぴらには電車で持ち込めないんだ」		“没别的東西裝嘛。小是小,畢竟是活物,不能公開帶進電車內。”接着又說。		B-11		あした来る人(情系明天)
	子天だから声は小さいが、突きささるような耳につく声である。		狗小,声音也小,却异常刺耳。	C		あした来る人(情系明天)
「当り前じゃあないか、生れたてだからまだ寒いよ」		“那还用问?刚出生,怕冷嘛!”		C		あした来る人(情系明天)
「今月なんて七千円しか持って来ないで、それでやって行けると思っているんですから滑稽だわ」		“这个月只拿回七千元钱,您以为那就可以过下去不成?滑稽!”		C		あした来る人(情系明天)
「そうはいかない、頼んでもらって来たのだから、今さら要らなくなったとは言えんよ」		“那不成。托人要来的,现在怎么好说不要!”		C		あした来る人(情系明天)
一ほんとうに、人に上げていて、今になって返せと言うんですから、無茶ですよ。・・・」		“给了人的东西现在又要回去,实在不象话。・・・”		C		あした来る人(情系明天)
	自分に多額の金を投げ出してくれるのだから有難くなくはないが、杏子が大助を立派だと思ったのは、そうした好意のためではなく、杏子が女であることなどみじんも意に介さずなんの躊躇もなくとことんまでやれと言いつてくれたことである。		对自己慨然解囊诚然令人感激,但杏子所以敬佩大助,并非由于他的好意帮助,而是由于他那丝毫不以杏子是这点为意而毫不踌躇地鼓励自己善始善终的态度。	C		あした来る人(情系明天)
「金が集まらんですよ、相当な金ですからね、来年まで待てばいいわけですが、こんなことは仲間の気持ちがぴったりと合った時でない、流れてしまう心配があります。・・・」		“钱不凑手,要好多钱哟!当然,等到来年问题就可以解决。但这种事情,必须在伙伴们情投意合的时候进行,否则就有可能半途而废。”		C		あした来る人(情系明天)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
「そりゃあ危険でしょうね、雪崩も怖いですが、しかし、それより、文明国から遠ざかっていますから、病気が怖いでしょうね、できれば、医者仲間を一人連れて行きたいですが」		“这是难免的。雪崩就够吓人的。但更可怕的可能还是疾病，因为它远离文明国度。能办到的话，我们想带一位医生同行。”		A-1	あした来る人 (情系明天)
「今日は日曜ですから、静かです。いつもこんなではありません」		“今天是礼拜天，所以静些。平时也不是这样。”		A-36	あした来る人 (情系明天)
「なるほど、そのいい加減な返事を僕が当てにしたんですから、そいつあ、僕の失敗でしたな」		“可我却对这含糊其词实实在在地指望上了。乖乖，是我的不是！”		C	あした来る人 (情系明天)
「すぐお暇しますから、お構いしないで下さい、梶さんにほんのちよっとお目にかかればいいんです」		“我马上告辞，请别客气。只要见一眼梶先生就可以了。”		C	あした来る人 (情系明天)
「あれは、自分がたきたいんですから、構わないでございませぬよ。・・・」		“那是他心甘情愿，不必介意。・・・”		C	あした来る人 (情系明天)
「でも、もう、午前中はむりだと思えます。藤川さんは、午後会社の方へ出て言っていましたから、会社の方へ行ってみましょう」		“上午怕是来不及了。藤川先生说他下午到公司去，就到公司去找好了。”		B-1	あした来る人 (情系明天)
「お金はなんとかしましょう。お嬢さんがついて来たんだから、これは出さんわけには行きませぬわ」		“钱我想办法就是，小姐领来的，不容不出啊！”		C	あした来る人 (情系明天)
「いや、一會いたいから上京の時を知らせてくれというだけですがね」		“呃——，只是想说见我，叫我赴东京时告诉他一声。”		C	あした来る人 (情系明天)
「そういうわけではありませんが、私が昔山登りしてましたから、そんな関係で、大貫さんたちも来てくれるんですよ」		“那倒不是。只是以前我也登过山，由于这种关系，大贯君他们才来的。”		C	あした来る人 (情系明天)
「山へ登ると、これで変に凶々しくなるんだから、変っているよ」		“一登起山来，脸皮就莫名其妙地厚起来——是变啦！”		C	あした来る人 (情系明天)
「僕は飯倉と言います。飯倉という名前はあまり呼ばれませんから、最初にはっきりと記憶しておいて下さい」		“我姓饭仓。因很少有人叫我饭仓，请您务必一开始就牢牢记住才好。”		A-10	あした来る人 (情系明天)
「言いかけたんだから、言いたいことを、お互いにさらけ出そうじゃあないか。」		“既然说开了，那就互相把想说的统统说个利害！”		A-22	あした来る人 (情系明天)
「近くですから呼んで参ります」		“就在附近，我去叫来。”		C	あした来る人 (情系明天)
「あいにく、ただいま、店にありますの、こんなところですから、別にお探ししてみましよう」杏子は言った。		“不巧这里就这么多了。我再到别处找找看。”杏子说。		C	あした来る人 (情系明天)
「型は生地がみつかりましてから、その上でそれにぴったりしたものを考えさせていただきますから、夏ものですから、そう風変わりな型と違ってありませんし」		“至于样式，等找到面料以后，再让我根据面料考虑最佳方案。夏天穿的，样式不好太出格。”		C	あした来る人 (情系明天)
「夜だけです。しかし、荷物を運び込むから結局一日占領することになります。大変です」		“只是晚间。可是，往里运东西时得整整耽误一天，够您受的。”		C	あした来る人 (情系明天)
「わたくしの方も、営業できないということになるとちょっと考えますから、他にいいところがなかった場合、声をかけてみて下さい。考えてみましょう」		“如果影响营业，我这边也是有所考虑的。不过要是找不到其他合适地方，请跟我打招呼，我想想看。”		C	あした来る人 (情系明天)
「御主人の了解も得ませんとね。とにかく三人も男が夜入り浸りになりますからね」		“那就要取得您丈夫的同意。不管怎么说，三个男人要整夜整夜地泡在这里。”		C	あした来る人 (情系明天)
「いいえ、住み込みの娘がおりますから、留守番はおさせません。でも居ていただいたら、強いということになります」		“不，不，有女店员住在这里，不用你们打更。不过要是肯住下来的话，毕竟让人心里踏实些。”		C	あした来る人 (情系明天)
「三沢のとこへ電話してみましょう。あいつ、ねちねちしたやつだから、いつも一番遅くまで会社に居るんです。まだ居ると思います。居たら、こっちへ回ってもらって、二人で二階をみせていただきます」		““我给三泽打个电话。那家伙做事磨磨蹭蹭，总是在公司呆到很晚，现在我想还在。要是还在，让他拐到这里来，好俩人一起上二楼看看。”		C	あした来る人 (情系明天)
「・・・今日は暗れているから、よく見えるでしょう」		“・・・今天是晴天，会很清楚的。”		C	あした来る人 (情系明天)
「なんの、もうすっかり暮れていたら八時過ぎてしましたろう」		“哪里，天都黑尽了，恐怕八点都过了。”		C	あした来る人 (情系明天)
「とにかく、今夜はここで辛抱しなされ。明日は大貫さんも降りて来ましょう。山に二日居ると言っていたそうですから」		“反正，今晚在这儿凑合一夜吧，估计明天大贯君就能下来，他说是在山上停两天。”		C	あした来る人 (情系明天)
「昨日と今日で二日ですから、明日は降りられましょう」		“昨天和今天，明天该能下来吧。”		C	あした来る人 (情系明天)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
「そんなところがありますものか。だが、昨日の人たちがテントを置いて来たそうだから、心配はありませんよ」		“还能有那样的地方！不过，听昨晚回来的人说，帐篷留在那里了，用不着担心。”		C	あした来る人 (情系明天)
「どうせ五日も休んだんだから、一日ぐらいいい、どっちだって同じことでしょうがな」		“反正五天了，再多一天也一码事嘛！”		C	あした来る人 (情系明天)
「言わないで置いてやって下さいよ、あいつ、はにかみ屋だから、真赤になります」		“你可别声张出去。那家伙，害羞得很，马上会脸红的。”		C	あした来る人 (情系明天)
	テーブルスピーチでは、なんといっても、梶大助が抜群にうまくいった。娘の自分が聞いていてもうまいと思うのだから、父は本当に上手なのだろうと、八千代は思った。		若论席间致词，不管怎么说，梶大助是出类拔萃的。八千代想，作为女儿的自己听起来都五体投地，想必父亲这一手是不同凡响的。	C	あした来る人 (情系明天)
	杏子が梶大助に電話をかけたのは、この世で梶大助だけが、こういう場合に、人間はどうすべきであるかということを知っているのではないかと思ったからである。		杏子所以给梶大助打电话，是因为她觉得这世上恐怕只有梶大助才知道人在这种情况下应如何做。	A-43	あした来る人 (情系明天)
「またすぐ上京して来るから、その時ゆっくり相談に乗ろう」		“很快还要来京，那时再慢慢商量。”		C	あした来る人 (情系明天)
「嘘ですわ、嘘だから心配なさなくていいの」		“我是说谎，是谎话，别惊慌失措。”		C	あした来る人 (情系明天)
「・・・可哀相だから堪忍してあげようと思ったけれど、ワイシャツ持ってきてみましょうか」		“・・・本来看你怪可怜的。想要饶你这次。那么把衬衣拿来好么？”		C	あした来る人 (情系明天)
「もちろんいい加減です。いい加減なことを言ったのに、貴方がいい加減な顔をなさらなかったからいけないんです。しまったというような顔をして！一なんです、あれ！」		“当然是信口开河。我虽然是信口开河，可你那神色却非同小可，满脸‘糟了’的神色！什么呀，那是！”		C	あした来る人 (情系明天)
「もう遅いから、会談を打ち切ろうじゃないか」		“已经晚了，会谈到此为止，好么？”		C	あした来る人 (情系明天)
	しかし、忙しい梶のことだから、「要返事」の郵便物も、よほどのものでない限り、結局は単にそのかごの中へ入れられるだけの運命を持つようである。		然而，梶是忙人，只要内容不是相当重要，纵使需要答复的信件也只能在“待复信”篓里永远待下去。	C	あした来る人 (情系明天)
	しかし、自分の血を分けた娘だから、一応相談に乗ってやらなければならぬ。		然而，毕竟是自家亲生女儿，还是要大致同她谈谈才是。	B-11	あした来る人 (情系明天)
「だって決りましたもの。当事者、二人賛成ですから、問題はありませんわ」		“可是已经决定了。当事者双双赞成，不就一了百了！”		C	あした来る人 (情系明天)
「近く東京へ行くから、その時克平君に会おう」		“过几天我要去东京，到时见见克平。”		C	あした来る人 (情系明天)
「きいて来ますから待っていて下さい」		“我去问问，请稍等一下。”		C	あした来る人 (情系明天)
「大体、もう今日までに予定の数量を採りましたから、あとは逃げて構いませんがね」		“预定数量到今天已经完成，剩下的吓跑也不碍事。”		C	あした来る人 (情系明天)
「構いませんよ。でも、タモ網で魚をすくって、ホルマリンのはいつている石油槽に入れるだけです。面白くもなともないんです。」		“当然可以。不过，只是用小捞网捞出来，放进装有福尔马林的铁桶里，一点没好看的。”		C	あした来る人 (情系明天)
それより、暑いから、その神社の森へでもはいついて下さい」		“・・・这么热，还是进到神社树林里好了。”		C	あした来る人 (情系明天)
「暑いから、お帰りになっていませんか。僕は夕方になると思います。冬なら漁船の底びきに頼むんですが、夏は底びきをやらないので、一匹一匹すくわなければならんです」		“大热天，您回去好么？我怕要到傍晚。若在冬天，可以请渔船拖网帮忙；夏天因为不用拖网，只好一条一条地捞。”		C	あした来る人 (情系明天)
「そんなことなされるから、三沢さん一人お忙しくなるんですね、ほっとけばいい」		“那么，只三泽君一个人忙了？还是要让别人分担一点嘛！”		C	あした来る人 (情系明天)
「そういうことになるな。あいつ、何もしないからな」		“怕是这样。那家伙什么也不干嘛！”		C	あした来る人 (情系明天)
「リーダーということにしてやってあるんです。あいつが口をきくと、みんな命令になるから奇妙です・・・」		“算是一队之长吧。也真叫人纳闷，那家伙一开口全是一条条的命令・・・”		C	あした来る人 (情系明天)
「・・・自分は何もしないで、命令するんだから不思議ですよ」		“・・・自己什么活儿不干，光是吆五喝六，不可思议啊！”		C	あした来る人 (情系明天)
「会社の方の仕事が大変なんです。今夜は遅くなるからやめましょう・・・」		“公司这边忙得不可开交。今天晚了，就算了吧・・・”		C	あした来る人 (情系明天)
「何もかもやってもいい、店まで早足舞させ、おまけにビールを寄付させるんだから、実際のところは慰労だが何だか判らないな・・・」		“一切让人家操办，还让人家提早闭店，再加上赞助啤酒，真搞不清是慰劳还是什么・・・”		C	あした来る人 (情系明天)
平生律儀で平凡な勤人にしか見えない三沢も、話が遠征のこととなると、急に犯し難いような表情を帯びて来るから不思議である。		即使平素循规蹈矩，看上去只是一名平庸职员の三泽，一旦提起远征，也马上现出一种凛然的神情，委实不可思议。		C	あした来る人 (情系明天)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
「まさか、こんどは大丈夫だろうな、おれたちの方がお嬢さんたちのことを心配しなければならぬというのは、どうも柄にあわぬからね」		“这次问题不大吧？当然罗，我们是不配为小姐们的安危担忧的。”		C			あした来る人 (情系明天)
「あれは困ったことです。しかし、ですな、考えてみれば、あの二人の考え方には貴方と似通っているところがある。私なら、少しぐらい文句はあっても、どうせ短い一生のことだから、それで押し通してしまおう。・・・」		“那是件棘手事。不过想起来，那两人的想法同你有相似之处。若放在我身上，就算多少有点牢骚，也会将就维持下去，反正一生也不很长嘛！成天争争吵吵的，决不会叫人舒心。・・・”		C			あした来る人 (情系明天)
「いいか、寛平君、間違えてはいかんよ。父親だった時何一つしてやらなかったから、その替りに、今一つだけさせてもらおうと思うんだ。・・・」		“好么，寛平君，你不要误解。由于我身为岳父时什么也没做，所以现在我做一件事来弥补。・・・”		A-18			あした来る人 (情系明天)
	梶のことだから、何回も電文を考えたことであろう。		从梶的为人来说，电文想必不知推敲了多少次。	C			あした来る人 (情系明天)
「・・・こんなにさびしいんだから送っていただいて構わないと思いました。・・・」		“・・・我想，既然自己感到如此寂寞，让您送一程也没什么不可。・・・”		C			あした来る人 (情系明天)
	八曾根二郎は今別れたばかりだから、まだ研究所へ着いているはずはなかった。		曾根二郎刚刚同自己分手，还不至于走到研究所。	C			あした来る人 (情系明天)
	着いたにしても、夜のことだから、研究所の彼へ電話が通じるかどうか判らなかつた。		纵使走到，夜间恐怕也很难用电话在研究所里找到他。	C			あした来る人 (情系明天)
「今日はお留守番があるから、これから三人で街へ出しましょうよ。・・・」		接着，“今天有人看家，我们三人这就上街去。・・・”		C			あした来る人 (情系明天)
	杏子は実際に仕事は忙しかったが、一年に一回あるかなしの、梶の暇な日であるから、彼につき合ってやろうと思った。		诚然，杏子活计很忙。但梶大助空闲的日子一年才有这么一次，理应陪一陪他。	C			あした来る人 (情系明天)
	「植物園の内部へは自動車はいりませんわ。静かないところですから少しぐらいお歩きになってもいいでしょう。散歩ですもの」		““植物园里车是不能进的，那地方很静，走几步也好吧？您不是说散步嘛！”	C			あした来る人 (情系明天)
	近在の人びとの口の端にのぼったのは、竹の名所だったからである。		附近的人们之所以还谈到它，无非因为它是有名的产竹地。	A-66			越前竹人形 (越前竹偶)
	急傾斜に出来た部落であったから、雪崩をふせぐために祖先が栽培したと思われる竹藪が、思わぬ副業となって、竹神の名を近在に知らしめた。		因为这个村子建立在倾斜度较大的坡上。竹子成了意想不到的副业后，“竹神”这个村名也就在附近一带不胫而走了。	A-1			越前竹人形 (越前竹偶)
	父親は竹細工師の始祖でもあるから、大びらに嘲笑する者はなかったが、		由于他的父亲是竹工艺匠的鼻祖，所以村里还没有人放肆地嘲笑他。	A-18			越前竹人形 (越前竹偶)
	///女の記憶はなかつた。だが、喜助は、女の顔をどこかでみた確信があつたから、それでは、その時にこの女をみたのであろうかと、思いなおさずにはおられなかつた。		///喜助想不起这个女子，然而喜助不得不认为，既然自己确实曾在什么地方看见过她，那就是在那个时期里看到的。	C			越前竹人形 (越前竹偶)
	背のひくい父親の子であるから、背がひくくても不思議ではないのであるが、		父亲是个矮子，儿子的个子不高，这也没有什么可奇怪的。	C			越前竹人形 (越前竹偶)
	喜助は、玉枝の顔や、身のこなしや、物言いに、無性に魅かれていたから、父の喜左衛門が玉枝を好きになつたと思うと、それが当然のこのような気もしたと同時に、かすかな嫉妬さえおぼえた。		玉枝的相貌、仪表、谈吐，都使喜助喜欢得着了魔，所以喜助想到父亲喜左卫门同玉枝要好，虽说心里也明白这是情理之中的事，但仍不免有些妒忌。	A-36			越前竹人形 (越前竹偶)
	玉枝が墓まいりにきたのは前年の十二月であるから、まる四月たつていた。		玉枝来上坟是在前一年的十二月里，这中间整整隔了四个月。	C			越前竹人形 (越前竹偶)
	竹神の部落は、冒頭にのべたように、日野川の奥の高所にあつたから、芦原や武生よりも、雪はふかかつた。		竹神村位于日野川深处的高地上，积雪比芦原和武生来得深。	C			越前竹人形 (越前竹偶)
	もともとここは温泉町であるから、芸者はいる。		这里原来是温泉街，所以是有艺妓的。	A-36			越前竹人形 (越前竹偶)
	おそらく、父は、あの人形も、そのように心をこめてつくつたものに相違ないのだが、それほどの心をこめた理由は、玉枝が好きであつたからにちがいないと喜助はあらためて思った。		喜助想，或许可以肯定，这只竹偶也是父亲灌注了这种心血做出来的，不过父亲之所以这么郑重其事地做，一定是喜欢玉枝的缘故。	A-58			越前竹人形 (越前竹偶)
	玉枝は三十一、二になっていたろうか。父は六十八で死んだのだから、十年前に玉枝にあの人形をくれている以上、十年來のつきあいということになる。		玉枝现在不是才三十一、二岁吗？父亲是六十八岁去世的，既然十年前就给玉枝做过竹偶，可见他俩交往了十年。	C			越前竹人形 (越前竹偶)
	冬どちがって、墓のまわりはほかほかと暖かかつた。墓石の前の花筒が青竹にかわつていたのは、喜助が、伐り竹をするたびに、とりかえるからであつた。		这次和冬天不同，墓的周围暖洋洋的。墓石前的插花筒已换成青竹做的了，这是因为喜助每次伐竹便换一个插花筒。	A-1			越前竹人形 (越前竹偶)
	喜助は、一人ぐらしであつたから、食べものも、衣類も、ぜいたくする余裕はなかつた。		喜助一个人过日子，所以没有需要去讲究吃的和穿的。	A-36			越前竹人形 (越前竹偶)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
	///そんな喜助の不自由な生活をみていて、村の者は、喜助に嫁を早くもたせてやらねば、とはなしあっていた。しかし、喜助のところはしゅうともいえないから気楽な嫁入り先だと思えても、村娘の中ではゆくとゆう者はなかった。		///看到喜助生活得这么不方便，村里的人都互相议论着：“得及早替喜助娶个媳妇才是。”按理说，嫁到喜助那里，不会有公公婆婆，是一个可以随心所欲过日子的所在，然而村里没有一个姑娘想去攀亲。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	喜助の家は藪に囲まれていたからうす暗い。陰気だ。		喜助的房子被竹丛所围，比较暗，气氛阴沉沉的：	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	玉枝は、そうした村人たちに、かくれて暮すような態度はしなかった。道で会えば愛想よく頭を下げた。あいさつもした。気さくなかんじを示すものだから、村人たちはいっそう眼を瞪った。		玉枝对这些村里人并不采取躲避的态度。在路上遇见人，玉枝总是很有礼貌地鞠躬、问好，表现得落落大方。这使村里的人们更加刮目相视。	B-5	越前竹人形 (越前竹偶)
	喜助の細工物が、武生にも福井にも名がきこえて、問屋や小売屋から注文がきていたから、働きの喜助と玉枝との組みあわせに、とやかくいう者は一人もいなかった。		喜助的竹工艺品在武生、在福井都很有名气，批发铺和小卖店总有货要订，所以，对于小生产者喜助和玉枝相结合这件事，总算是没有一个人说什么闲话。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	喜助は苦笑していた。手さびびにつくったものであるから、とても、展覧会になぞ出しても量産は出来っこないから無理だというのがあった。		喜助苦笑，心想：这竹偶本是为了遣兴而做的，拿到展览会那种地方去，将来产量不出来怎么办？实在是强我所难了。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	板の間に蓑を敷いただけのただっ広い居間は、土間の向うにある出入口と、瀬戸口の二つしか障子がはまっていなから、まるで傘を半すばめにして、その中へくぐりこんだみたい恰好である。		铺着地板的里间是空荡荡的宽大起居间，只有通往堂屋的出入口以及后门有纸拉门，所以房屋活像收起了半的伞，人进屋时仿佛是钻进去似的。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	鮫島は竹製の湯呑みの茶をすすり終ると、長居するもわるいから、もう一ど作業場の中と丹精されてある竹藪をみせてくれと喜助にたのんだ。		鮫岛已把竹制小杯里的茶喝完。他想，长坐下去可不好，便要求喜助再让他们看看作业场和精心培植的竹丛。	B-2	越前竹人形 (越前竹偶)
	時間がさほどたっていないから、さすがに良心の責めと、後悔ともつかぬ気持ちがにがりのようにのこっている。		刚才发生的事情，使玉枝受到了良心的谴责，并感到懊悔不已，心里很不是滋味。	B-5	越前竹人形 (越前竹偶)
	夜のうちに、十体の人形をそるえるのだから、当然、喜助ひとりでは時間がかかると思われたので、母屋の仕事を放ったらかして玉枝は急いで小舎へ入った。		玉枝想，一个夜晚要备置十只成品竹偶，靠喜助一个人当然来不及。于是，她搁下了正屋里的家务，急忙走进小屋。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	細工師たちの眼は輝いた。すでに、喜助の小舎をのぞいて喜助の人形は知っていたから、それが京の間屋に出て評判になったとき、驚きでもあったし、喜助にあやかって、収入を得たいとする者が出たのは当然といえる。		几个竹工艺匠的眼睛闪闪发光了，他们已经见过喜助的小屋，知道喜助的竹偶，所以听说竹偶在京都的批发店陈列后名声大震，都吃惊不小。于是，当然就有人想仿照喜助那样赚钱啦。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	もともと器用な連中であるから、喜助の仕事をおきで見ながら、すぐにおぼえてしまう。		这几个人本来就很灵巧，他们一边看着喜助怎么操作一边跟着学，很快就学会了。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	しかし、手のこんだ仕事だから、値がはる。翁人形一对が、当時二円の値段がついて京の店に出たのだから、越前竹人形は、高級人形の部類に入ったといえよう。		但是制作竹偶很费功夫，所以价格昂贵。一对竹偶老翁，当时在京都的商店里售价两圆，可见越前竹偶是属于高级玩物的范畴了。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	馬車は金輪のついた堅木の車であるから、石ころ道にさしかかると、ゴトゴトと音をたてて大きくゆれる。		马车是硬木做的，再按上金属的轮子，所以从石子上路碾过，轱辘轱辘响着，摇晃得很厉害。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	竹神の部落は南条山脈の北ふところにあつたから、山嵐で溪間の藪がき屋根も家を囲んでいる竹藪も、一日じゅう、せわしく騒いでばかりいる。		竹神村位于南条山脉的北麓，所以在猛烈的山风中，溪谷间那些稻草草的屋顶以及房子周围的竹丛整天地作响，喧闹不已。	A-36	越前竹人形 (越前竹偶)
	出来のわるいものは商品としなかつたから、いきおい出荷がおくれる。		有毛病的不能作商品，这就势必影响到装包发货。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	娼婦は軀を酷使されていたから、人なみな妊娠などしないと喜助は人づてにきいてもいた。		喜助曾听别人说过——妓女因为过度地劳累了身子，所以不会像一般人那样受孕。	A-7	越前竹人形 (越前竹偶)
	玉枝は堀川中立売のあたりへいったことはなかった。しかし島原に暮らしたことがあるから、だいたい見当はついた。		玉枝从未去过堀川群的中立卖那一带，可是她在岛原住过，心中大体上是有数的。	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	玉枝は、もん叔母に会うためには、時刻からいって向島へいった方がいいと思った。ましてや、随胎の相談をするのであるから、ふたりだけの方がいいのであった。		玉枝觉得，现在去见岳母，从时间上来说，还是应该去向岛。再说，这是商量打胎的事情，不宜让外人在场，	C	越前竹人形 (越前竹偶)
	身内のことだから、こちらの苦しみを察して力になってくれると思うしかないのである。		玉枝认为，既然是亲人，当她明白了对方的苦难后，一定会鼎力相助的。	A-21	越前竹人形 (越前竹偶)
	死の病といわれたのも、貧しい山間部落では治療の方法がなかったからである。		肺病之所以会被称作绝症，也是因为穷山村根本没有治疗的办法。	A-44	越前竹人形 (越前竹偶)
	顔の色も平生でさえ白癩のように透けていたのだから、血の気がひいてしまうと、かげったところは草いろにみえた。		由于脸色平时就像白蜡那样光滑，血色再一少，不向前突出的部分就呈现出草青色。	A-15	越前竹人形 (越前竹偶)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
「みなさん、戦時御多用の折から御苦労さまであります。今さら申すまでもなく、みなさんの連れて帰られる怪我人は、全身が火ぶくれになっているということですから、怪我人に対して、より以上の苦痛を与えさせないよう、御注意のほどをお願いする次第であります。		“诸位，值此战时繁忙之际，有劳诸位大驾。我没有多少话好说，你们将要接回来的伤员，因为都是全身烧起了泡的人，所以希望你们多加注意，不要给伤员再添加痛苦。”		A-7	黒い雨（黒雨）
みなさんは勤勞奉仕団員として戦友を迎えに赴かれるのでありますから、撃ちて止まんものしりとしてお持ちになっておる竹槍だけは、決して落さないように御注意のほどをお願いするのであります。」		你们作为义务劳动团的团员将去接回战友，唯有这作为不停进击的标志而带去的竹枪，希望注意千万不要丢失。……”		C	黒い雨（黒雨）
	被爆者たちは畳の上にごろごろ転がって、みんな顔が焼け爛れているから誰彼の区別もつかないのだ。		被炸的人在铺席上乱滚，脸都烧烂了，分不清谁是谁。	C	黒い雨（黒雨）
	奉仕団員の一人が監視人にそう云ったが、医者も治療法のわからない病人だから減多なことは出来ないと手を控えていた。		一个劳动团员这样问护理人员。可是，医生也不知道怎样去治疗这种病人，对这种少见的病，真是束手无策	C	黒い雨（黒雨）
こんな菓書は、うちで製造しとりますから、なんぼでも差上げます。		“……这些明信片是我家制造的，要多少送多少。……”		C	黒い雨（黒雨）
	私は茶の湯の作法を知らないし年下だから末席に坐った。ようであった。		我不懂茶道的规矩，而且年纪又最小，所以坐在末位上。	A-36	黒い雨（黒雨）
	鮎の友釣は体が冷えるからよくないが、池の堤釣は一石二鳥の療養法だと云っている。		医生说诱钓香鱼，身体容易着凉，所以不太好，但在池边堤上钓鱼，却是一举两得的疗法。	A-36	黒い雨（黒雨）
	いきなり庄吉さんは立ちあがろうとしたが、びっこだから意のままに行かないのだ		庄吉突然想站起来，可是因为他是个瘸子，所以不能如愿。	A-36	黒い雨（黒雨）
「こりゃあ大ごとだぞ。高橋さん、大ごとだから落着いて。そして、よく考えて行動しよう。ようく落着いて」		“这可是大事啊，高桥夫人，正因为是大事，所以要沉着，而且要虑好之后再行动。要十分沉着。”		A-46	黒い雨（黒雨）
	大体において人の歩いて行く方角は、三滝公園から三篠鉄橋あたりの見当のようだから、僕らもその方角へ歩いて行った。		人们所去的方向，大致看来象是三滝公园或三篠铁桥一带，所以我们也跟着往那个方向走去。	A-36	黒い雨（黒雨）
	「わたしは取引先へ行って、お金を頂いて来ます。銀行に振込まねば、品物が来なくなりますから」		“我上交易所去，把钱领出来。不把现金转到银行去，货就来不了。”	C	黒い雨（黒雨）
	子供はこっくりして、僕と並んで歩いて来た。鉄橋を渡れば、後はもう双葉の山がすぐだから心配ない。		小孩点了点头，和我并排走着。一过铁桥再往前走，马上就是双叶村的山，那就不用担心了。	B-1	黒い雨（黒雨）
	可愛らしい子だが、幸い向うも何ひと云わないから僕は気が助かると思った。		孩子倒是挺可爱的，幸好他什么也没有说，所以感到很好办。	A-36	黒い雨（黒雨）
	「あのなシゲ子、食生活の部門は一家の主婦の受持だから、お前に一役たのむんだ。……」		“我说，繁子，伙食是一家主妇负责的事，所以请你帮忙，……”	A-36	黒い雨（黒雨）
配給日には定刻前から配給所の前に人の行列が出来ました。本当に言語に絶すると云ったような、ひどい食糧不足ですからこの有様でした。		发放配给的那天，时间还没有到，配给所门前却已经排起了长队。这都是因为粮食不足到了无法形容的地步，才出现这个样子的。		A-2	黒い雨（黒雨）
何もかも不足しているのですから、何でもよい、何か手に入れたいです。		因为什么东西都不足，所以不管什么都行，总想弄到手。其实连一张纸片都难以到手。		A-7	黒い雨（黒雨）
	これを要するに、私は戦時下の私のうちの献立表を一週間分ぐらいでも書くつもりでいましたが、毎日繰返していた台所仕事ですから、却って雑然として正確なことが思い浮かんで参りません。		我原打算把我家在战时一周的菜单概要地写一下，但每天围着锅台转，反而使脑子里杂乱无章，不能准确地回忆起来。	C	黒い雨（黒雨）
	虫供養は芒種次の次の日にする行事である。百姓は野良仕事をするから地の底の虫を踏殺すので、お萩をつくって今は亡き虫類を供養する。		敬虫是芒种后第三天祭祀，农民做农活时踩死地上的虫子，所以要用胡枝子来敬奉现已死去的虫子。	A-36	黒い雨（黒雨）
	狭い村のことだからすぐわかる。		因为村子小，一有事，马上就可以知道。	A-1	黒い雨（黒雨）
	三三人の奥さんが道ばたで立ち話をして、水道栓をひねっても水が出ないから手も洗えないと云っていた。		两三个妇女站在路边讲话，她们说拧开水龙头也没有水，手也洗不成。	C	黒い雨（黒雨）
「閑間さん、私は気になりますから急ぎます。あの火事の勢いなら、いつか焼けますよ」		“闲间先生，我可是不放心，得赶紧走。从这火势看，总要烧起来的。”		C	黒い雨（黒雨）
「すぐ逃げて来ましたから、新田さんのお宅のほかはよく分りませ		“我很快就逃出来了。除了新田先生的家外，其他家都不清楚。”		C	黒い雨（黒雨）
「じゃ、私、体裁が悪いのですから、さっさと歩いて行きます。失礼しました。みなさん、どうぞお大事に」		“真是怪不好意思的，那末，我得赶紧先走。失礼了，请大家保重。”		A-39	黒い雨（黒雨）
	今日は社社の途中から引返して来たから何も分らないと答えた。		我回答说，今天我是在去上班的途中折返回来的，什么也不知道。	C	黒い雨（黒雨）

原文		訳文		分類一覧		作品名
会話文	地の文	会話文	地の文			
	架線はそこかしこ断たれているから電流が来ている筈はないのだが、線が交叉接触しているので電気の怪しさを発揮しように思われる。		高架线到处都折断了,按理是不带电的,但线交叉在一起,总使人觉得它会产生出什么怪现象来似的。	C		黒い雨 (黒雨)
「おい、あの人がしているように、お前たちも左の肘へタオルを巻け。肘で地面を突くから、タオルを巻け」		“喂！就象那些人那样,你们也在左肘上包上毛巾,因为要手肘着地,包上毛巾吧！”		A-1		黒い雨 (黒雨)
	火焰の大竜巻に吸いあげられて、きりきり舞いながら団子のように丸まったらしい。		它是被火焰龙卷风吸上去,因为滴溜乱转了一阵,所以圆得象团子一样了。	A-36		黒い雨 (黒雨)
すると総監が「わたしはもう覚悟が出来ておるから、あんた一人で早く逃げなさい」		据说总监再三说:“我已经有思想准备,你一个人快跑吧!”		C		黒い雨 (黒雨)
	日ごろは極めて磊落に口をきき、眉毛の尻が思いきり垂れているから見るからに明るい感じを受ける。・・・		“他平时说话磊落大方,因为眉梢突然下垂,看上去就给人以性格开朗的感觉。”	A-1		黒い雨 (黒雨)
	僕らは川のなかを歩いて行くよりほかはなかった。岸寄りに草の生えた洲があるが、飛び飛びにあるのだから草むらばかりは歩けない。		我们只有从河里涉水而过。靠岸边有长草的河滩,因为是一小块,那里一块,光踩在草从上是无法走的。	A-1		黒い雨 (黒雨)
「いいえ、混みますから、お互さまです」		“没有什么,人多嘛,彼此彼此。”		C		黒い雨 (黒雨)
	電車はなかなか動きそうもなかった。身動き出来ないほどの詰詰だから暑くてかわない。		看样子电车很难开动。车上象沙丁鱼一样挤得身子没法动弹,所以热得使人受不了。	A-36		黒い雨 (黒雨)
	階段は後ずりに降りた。体重が四肢にかかるから楽である。		我向后倒退着下楼梯,因为重量落在四肢上,感到挺舒服。	A-1		黒い雨 (黒雨)
	「とても駄目です」と答えると、工場長は、今後とも死者がぞくぞく出る見込だから、どこかお寺へ行って火葬するときに、坊主の読む経文をノートして来いと云った。		“我根本不会。”我回答说。厂长一听接着说:“估计今后还会不断死人,所以你就到哪个寺院去,把和尚在火葬时念的经文抄下来。”	A-36		黒い雨 (黒雨)
	そればかりでなく、広島には真宗の人が多から、真宗の流儀で読む経文を筆記して来いと注文つけた。		不仅如此,他还说:广岛信奉真宗的人很多,所以要求把真宗派念的经文抄下来。	A-36		黒い雨 (黒雨)
	夕方ちかくなると、三人も四人も「関間さん、葬式ですから来て下さい」		一到傍晚,又有三、四个人死去。“関间先生,有葬礼,来一下吧。”	C		黒い雨 (黒雨)
	これはタカの倅に送ってやるのが順当だが、水主町のタカの家は焼失せたとのことだから、山口県柳井町の近くにいる倅に連絡してみる必要がある。		这些钱按理要寄给阿高的儿子。可是阿高在水主町的家已被烧掉,所以必须跟在山口县柳井町附近的儿子取得联系才行。	A-36		黒い雨 (黒雨)
	「非常時用の米だから、現在のような非常時に食わなければ嘘なんだ」		“既然是非常时期的备用粮,目前这种非常时期不吃,那是自己欺骗自己。”	A-21		黒い雨 (黒雨)
	シゲ子と矢須子は、着たり着たり洗っているのだから、シャツや下の物を洗って干すまでどうするかと、ひそひそ相談をはじめていた。		繁子和矢须子只有身上穿的一件衣服,所以她们在偷偷地商量:衬衫和贴身衣服,如果洗了没有干,那该怎么办?	A-36		黒い雨 (黒雨)
	縁側の柱に凭れてうつらうつらしている、田中という庶務課員が連絡に来て、兵隊が食糧を受取りに来たから渡したと云った。		我正靠在廊柱上似睡非睡,庶务科的科员田中来联系说:部队来取粮食,已交给他们了。	C		黒い雨 (黒雨)
	その翌朝、西部二部隊の園分中尉が僕を訪ねて来て、軍の食糧を疎開させたいから会社の倉庫へ預かってくれと云った。		第二天早上,西部第二部队的园分中尉来拜访我,说是要疏散军用粮食,希望寄存在工厂的仓库里。	C		黒い雨 (黒雨)
	・・・預かるときの条件だから必ず守ってもらいたい。		“...因为这是存放时说好的条件,请务必遵守。”	A-1		黒い雨 (黒雨)
	相手が軍のことだから事態は容易ならぬのだ。		因为盗窃的是军方人士,所以事情就不那么简单。	A-7		黒い雨 (黒雨)
	シャツが焼け切れているから半裸体同然で、互に重なりあって池のぐりに並んでいる。		他们的衬衣被烧焦了,跟半裸着身子一样,你压着我,我压着你,并排倒在水池的周围。	C		黒い雨 (黒雨)
	市街は一網打尽に焼かれたのだから遠景が見えた。		广岛市的建筑,全部烧个精光,四周的远景,举目可望。	C		黒い雨 (黒雨)
	この歳だから焼跡を掘る元気もないようだ。		象他这么大的年纪,已经没有力气挖掘废墟,寻找遗骨了。	C		黒い雨 (黒雨)
「家内の田舎の生家に、家内と娘の写真が残っております。それを埋めてやるうかと思えます。しかし家内の生家のものが、骨を拾いに来ると云い出すと、有機物だからうっちゃってけとも云えませぬしょうな」		“在我老婆乡下的娘家家里,有我老婆和女儿的相片,我想就把相片埋上吧。可是,她娘家的人一旦提出要捡回遗骨的话,我就不好说那是有机物质,埋在那儿算了的话呀!”		C		黒い雨 (黒雨)
「・・・あの方角、鷹野橋のあたりは死骸も少いでしょうから、臭気も幾分か下火でしょうよ」		“...那个方向,鷺野桥一带,也许死尸要少些,臭味也该多少消了点劲吧!”		C		黒い雨 (黒雨)
	みんな自宅を焼かれているから着のみ着のまま、数十人の負傷者と雑居しながら職場と住居を兼ねての共同自炊生活をやっている。		这二十几个职员的个人住宅全都烧毁,光剩下身上穿着的衣服,都住在办公室里,饮食起居和几十个负伤者混在一起。	C		黒い雨 (黒雨)

原文		訳文		分類一覧		作品名
会話文	地の文	会話文	地の文			
	この福山駅の構内にも、焼け出された人が可なり集っていたようだが、真暗がりだからよく分らなかった。		在福山车站上，聚集着很多被大火赶出家门的人。由于天太黑，看不清站内的情形。	A-15		黒い雨（黒雨）
	蘆田川の鉄橋を渡るときは、真の闇だから猿の四つ道いになって、枕木を一つ一つ手で抑えて行きながら身を運んだ。		在过芦田川铁桥的时候，因为天黑得伸手不见五指，两个人就象猴子似的手脚着地，用手摸着一根根的枕木向前爬行。	A-1		黒い雨（黒雨）
	「酢の素」の瓶のレッテルは、赤襷をかけた田舎娘の絵姿だから可なり派手に出来ている。		醋精瓶子上的商标，画的是农村姑娘，肩上斜披着一条红丝绸条，非常别致。	C		黒い雨（黒雨）
「写真を仏壇へ祀るなど、縁起が悪いから止めなさい。・・・」		“把相片摆在佛堂里祭奠不吉利，不要这样做，・・・”		C		黒い雨（黒雨）
	○紙屋町の西口幾夫様、借金を返済しますから現在の御住所をここへお書き下さい、すみません。中広町の御存じより。		○纸屋町の西口几夫先生，因为要还您的钱，请您现在的地址写在这里。谢谢。您所知道的住在中广町的人写。	A-1		黒い雨（黒雨）
	子供は正直だからその素振を見ればいい。		孩子们是很正直的，如果能看到当时的情景，那就好了。	C		黒い雨（黒雨）
「・・・こういった超非常時のことですから、国民総決起の精神で行きたいものだと思いますね」		“・・・因为现在是极不平常的时期，我想你得以国民总动员的精神去办才行啊！”		A-1		黒い雨（黒雨）
	「自分らは病室を探します。貴方は看護職員でないですから、ここで待っておして下さい。この病院には、小島村出身の被爆者が収容されておる筈であります」		“我们到病房里去找一找，因为你不是救护班的成员，所以还得请你在这里等一下。这个医院收容的伤员中，应该有小岛村出身的挨炸的人。”	A-7		黒い雨（黒雨）
	「あなたは、患者さんをお見舞されるんでしょう。御案内します。くさいですから、少し離れておいで下さい」		“您是来看患者的吧？我领您去，我身上有一股臭气，请您离我稍远一点。”	C		黒い雨（黒雨）
	何だか屁理窟のような気がしたが、僕は一も二もなく降参して、甲神部隊の患者に逢いたい希望を述べようとした。すると軍医は、これも皆まで聞かないで、ピカドンによる重傷患者は毒素を含む熱気を発散しているから近寄るのは危険だと云った。		虽然我感到他说的话有些强词夺理，但还是认可了。我本想说希望探望一下甲神部队的伤员，可这位医生没听我说完就威胁说：因原子弹爆炸而受重伤的人，散发着含有毒素的热气，靠近他们是危险的。	C		黒い雨（黒雨）
	広い焼野原のことだから、家屋引倒しの作業に使うロープや鋸は何の役にも立たなかった。		因为广岛已经烧成了一片辽阔的荒野，所以带来的拆房用的绳子和锯也就毫无用处了。	A-7		黒い雨（黒雨）
	先方から話を断わってくる前だから、ちよど婚約がまともかかいて、嬉しさ恥ずかしさで血の道が起ったようになっていたことでもあり、女同士のシゲ子に打ちあけることさえも憚っていた。		因为对方还没有表示拒绝，婚事还有一线希望，她又喜又羞，结果得了妇女病。可是，连同是妇女的繁子，她都避而不谈。	A-1		黒い雨（黒雨）
	ひどい霧だから庭のケンゴナシの梢が夜空に溶けこんでいるように見えた。		由于雾大，院子里玄圃梨的树梢看起来好象融化在夜空中。	A-15		黒い雨（黒雨）
	「・・・後のことは、森谷先生が引受けて下さるそうですから、どうか御心配なく」		“///”・・・以后的治疗工作，有森谷医生来接替。请不必担心。”	C		黒い雨（黒雨）
	「いえ、そんなことありません。親父の中気は軽くてすんだそうですから。じゃ、御病人にお気をつけて下さい」		“不，没有的事。因为据说父亲是轻度中风，很快就好了。好吧，照顾病人要紧。”	A-1		黒い雨（黒雨）
	結局、病人自身に選ばすことにして、昼飯がすむと本人は気分もよく平熱だからと云って医者へ行く。		结果还是要由病人自己选择。午饭后，病人说：精神也好，体温也正常，想自己去找医生看病。	C		黒い雨（黒雨）
	思いきって隣村の九一色病院へ入院したが、容態は大して悪くないから安心してくれとのことでした」		她已决定在邻村的九一色医院住院，病情没有怎么恶化，请您放心。”	C		黒い雨（黒雨）
	「食欲がないそうです」と主人が先生に云うと、食欲のことはともかくも今は腫れものを撲滅するのが緊急事だから、ダイアジンだけは時間を正確に吞ますようにしてくれと云われたとのこと。・・・		“好象没有食欲。”丈夫对医生说。医生却说：食欲的事先不用管它，现在最主要的是根治肿瘤，所以唯有磺胺嘧啶一定要按时服用。・・・	A-36		黒い雨（黒雨）
	「おい、兵隊か。この山の北側に戸坂というところがある。収容所の準備をしているから、元気を出せ。医療品もどっさりあるそうだ。すぐこの山の北側だ」と嗚鳴って通りすぎた。		“///”喂！当兵的，这山北边有个叫户坂的地方，那里正筹备收容所，打起精神来吧，据说医疗品也准备了不少。就在这座山的北边。”他大声喊叫着，把车开了过去。	C		黒い雨（黒雨）
	「・・・岩竹さんは片方の足が靴だから、跛をひきながら同僚の後からついて行った。		“户坂，户坂！”三个人都叫了起来，朝北边走去。岩竹先生因为光着一只脚，	A-1		黒い雨（黒雨）
	///一列車何百人もの集団でやって来た患者の処置だから、丁寧だとか雑駁だとかの贅沢は云っていられない。		///因为一趟列车运来的患者有数百人之多，要进行处置，什么小心翼翼呀，什么有条不紊呀，全都顾不上啦！	A-1		黒い雨（黒雨）
	それで主人は酒好きなのですから、薬瓶に酒をいっぱい詰めたのをリュックサックに入れまして、それから兄に赤十字のマークの腕章を借りて、従軍看護婦か何かのように見せかけて行きました。		想到丈夫喜爱喝酒，所以用药瓶灌满了酒，装进了行囊里，然后又向哥哥借了有红十字标记的袖章，把自己打扮成随军护士或别的医务人员。	A-36		黒い雨（黒雨）

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
	私は広島市の地理を知りません。第二陸軍病院へ行く道を兵隊さんに聞きますと、あの辺はすっかり焼けたから行っても仕様がなと云うのです。		我不知道広島市的地理情况, 向当兵的打听去第二陆军医院的道路, 回答说:那一带已经烧光了, 去了也没有办法。	C	黒い雨 (黒雨)
	名前は覚えておりませんが、東京辺からいらしていた将校の方が、今は幾ら何しても分からないから、軍の通知があるまで郷里へ帰っていなさいと云われ、氷砂糖とお茶を接待して下さいました。		一个从东京那边来的军官, 记不起他的名字了, 他说:眼下怎么也弄不清楚, 还是回到乡下去等着军队的通知吧。然后给我吃了冰糖和茶。	C	黒い雨 (黒雨)
	では、私はいま庄原に行く途中ですから、必要なものを持って来てもらうように細川の兄宛に走り書きして、それを細川分院に届けてくれるようにその人に頼みました。		于是, 我匆匆地写了个信, 请他带给我在细川分院的哥哥, 说明我眼下正在去庄原的途中, 请把所需的东西带来。	C	黒い雨 (黒雨)
	緊急時のことですから、患者の手当や設備の不足を非難するのは無理ですが、		因为是非常时期, 指责医院对患者治疗不周和设备不全, 那是过分了。	A-1	黒い雨 (黒雨)
	規則だけは軍隊と同じで喧しく、国防婦人会の人が手伝いに来るから、患者の家族の看護はいいお断りするというのです。		可是, 唯独在规章制度上和军队一样, 太烦琐啦, 说是因为有国防妇会的人来帮忙, 所以一概拒绝患者家属的护理。	A-7	黒い雨 (黒雨)
	ところが中尉は苦りきって、軍は軍の方針でやっておるのだから、民間から勝手なものを持込まぬようにしてもらいたいと、きついお叱りを受けました。		///可是, 中尉脸上显得很为难, 他说:军队要按军队的方针进行治疗, 因此, 希望不要从民间把什么东西都拿进来。居然把我们狠狠地训斥了一顿。	A-37	黒い雨 (黒雨)
	まだ暑いときのことですから、蛆を湧かせる蠅を防ぐため昼間でも蚊帳を釣っておりまして、あの白い蚊帳を透かして見ると、ほんとうに骸骨と瓜二つです。		那时天气还热。为了防止苍蝇引起蛆, 大白天也吊着蚊帐。透过白色的蚊帐看去, 真跟摆着尸体一模一样。	C	黒い雨 (黒雨)
	一日ごとに衰弱して行く上に治療法がないのだから、食餌と気力で生きてもらうよりほかはない。今が瀬戸際だ。		矢须子身体一天天衰弱下去, 又没有治疗的办法, 所以只有用饮食和毅力求得生存。目前是关键时刻。	A-36	黒い雨 (黒雨)
	今度は我々が元手をかけた鯉だから、大池へ釣りに行っても池本屋の後家は余計な口をきけないようになるわけだ。		这一来, 我们是花本钱买来的鲤鱼苗, 今后即使到大池塘里去钓鱼, 池书店的寡妇也不至于再说闲话了。	C	黒い雨 (黒雨)
	僕は足音を殺して通りすぎようとしたが、石ころだらけの川原だから、ごつごつという靴音を消せなかった。		我想踩着脚走过去, 可是河滩上尽是小石子, 无法使鞋子不发出咯嗒咯嗒的响声来。	C	黒い雨 (黒雨)
「・・・罹災者だから当然それは許可されていいわけだ。それで、せめてものことに、今晚の君たちの夕飯と、僕のぶんを持って来よう。ここで会食しようと思っね。・・・」		「・・・因为是遭难的人, 获得批准, 那是理所当然的。这虽说只是小意思, 可我把你们今晚上的饭, 连同我的一份都打来了。打算今晚在这里聚餐。・・・」	A-1	黒い雨 (黒雨)	
「・・・会社の食堂の調達だから、貧相な献立だがね」		「・・・因为是公司食堂安排的, 所以饭菜都不大像样。」	A-7	黒い雨 (黒雨)	
	僕と矢須子は、会社へ勤めているから会社の食堂で食事をする。		我和矢须子在公司里工作, 所以在公司的食堂吃饭。	A-36	黒い雨 (黒雨)
	「まあ、何から何まで、ほんとに有難うございます」とシゲ子が畳に手をつけて、工場長の前だから東京弁で云った。		“啊, 照顾得这么周到, 实在太感谢啦!” 繁子把双手伸放在铺席上, 低头表示敬意。因为在厂长面前说话, 所以用的是东京调子。	A-7	黒い雨 (黒雨)
	気のせいかわかずに苦味があるが、純良アルコールだから匂がいい。		也许是心理作用吧, 感到有些发苦。可是, 因为是好酒精, 所以味道还算不错。	A-7	黒い雨 (黒雨)
	久しぶりの酒だから、酔うには酔ったがちっとも氣勢があがらない。		因为好久没有喝酒, 虽然醉是醉了, 但酒劲还没有上来。	A-1	黒い雨 (黒雨)
	罹災証明書は広島市の焼跡で隣組長がくれる規則だが、広島を通らないで北廻りの電車で可部・塩町経由にするのだから、証明書は持たないで行った。		受灾证书按规定由邻组的组长在广岛的废墟上当场发给。可是, 她们没有经过広島, 而是从北边绕行的电车, 经过可部和盐町走的, 因此, 没有领到证书。	A-37	黒い雨 (黒雨)
	芹は四月すぎると蛭の卵や幼虫が附着しているから、普通なら食べないことになっている。		本来, 芹菜过了四月份, 就会沾上蚂蝗的卵和幼虫, 一般就不能吃了。	C	黒い雨 (黒雨)
	横川から己斐までは一丁場だから線路つたいに歩いた。		从山本到横川仍然只能走路去。横川到己斐正好是一站, 可以沿着铁路线走。	C	黒い雨 (黒雨)
	二月下旬だから鴨も堤に群れていたが、都鳥は何百羽か何千羽の数かわからないほど群がっていた。		因为二月下旬, 野鸭也群集在河堤上。海鸭聚集之多, 不知是几百只还是几千只。	A-1	黒い雨 (黒雨)
	流れは浅いが、ぼさなど一つもなくて、透き徹った水だから清冽な感じである。		水很浅, 没有一点脏东西, 清澈的水给人以透凉的感觉。	C	黒い雨 (黒雨)
	男ばかりの部屋だから大体はおそろしく汚ない。		房间里因都是男人, 大多脏得一塌糊涂。	A-10	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	ごみ箱の底にはかびのはえたみかんの皮がへばりついているし、灰皿がわりの空缶には吸殻が十センチもつもつていて、それがくすぶるとコーヒーカップかそんなものをかけて消すものだから、むっとするすえた匂いを放っている。		垃圾篓底沾着已经发霉生毛的桔子皮, 代替烟灰缸用的空罐里烟头积了10多厘米, 里边一冒烟, 便用咖啡洒什么的随手倒进浇灭, 发出令人窒息的酸味儿。	C	ノルウェイの森 (挪威的森林)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
	汗みんな洗濯物をどどんベッドの下に放りこんでおくし、定期的に布団を干す人間なんていないから布団はたっぷりと汗を吸いこんで臭いがたい匂いを放っている。		没大家全都把要洗的东西塞到床下。没有一个人定期晾晒被褥，于是那被褥算是彻底吸足了汗水，释放出不可救药的气味。	A-38	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	こちらが身のまわりを清潔にしている限り、彼は僕に一切干渉しなかったから、僕としてはかえって楽なくらいだった。掃除は全部彼がやってくれたし、布団も彼が干してくれたし、ゴミも彼がかたづけてくれた。		只要我洁身自好，他便概不干涉。作为我，反倒有些求之不得：地板他扫，被褥他晒，垃圾他倒。	B-2	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	僕はだいたい夜遅くまで本を読み朝は八時くらいまで熟睡するから、彼が起きてだてごそごそしても、ラジオをつけて体操を始めても、まだぐっすりと眠りこんでいることもある。		我晚间看书看得很晚，一觉睡到早上8点多钟。所以即便他起来弄得簌簌作响，甚至打开收音机做广播体操，一般我都只管大睡其觉。	A-36	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「駄目だよ、屋上でやると三階の人から文句がくるんだ。ここなら下の部屋は物置きだから誰からも文句はこないし」		“那怎么成！在楼顶做，三楼的就看见了。这里因为下面房间是贮藏室，谁都不会说三道四。”		A-1	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///直子もあまりしゃべる方ではなかったし、僕もどちらかといえば自分が話すよりは相手の話を聞くのが好きというタイプだったから、彼女と二人きりになると僕としてはいささか居心地が悪かった。		///直子不怎么喜欢开口，我么，更乐意听别人说。这样，和直子单独留下来，便每每觉得坐立不安。	C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	あるいは直子が僕に対して腹を立てていたのは、キズキと最後に会って話をしたのが彼女ではなく僕だったからかもしれない。		直子对我心怀不满，想必是因为同木月见最后一次说最后一次话的，是我而不是她。	A-1	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「あなたは私ともう寝ちゃったから、私のことなんかどうでもよくなっちゃったんでしょ？」と彼女は言って泣いた。		“你和我睡过了，所以就不拿我当回事，是不是？”她哭了。		A-36	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「私がこの大学を選んだのは、うちの学校から誰もここに来ないからなのよ」と直子は笑って言った。		“我选择这所大学，是因为我的高中同学没一个人报考这里。”		A-69	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	土曜の夜にはみんだいたい外に遊びに出ているから、ロビーはいつもよりも少なくしんとしていた。		大家差不多都已外出游玩，因此大厅里比平日要多多少少寂静一些。	A-37	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	おまけに彼はハンサムで、親切で、よく気が利いたから、女の子たちは一緒にいるだけでなんだかいい気持ちになってしまうのだ。		况且，他又长得英俊潇洒，开朗热情，随机生发，因此，女孩只消和他坐在一起，便觉心荡神迷。	A-37	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「そういう立場に立ったことないから僕にはよくわかりませんね。どういものだか見当もつかないな」と僕は笑いながら言った。		“我从没遇过那种处境，不大明白，揣摸不出是怎么一番滋味。”我笑着说。		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	はっと人目を引くような美人ではないし、どちらかという平凡といつてもいい外見だったからどうして永沢さんのような男がこの程度の女と、最初は思うのだけれど、少し話をすると誰もが彼女に好感を持たないわけにはいかなかった。		她长得并不十分出众，或者不如说外表普普通通。最初我甚至想永泽怎么找这样的姑娘。然而多少交谈几句以后，谁都不能不对她怀有好感。	C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///彼女も僕のことを気に入ってくれて、僕に彼女のクラブの下級生の女の子を紹介するから四人でデートしましょうよと熱心に誘ってくれたが、僕は過去の失敗をくりかえしたくなかったので、適当なことを言っていっつも逃げていた。		///她对我也颇关心，一再说要给我介绍她们俱乐部里一个低年级女孩，四人一同约会。但我不愿意重复过去的失败，便适当敷衍几句把话引开。	C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	四月半ばに直子は二十歳になった。僕は十一月生まれだから、彼女の方が約七ヵ月年上ということになる。		到4月中旬，直子满20岁。我11月出生，她大约比我七个月。	C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「僕の方はまだ七ヵ月あるからゆっくり準備するよ」と僕は言って笑った。		“我还有七个月，可以慢慢准备好的。”我笑了笑。		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///ギリシャ悲劇より深刻な問題が現在の世界に存在するとは私には思えないが、何を言っても無駄だろうから好きにしまさい、とラ教師は言った。		///其实这并非要求，而是单方面通牒。老师说他并不认为目前世界上存在着比希腊悲剧还要悲惨的问题，但反正怎么说都无济于事，那就悉听尊便好了。	B-1	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・どうしても抜けられない大事な用事ができちゃったの。それも朝になって急にだから、どうしようもなかったのよ。・・・」		“出了一件大事，缠得我怎么也不得脱身，又是当天早上突然发生的，实在一点办法都没有。・・・？”		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・まあまだ始まってない子もいるから九百人として、そのうちの五分の一が生理中として、だいたい百八十人よ、ね。で、一日に百八十人ぶんの生理ナプキンが汚物人れに捨てられるわけよね」		“・・・有的还没开始，就算九百人。假定其中五分之一来月经，大致就是一百八十人，就是说，每天要往垃圾筒里扔一百八十人用的卫生带，是吧？”		B-1	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・子供を東京の私立大学にやるのはけっこう大変だと思うけど、まあ子供は一人だから問題はない。・・・」		“・・・送儿子到东京读私立大学，我想怕是不够力气的。好在子女只我一个，还不成问题。・・・”		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
緑は面白そうだから一度是非その寮を見てみたいと言った。		绿子说既然如此逗人，那就到宿舍看看好了。		A-22	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「冷蔵庫にビールが入ってるから、そこに座って飲んでくれる？」と緑がちらっとこちらを見て言った。		“电冰箱里有啤酒，坐在那里喝可好？”绿子眼睛朝我忽闪一下。		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)
「あなた関西の人だからそういう味つけ好きでしょ？」		“你是关西人，喜欢这味道吧？”		C	ノルウェイの森 (挪威的森林)

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
「・・・まな板の運び方、包丁の研ぎ方、魚の岩ろし方、かつおぶしの削り方、何もかもよ、そしてその本を書いた人が関西の人だったから私の料理は全都関西風になっちゃったわけ」		“///・・・包括菜板的选法，菜刀磨法、鱼的切法、干松鱼的削法，一切一切。由于写这本书的人是关西人，我做的菜也就跟着成了关西风味。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「お姉さんがいやいややってるの。近所に住んでる親戚のおじさんが毎日手伝ってくれて配達もやってくれるし、私も暇があれば手伝うし、まあ書店というのはそれほど重労働じゃないからなん」		“姐姐在半死不活地管着。住在附近的伯父每天都来帮忙，还去送货。我有时间也帮把手，反正开书店也不是什么重活儿，怎么都干得了。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「今は風向きが逆だからいいけど、いつ変わるかもしれないし、すぐそこがガソリンスタンドだものね、・・・」		“我看最好把贵重的物品收拾收拾，这里也得避一下难。”我对绿子说。“现在风向相反，但不知什么时候转过过来，而且加油站就在跟前。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・手伝うから荷物をまとめなよ・・・」		“・・・收东西吧，我来帮忙！・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・なんの勘のといっても実のお父さんお母さんだから、死んじやったり別れちゃったりしたら悲しいだろうって。」		“不管怎么说我是生我养我的父母，要是死了或分开了，该悲伤才是。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
	断るのも面倒だったし、まあ暇でもあったから僕は近くの自動販売機で日本酒を何本かつまみを適当に買い、彼女たちと一緒にそれを抱えて西口の原っぱに行き、そこで即席の宴会のようなものを開いた。		“拒绝吧又要找借口，也罢，反正还有时间，便到附近自动售货机跟前买了几瓶日本清酒和一些下酒菜，和她们一起抱在怀中，走到西口原叶那里，开了个席地宴会。”	B-2	ノルウェイの森（挪威的森林）
とても広いところですから、これは決して多い数字ではありません。		“・・・这儿的面积非常大，因此这个数字绝不算多一一・・・”		A-37	ノルウェイの森（挪威的森林）
///あまりにも穏かなのでときどきここが本当のまともな世界なんじゃないかという気がするくらいです。でももちろんそうではありません。私たちはある種の前提のもとにここで暮らしているから、こういう風にもなれるのです。		///由于过于悠闲了，有时我甚至怀疑这不是活生生的现实世界。当然实际并非如此。我们是在某种前提下在这里生活的，以致才会有这种感受。”		A-90	ノルウェイの森（挪威的森林）
	僕はそれまでも暇になると何度も小旅行をしていたから、寮長もまあと言っただけだった。		“一这以前我也往往一有空就出去做短途旅行，因此管理主任只“啊”了一声。”	A-37	ノルウェイの森（挪威的森林）
「私、胃が小さいから少ししか入らないの。・・・」		“我么，胃小，只能装一点点。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・でも本当は私も患者なの。でも七年もここにいてみんなに音楽教えたし事務手伝ったりしてるから、患者だからスタッフだかわかんなくなっちゃってるわね、もう、直子、私のことあなたに教えなかった？」		“其实我本人也是患者。在这里一呆都七年了，平时教教大家音乐，帮忙做点事务性工作。结果就闹不清是职员还是病人了。我的事，直子没告诉你？”		A-65	ノルウェイの森（挪威的森林）
もつともここに入るのには結構高いお金かかるからそのへんはコミュニケーションとは違うけど」		“只是这里收费相当高，这点又跟公社有所区别。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「馬鹿高くないけど、安くはないわね。だってすごい設備でしょ？場所も広いし、患者の数は少なくて、スタッフは多いし、私の場合はもうずっと長くいるし、半分スタッフみたいなものだから入院費は実質的には免除されてるから、まあそれはいいんだけど。ねえ、コーヒー飲まない？」		“倒不是高得离谱，可也不便宜。瞧，多气派的设施啊，地方大，患者少，职员多。就我来说，长久以来就呆在这里，加之差不多多半个工作人员用，住院费才实质上等于免除，倒还算是不错。喂，不喝咖啡？”		B-19	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・みんな自分が不完全だということを知っているから、お互いを助けあおうとするの。・・・」		“・・・每个人都知道自己的不健全，因此都想互相帮助。・・・”		A-37	ノルウェイの森（挪威的森林）
///・・・あなただってここにいる間は私達の一員なんだから、私はあなたを助けるし、あなたも私を助けるの」レイコさんは顔中のしわをやさしく曲げて笑った		///你在这儿的时间里就是我们当中的一员，我帮助你，你也帮助我。”玲子和蔼地牵动脸上的皱纹，笑道。		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「それからこれは規則で決ってることだから最初に言っておいた方が良さと思うんだけど、あなたと直子が、一人つきりになることは禁じられているの、これはルールなの。部外者が面会の相手と二人つきりになることはできないの。」		““此外，这里有条规定，我还想是一开始就挑明为好，就是禁止你同直子两人单独在一起。这是守则，外面的人同会面对象不能独处。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「私と直子の部屋よ、もちろん」とレイコさんは言った。「部屋もわかれているし、ソファ・ベッドあるからちゃんと寝られるわよ、心配しなくても」		“我和直子的房间呀，这还用说。”玲子说，“房间是分开的。而且有个沙发床，保管你睡得香甜，放心就是。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
レイコさんも煙草をくわえたまま笑った。「でもあなたは素直な人よね、私、それ見ればわかるわ。私はここに七年いていろんな人が行ったり来たりするのを見てからわかるのよ。うまく心を開ける人と開けない人の違いがね、・・・」		“玲子也叼着烟笑了。“不过，你是个诚实的人。我，一眼就看出来了。我在这里住了七年，来来往来的很多人我都见过，我会看人，知道肯掏心的人和不掏心的人的区别。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・養鶏場もあるから玉子も手に入るし。・・・」		“・・・有养鸡场，鸡蛋手到擒来。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「私はとくべつ扱いだから今こうして自由にしてくれけど、普通の人はみんなそれぞれのカリキュラムに従って行動してるの。・・・」		“我受特殊优待，现在才这样自由自在。一般人是都要按日程表活动的。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「あなたはここの冬を知らないからそう言うのよ」		“你不知道这里的冬天才这样说。”		B-6	ノルウェイの森（挪威的森林）
「私たちが寝室で寝るから、あなたここで寝なさい。それでいいでしょ？」		“我们在卧室睡，你在这儿睡，可以吧？”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
「私たちが五時頃にここに戻ってくると思う。それまで私にも直子にもやることがあるから、あなた一人だけで待っていてほしいんだけど、いいかしら？」		“我们大约5点钟回来，我和直子都还有事要做。你得一个人这里等着，不要紧吧？”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「いいですよ、ドイツ語の勉強してますから」		“不要紧，反正可以学德语。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「面倒だからレイコさんに刈ってもらってるよ。本当にそう思う？可愛いって？」		“我嫌麻烦，就请玲子剪掉了。你真觉得很可爱？”		B-1	ノルウェイの森（挪威的森林）
「今日は北極熊がお星様を食べたから明日は雨だ！」		“今天北极熊吞食星座所以明日有雨吧？”		A-36	ノルウェイの森（挪威的森林）
「みんなすごく静かに話しているから、いったいどんなことを話しているのかなあとふと思っただけです」		“我看大家说话都那么小声细气的，心里就不由纳闷他们在谈什么。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「ここは静かだから、みんな自然に静かな声で話すようになるのよ」		“因为这里静，所以人们说起话来声音自然就放低下来。”		A-7	ノルウェイの森（挪威的森林）
「まさか、こんなに明るい月を見たのは久しぶりだったから電灯を消してみたんですよ」		“那怎么能。好久没看见过这么亮的月光，就把灯关了。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「・・・独学だし、それに指がギター向きになってないからなかなかうまくならないの。・・・」		“・・・纯属自学，加上手指对吉他还不适应，弹得很不成样子。・・・”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「この曲いちばん好きだから、とくにそうしてるの。心してリクエストするの」		“因为我最喜欢这支曲，才特意这么做的，表示打心眼里喜欢。”		A-2	ノルウェイの森（挪威的森林）
「しばらく一人で横になってしば落ちつくから心配しなくてもいいのよ。ちょっと気がたかぶただけだから。ねえ、そのあいだ私と二人で少し外を散歩しない？」		“独自躺上一会儿就会安静下来，别担心，只是心情有点激动。嗯，我们两人到外面散散步可好？”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「怒らないでよ。冗談で言っただけだから。ねえ、本当はどうなの？どんなことが得意の？」		“别生气，开个玩笑。喂，到底怎样？什么东西拿手？”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「何も、大丈夫よ、何も間違っていないから心配しなくていいわよ。なんでも正直に言いなさい。」		“根本没有。不要紧，就算有什么失言也用不着担心，只管照实直说。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「//彼はその事情を聞きながら、私は全部正直に説明したわ。」		「//・・・他说他想听那缘由，我便毫不隐瞒地全都告诉了他。・・・」		B-2	ノルウェイの森（挪威的森林）
「//少し考えさせてほしいって彼が言うからどうぞゆっくり考えて下さいって私言ったの。」		「//他说让他再想一下，我说尽可能慢慢考虑，万万仓促不得。」		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「//『私、まだ誰も寝たことないけれど、あなたのことは大好きだから、私を抱きかかれば抱いて全然構わないのよ。でも私と結婚するっていうのはそれとはまったく別のことなのよ。』」		「//『我，还没同任何人睡过觉，但因为我最喜欢你，要是你想抱我，那是一点关系都没有的。但同我结婚就完全是另一回事。』」		A-1	ノルウェイの森（挪威的森林）
「テストか、課題曲だからとか人を感心させるためとか、そんなためばかりにピアノを弾きつづけてきたのよ。」		“或者为通过考试，或者因为为是课题曲，或者为使别人感动。弹来弹去为的就是这些。”		A-1	ノルウェイの森（挪威的森林）
「でも普通ならあれ、変だな、おかしいな、と思うところでも、その子は頭の回転がおそろしく速いから、人の先にまわってどんどん手をくわえていくし、だから相手は全然気づかないのよ。」		“若是一般情况，肯定会使人生疑；而那孩子由于头脑转得快，早抢在别人生疑之前弥合得天衣无缝，因此对方根本察觉不出来。”		A-15	ノルウェイの森（挪威的森林）
「もし話のつづき聞きたいのなら明日話してあげるわよ。長い話だから一度には話せないのよ」		“要是你想接着听，明天再讲吧。话长，一次讲不完的。”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「でも今日は大丈夫よ、少しくらい遅くなっても」と直子は言った。「久しぶりだからもっとお話ししたいもの。何かお話しして」		“不，今天没关系，哪怕晚一些。”直子说，“好久不见了，想再谈一会。你说点什么可好？”		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「//私たちがさっきも言ったように性に対しては一貫してオープンだったし、自我にしたってお互いで吸収しあったりわけあったりすることが可能だったから、とくに強く意識することもなかったし、私の言ってる意味わかる？」		「//总刚才也说过，我们对性一贯是开放的。至于自我，由于可以相互吸收和分担，也没有特别强烈的意识到。我说的意思你明白？」		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「成長の辛さのようなものをね、私たちは支払うべきときに代価を支払わなかったから、そのつけが今まわってきてるのよ。」		“偿还成长的艰辛。我们在应该支付代价的时候没有支付，那笔帐便转到了今天。”		B-2	ノルウェイの森（挪威的森林）
「ねえ、明日は午後のカリキュラムをいくつかパスできるようにしておいたから、私たちピクニックに行きましょうよ。近所にとってもいいところがあるのよ」とレイコさんが言った。		“噢，明天下午安排了几项活动，我们去野游好了。附近有个很不错的地方。”玲子道。		C	ノルウェイの森（挪威的森林）
「このヒト、一度独りにひどい目にあわされたもんだから、猫が怖くて怖くてしょうがないのよ」とレイコさんは笑って言った。		“这小家伙，有一次给猫吓个半死，那以后就怕猫怕得什么似的。”玲子笑道。		C	ノルウェイの森（挪威的森林）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	あまり見ていて面白い仕事でもないし、他の人たちとの共同作業だからあなたはここに残って本でも読んでいた方がいいでしょうとレイコさんは言った。		玲子劝我留在这里看书或做点什么算了, 因为去看也没大意思, 又是跟其他人共同作业。	A-1			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「それから洗面所に私たちの汚れた下着がバケツにいっぱいあるから洗ってしてくれる?」とレイコさんが言った。		“看完书, 盥洗室桶里满满装着我们的脏内衣内裤, 清洗可好?” 玲子说。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「いい子ね、お昼前には戻ってくるからちゃんと勉強してるのよ」とレイコさんは言った。		“乖孩子, 我们等不到中午就回来, 可得好好用功哟!” 玲子说。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「三分の二は来だからもう少しよ。あなた男の子でしょ? しつかりしなくちや」とレイコさんが言った。		“三分之二了, 不多了。你是男孩子吧? 顶得住才行!” 玲子说。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「もう二十歳近くになっているんじゃないかしら、歯が弱ってるから固いものは殆ど食べられないの。いつもお店の前で寝てて人の足音が聞こえろととんできて苛えるの」		“估计都有20岁了, 牙齿不中用, 硬东西几乎啃不动。总在店前躺着, 一听到人的脚步声, 就窜上去撒娇。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「耳遠いから、もっと大きな声で呼ばんと聞こえへんよ」と女の子は京都弁で言った。		“耳聋, 得再大声点才能听见。” 女孩儿的话带有京都味儿。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「私、ここでラジオ聴いて彼女とおしゃべりしてるから、三時までに戻ってくれば、それでいいわよ」		“我在这儿听收音机, 和她聊天, 3点前转回就可以了。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「本当はいけないんだけど、まあいいじゃない。私だってつきそばあさんじゃないんだから少しはのんびりしたいわよ、一人で・・・」		“照理是有关系的, 也就算了吧。我又不是守护婆, 也想一个人轻松一下。・・・”	B-3			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	・・・それにせつかく遠くから来たんだからつもの話もあるんでしょ?」とレイコさんは新しい煙草に火をつけながら言った。		“更何况你大老远来一趟, 也攒了一肚子话要说吧?” 玲子边说边重新点燃一支香烟。”	B-3			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	勉強もいちばんならスポーツもいちばん、人望もあって指導力もあって、親切で性格もさっぱりしているから男の子にも人気があって、先生にもかわいがられて、表彰状が百枚もあってという女の子だった。		学习第一, 体育第一, 又有威望又有领导才能。性格热情开朗, 在男孩子中间也很有缘, 也很受老师喜爱, 得的奖状足有一百张。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///でも自分のお姉さんだから言うわけじゃないけれど、・・・		///“・・・不过, 倒不是因是自家姐姐才这样说。”・・・	A-13			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	私がピアノのレッスンから戻ってくるのと六時半で、お母さんが夕食の仕度してて、もうごはんだからお姉さん呼んできて言ったの。		“・・・我练完钢琴回来是6点半, 母亲正在准备晚饭, 让我叫姐姐吃饭・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「昨日はもう少ししてるところまでだったから、今夜はきちんと最後までやっちゃいましょうね」		“昨天还差那么一点点, 今晚搞利索算了。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	彼女はいちばん上の一房をとって僕に手わたしてくれた。「それ洗ってあるから食べられるわよ」		她取出最上头的一串递给我: “已经洗过, 吃好了。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「あなたって真剣な顔して冗談言うからおかしいわねえ」とレイコさんはあきれたように言った。		“你这人也真怪, 开玩笑还一本正经的。” 玲子有些愕然。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	それに彼女の通っていた学校はまずまずの成績をとってれば大学までエスカレーター式に上っていける女子校で、それほどがつつ勉強する必要もなかったからお母さんの方だて『のんびりとおけいこ事でもして』ってなもよ。・・・		“况且本人也没想当音乐家, 这样我教起来也格外轻松省力。加上她就读的学校差不多是一所预科式女校, 只要成绩说得过去, 就可直接升入大学, 用不着拼死拼活地用功, 她母亲也叫她只管尽情学点课外的算了。・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///押しつけられるのは嫌な子なんだなって最初会ったときに思ったから。		///而她又讨厌别人这样做, 这点刚见面我就看出来来了。・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///これは悲劇よね、まあ私にもいふぶんそういうところはあったんだけど、幸いなことに私の先生はずいぶん厳しい人だったから、まだこの程度ですんでのよ。		///这是悲剧。说起来, 我也多多少少有这种情形, 幸亏我的老师管得严, 才保住了如今这个程度。”	B-6			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///小さい頃から賞められ馴れてるから、いくら賞められたってまたかと思うだけなのよ。」		因从小就听惯夸奖话了, 再多夸她也不以为然。・・・”	A-10			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///とにかくね、人の感情を刺激して動かすのが実に上手い子なの、そして自分でもそういう能力があることを知っているから、できるだけ巧妙に有効にそれを使おうとするのよ。		///总之, 她是个非常会耍手腕来刺激别人感情的孩子。并且本人也知道自己有这种才能, 最大限度地加以巧妙而有效的利用。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///うちのソファってすごく小さかったから、寝室に寝かせないわけにいかなかったのよ。		///家里的沙发小得可怜, 只能让她躺进卧室。・・・”	B-22			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	見るとすごく汗かいているから、私一所懸命背中さすってやったの。・・・		“一看, 汗出得很厉害, 我就使劲给她搓背。”	B-1			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	仕方ないから私、その子の頭を抱いて撫でてあげたわよ、よしよしてね。		“无奈, 我抱着抚摸着她的头, 连声答应说: 好的好的。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)

原文		訳文		分類一覧		作品名
会話文	地の文	会話文	地の文			
「あなたには話した方がいいと思うから話してるけれど、私だってすごく恥かしいのよ、これ」		“我觉得还是对你说了好，可毕竟难以启齿得很，这种事。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「体のずうっと奥の方から心臓の鼓動がコトコトって鈍い音で聞こえて、手足がいやに重くて、口が蛾でも食べたみたいにかさかさして、でも子供が帰ってくるからとにかくお風呂に入ろうと思って入ったの。」		“只听得从体内很深很深的地方传来心脏‘突突’的跳声，手脚沉重得出奇，口中就像吃过飞蛾似地干苦干苦。但想到小孩就要回来，不管怎样得先洗个澡，把身体洗得一千二净。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
私もそういう病人だたちをたくさん見てきたからよくわかるの。		“这种病人我看得多了，心里有数。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「大丈夫よ、ぐっすり眠りこんでるから。あの寝ちゃうとまず起きないの」と直子は言った。		“没关系，睡得实实的。那人睡过去一般醒不来。”直子说。		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・息子が東京におって一回くらい来いというから行ったんですわ。・・・」		“・・・儿子在东京，叫我去一次看看，就去了。・・・”		B-1		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「いいのよ、べつに、幻想なんだから。するとね、あなたはすごく哀しそうなの。そして私、可哀そうだから慰めてあげるの。よしよし、可哀そうになって」		“行了，你。幻想嘛！那一来，你显得十分沮丧。我看你太可怜了，只好慰劳一下说，‘好好，瞧你那饿样儿。’”		B-9		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「そして一時間後には海に放り込んでやるから、それまでその格好でたっぶり楽しんで言って船倉に置き去りにされるの」		“一小时后把你们扔进大海。在那之前让你们单独呆在船舱里好好受用，海盗说。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「これから顔を洗って髭を剃ってくるから十五分くらい待ってくれる?と僕は言った。」		“就去洗脸刮胡子，能等15分钟?”我说。		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「ワタナベ君は私のこと考えてやったことある?正直に答えてよ、怒らないから」		“可想着我搞过?老实交待，我不生气。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「まず第一に僕は君のことを友だちだと思ってるから、そういうことにまきこみたくはないんだよ。そういう性的な幻想にね。第二に——」		“首先我把你当朋友，不想你卷到里边去;第二……”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・これ友だちだから頼むのよ。・・・」		“我们是朋友，所以才求你。・・・”		A-83		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「まあついてらっしゃいよ、そうすればわかるから」		“跟我来就是，跟我来就明白了。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「僕は君ほど勘が良くないから、ある程度系統的なものの考え方を身につける必要があるんだ。鴉が木のほかにガラスを貯めるみたいに」		“我没有你那么好的直感，就要在某种程度上掌握系统考虑事物的方法，就象乌鸦往大树洞上贮存玻璃片一样。”		B-1		ノルウェイの森 (挪威的森林)
///で、まあ仕方ないから私一所懸命マルクス読んだわよ、家に帰って。・・・		///没法儿，一回家我就玩命地读。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「ディスカッションってのがまたひどくってね、みんなわかったような顔してむずかしい言葉使ってるのよ。そして私わかんないからそのたびに質問したの。・・・」		“讨论的时候就更加不可一世。一个个无不摆出无所不通的架势，玩弄一大堆玄而又玄的词句。我莫名其妙，就接连发问说:・・・”		B-1		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「きあどうかな、僕は実際に革命を目にしたわけじゃないからなんとも言えないよね」		“这一一，怎么说呢？我又没亲自目睹过革命，无可奉告。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「お母さんの病気と同じだからよくわかるのよ。脳腫瘍。・・・」		“这个瞒不过我，因为和妈妈得同一种病，脑肿。・・・”		A-1		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「まあ仕方ないわね、手術の直後だからそりゃ痛むわよ。・・・」		“那也是没办法的。刚动过手术，肯定痛的。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「五時までは大丈夫だからずっといるよ」と僕は言った。「君と一緒にいるのは楽しいし、他に何もやることもないもの」		“5点以前没问题，奉陪就是。”我说，“和你在一起挺有意思的，况且我又没事可干。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「どうぞ、君の想像することって、面白そうだから是非聞いてみたいね」		“只管说。你想像的东西怕是很逗儿，我洗耳恭听。”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・平日の昼下がりに、ワタナベ君と二人で体を食らうの。でも日曜日は御主人が家にいるからあなたと会えないの。違う?」		“・・・平日一到下午，就和你大动干戈。但星期天丈夫在家，所以不能会你。对不?”		A-36		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「ものすごく飢えてるからもうやれることはなんだってやっちゃうの。・・・」		“由于欲火中烧，自然大凡能干的一律不放过。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「手術後まもないし痛み止めの処置してあるから、まあ相当消耗はしてるよな」と医者は言った。		“手术刚完不久，正采取止痛措施，身体消耗得相当厉害。”医生说。		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
///私おじいさん、おばあさん、お母さん、お父さんと四人看病してきたからよく知ってるのよ。・・・」		///爷爷、奶奶、妈妈、爸爸，四人的病我一直照看下来的，经验丰富着哩。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「ただね、あの人が今ちょっと頭がおかしくなり始めてるからときどき変なこと言いだすのよ。・・・」		“只是，他脑袋已开始不大正常，常说怪话。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)
「まあ手術のあとだから仕方ありませんよね。・・・」		“刚做完手术，不可能不痛。・・・”		C		ノルウェイの森 (挪威的森林)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
「・・・僕は手術なんてしたことないからどういふもんだかよくわからないけれど」		“我没做过什么手术，不晓得是什么滋味。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「切符のことも緑さんもちゃんとしますから大丈夫です、心配しなくてもいいですよ、と僕が言うのと彼は手を下におろし、ぐったりと目を閉じた。」		「我订票也好绿子也好我都一定尽心尽力，只管放心好了。他这才放下手，如释重负般地合上双目，发出睡觉的声音。」		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「とにかくその四つの言葉の順番がぐしゃぐしゃだから意味がよくわからないんだ。上野駅で何か思いあたることない？」		“总之这四个词的顺序挺不好安排，弄不清含义。上野车站方面可有什么想得起来的事？”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「よくわからないから、心配ない、大丈夫、緑さんも切符もちゃんとやるから大丈夫ですって言ったけれど」		“我不明白他的意思，就说放心好了，没关系，绿子也好票也好我尽心尽力就是，没关系的……”		B-1			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「大丈夫よ、冗談だから。・・・」		“别害怕，开玩笑，・・・”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「これもうすぐ終るから待ってろよ」・・・		“马上就结束，等等。”・・・		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・そういう意味では俺はひどい人間だから、それが嫌なら別れるってちゃんとやってる」		“・・・在这个意义上，我这人可谓不近人情，我早已告诉她，如果不愿意，那就各奔东西。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「まさか」と僕は笑って言った。「誰もあんなもの気に入ってやしませんよ、仕方ないから食べてるんです」		“不至于吧。”我笑道。“其实哪个人也谈不上喜欢，都是迫不得已的。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「愛じゃないよ、ワタナベは君のことが好きなんだから」		“怪什么，渡边喜欢你的嘛。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「せっかく来たんだからデザートも食べていけば」と永沢が言った。		“好容易来一趟，点心还没吃咧！”永泽说。		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「俺はハツミを送っていくから、お前一人であとやってくれよ」		“我送送初美，你一个人回去吧。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「友だちと玉を撞いたその夜に彼が死んじゃったから、それでよく覚えてるんです」		“一个朋友就是和我打桌球那天夜里死的，所以记得很确切。”		A-36			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「上野駅、今から新宿に出るから待ちあわせない？」		“上野车站。这就去新宿，能在那等我？”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
///気が抜けて涙も出やしないのよ、本当に。でもそうするとね、まわりの人たちはあそここの娘たちは冷たい、涙も見せないってかげぐちきくの、私たちだから意地でも泣かないの・・・」		///都累得疲力尽，哭都哭不出来了，心里空洞洞的。根本流不出眼泪，真的。可这样一来，四周人就会暗地里说坏话，说我们姐妹俩心肠硬，连个泪珠都没掉。・・・”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・みんなが私たちの泣くことを期待してるから、余計に泣いてなんかやらないの。・・・」		“・・・大家越是指望我们哭，我们越是不给他们哭。我和姐姐在这点上倒是配合默契，尽管性格大相径庭。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「・・・酔いたいから酔っ払ってるのよ。・・・」		“・・・我是想醉才喝醉的，・・・”		B-6			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「名札をうまく在室の方にかかえておくから心配しないでゆっくりやってくいよ、明日の朝俺の部屋の窓から入ってくりゃいい」と彼は言った。		“我把姓名卡巧妙地换在你在室位置上，你只管放心大胆地寻欢作乐，明早从我窗口爬进来。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「うん、いないわよ。お姉さんも友だちの家に泊りに行ってないわよ。彼女のすごい怖がりだから、私がいなくて一人家で寝たりできないの」		“嗯，没有。姐姐不在，去朋友家住了。一个十足的胆小鬼，我要是不在，她不敢一个人睡在家里。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「私たちこれから楽しくやるから、安心して寝てなさい。・・・」		“我俩这就寻欢作乐，您放心睡就是了。・・・”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
///ただどこかに行かないわけにはいかないから、一歩また一歩と足を運んでいるだけだった。		///我之所以一步步挪动步履，只是因为我必须挪动，而无论去哪里。		A-66			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「ゆっくり考えればいいよ」と僕は言った。「いずれにせよ僕は三月までには引越すから、君はもし僕のところに来たいと思えばいつでもいいから来ればいいよ」		“慢慢想一想。”我说。“反正我到3月才搬。只要你愿意去我那里，什么时候都可以。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「それは精神的なものだから、時間が経てばうまくいくよ。あせることないさ」		“精神作用，时间一长自然会好的，不用性急。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「家主は表口を使い、僕は裏口を使うからプライバシーを守れることもできた。」		“房东走正门，我走后门，隐私也可得保护。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「冗談だよ」と永沢さんは言った。「ま、幸せになれば、いろいろとありそうだけれど、お前も相当に頑固だからなんとかうまくやれると思うよ。ひとつ忠告していいかな、俺から」		“是玩笑。”永泽说，“反正好好干吧，困难不会少，但你这也固执得可以，我想总会成功的。给你个忠告可以么？”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「電車の中でゆっくり本を読めるからかえって良いかもしれません」		“而且可以在电车中悠然看书，因祸得福也未可知。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「説明するから出してもらえませんか」		“我解释一下，请她出来好么？”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
「じゃあちょっと今説明しますから、申しわけないけど伝えてもらえませんか、緑さんに」		“那我就现在解释几句，请你转告一声，转告绿子。”		C			ノルウェイの森 (挪威的森林)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	四月六日に緑から手紙が来た。四月十日に課目登録があるから、その日に大学の中庭で待ちあわせて一緒にお昼ごはんを食べないかと彼女は書いていた。		4月6日緑子来了封信。信上说4月10日去登记选课, 届时我要在学校前院等地一同吃午饭。	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	返事はうんと遅らせてやったけれど、これでおあいこだから仲直りしましょう。		她说:“拖这么久才回信, 这样也就彼此彼此了, 还是和解吧。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「僕の方が悪かったんだから仕方ないさ」と僕は言った。		“怪我不是, 有什么办法。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	なかなか可愛くまいったから久しぶりに会って驚かそうと思ったのに、気がつきもしないなんて、それはあまりじゃないですか?・・・		我自以为十分可爱, 加之久未见面, 本想吓你一跳, 然而你根本无动于衷, 这岂不太让人过意不去?・・・	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「それはよく知ってるよ。何度も聞いたから。・・・」		“这我知道, 不知听多少遍了。・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	彼女についての情報は私の方にも入ってきますから、何かあったら知らせるようにします。		我这边也会得到直子的情况, 届时再告诉你,	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	緑は水たまりの中に煙草を投げこんだ。「ねえ、そんなひどい顔しないでよ。悲しくなっちゃうから。大丈夫よ、あなたに他に好きな人がいること知ってるから別に何も期待しないわよ。・・・」		“绿子把烟扔进水洼。“喂喂, 别阴沉着脸, 叫我看看着难爱。你放心, 知道你另有心上人, 我什么都不指望。・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「・・・いろんな問題が絡みあっていて、それがずっと長いあいだつづいているものだから、本当はどうなのかというのがだんだんわからなくなってきているんだ。」		“千头万绪, 而且由于天长日久, 实情都渐渐变得模糊不清, ...”	A-15			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「うちにいらっしゃいよ。今誰もいないから。このままじゃ風邪引いちゃうもの」		“去我家! 家里谁也不在。这样非伤风不可。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「どう変えればいいのかわからないから、そのままでもいいよ」		“也不知道让你怎么改好, 索性就这样好了。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「・・・ほら妊娠中の女の入ってあれやれないから、その期間御主人が浮気しないようにいろんな風に処理してあげるのが特集してあったの。・・・」		“・・・跟你说, 妇女怀孕时干不成那事, 为了使丈夫那期间里不在外头胡搞, 就搜集各种各样的处理办法。・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	下の方は海苔巻きと稲荷だから明日のぶんにしろよ、と彼は言った。		“下面的饭卷是海菜和油炸豆腐包的, 明天再用。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「あさっての新幹線で三十分前に東京駅に着くから迎えに来てくれる?・・・」		“后天乘新干线去, 3点20分到东京站, 能去接我?・・・”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「自分で荷物も整理したいし、私も当分会えないから一度ゆっくり話もしたいし、できたら一泊くらいできないかっていうことなの。・・・」		“说直子想自己事理一下东西, 还很想同我好好聊聊, 因为短时间内再见到我。可以的话, 想住一个晚上。・・・”	A-1			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	///パンツまでぐっしょりだったから、あなたちよっと脱いじやなさいよって脱がせて・・・ねえ、変なんじゃないのよ。だって私たちずっと一緒にお風呂だっかってるし、あの子は妹みたいなものだし」		///见她三角裤也湿透了, 就叫她脱下来……噢, 这没什么奇怪的, 我俩一直一块儿洗澡, 那孩子就像我妹妹似的。”	B-1			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	僕はよくわからないというように首を振った。「直子が死んじゃったから物事は落ちつくべきところに落ちついちゃったってこと?」		我摇摇头, 表示还有疑问。“你是说由于直子的死, 事情算是已经落实到该落实的地方了?”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「・・・あなたは緑さんを選び、直子は死ぬことを選んだのよ、あなたもう大人なんだから、自分の選んだものにはきちんと責任を持たなくちゃ。そうしないと何もかも駄目になっちゃうわよ」		“・・・你选择了绿子, 直子选择了死。你也已是成年人了, 要对自己的选择负责才是, 要不然一切都将不可收拾。”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「いいわよ、脱がせて」と彼女は言った。「でも私しただけだからがっかりしないでよ」		“也好, 我来脱。不过我满身皱纹, 可别失望啊!”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「私もう一生これやなくていいわよね?」とレイコさんは言った。「ねえ、そう言っよ、お願い。残りの人生のぶんはもう全部やっちゃったから安心しなさいって」		“我一辈子不用干这事都可以了吧?” 玲子说, “喂, 说呀, 求求你, 就说后半生那份儿也全都干完了, 只管放心!”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	「私、あなたに忠告できることは全部忠告しちゃったから、これ以上もう何も言えないのよ。・・・」		“能忠告的, 我都忠告给你了, 再没有任何可说的了——”	C			ノルウェイの森 (挪威的森林)
	だが、そのせつかくのうがった推理も、事実として、死体が発見されなかったのだから、問題にはならなかった。		尽管他特地作出了周密推理, 但没有事实依托, 未发现尸体, 也就成不了气候。	B-3			砂の女 (砂女)
	しかし、目指す砂丘にたどりつけたのだから、これでいい。		自己费了好大劲儿, 好不容易才找到目的地的沙滩, 所以, 眼下只好将就就将就喽。	A-36			砂の女 (砂女)
	「気がねはいらんから、ゆっくり休んで下さい……」		“您别客气, 好好休息吧……”	C			砂の女 (砂女)
	「いいんですよ、気になさらなくて……本当に、おせっかいなんだから、あいつらときたら……」		“算了吧, 您可别在意哟……真是多管闲事, 那些家伙呀……”	C			砂の女 (砂女)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	信じがたいことだった。昨夜あったはずのところから、縄梯子が消えていたのだ。		简直难以置信。昨天该有绳梯的地方，竟然空空如也！	C			砂の女（砂女）
	おれは、馬や牛じゃないのだから、意志に反して、むりやり働かせるわけにはいかない。		咱可不是牛马，不可能违背个人意志，强迫咱劳动呀。	C			砂の女（砂女）
	「・・・どうせ、こんなふうですから、他人の眼を気にすることもありませんし……」		“……反正就这副模样了，也不在乎别人怎么瞧……”	C			砂の女（砂女）
	「まあ、しばらく、がまんしてもらったんだ。モッコの連中が戻ってくるまでの辛抱だ。ぼくがさんざん舐めさせられた、でたらめと比べりゃ、文句を言えた義理じゃあるまいさ。それに、宿泊料も、ちゃんと払わせていただきますしね……もっとも、こっちで勝手に計算させてもらった、実費だけね……かまわないでしょう？……かまうもんか！……本来なら、只が当然のところなんだが、そんなことで帳消しにされちゃかなわないから、むりやり置いていってやるんだ。」		“那么，请你暂时忍耐些吧。要坚持到大网监的家伙们回来呢。我可是饱尝辛酸喽，和那些人作的荒唐事比较起来，你可没有发牢骚的道理吧。而且我还要付给你住宿费呢……只能照本来由我大致推算的实际费用呀……这可以吧……当然可以咯！……本来嘛应该不付钱的，但因这事你的帐摆不平，所以，我硬是要放下钱给你的。”	A-36			砂の女（砂女）
	「しかたがないさ、自分でまいた種なんだから……」思わず、気ぜわしげな早口で、「だまし合いは、お互いさんまだらう？ こっちだって、人間なんだから、犬に鎖をつけるようには、簡単にいかないってことさ……誰が見たって、立派な正当防衛だよ。」		“实在没法子，是你们自己播下的种子……”他禁不住心急慌忙，快嘴快舌地说“互相欺骗，这下该扯平了吧？我可是人呐，不可能象狗那样能简单上一把锁……谁见了，都会觉得我这是出色的正当防卫。”	C			砂の女（砂女）
	「まだ分らないのか！ 口で言っただけ、分りそうにないから、分るようにしてやったんじゃないか！ ・・・」		///“还不明白吗！嘴上说了不明白吧，我不是做了叫你们看嘛！……”	C			砂の女（砂女）
	「でも、なかなか、きつい仕事ですから、とてもそんな時間はありませんしねえ・・・」		“可是，干的是十分辛苦的活，实在没有时间哇……”	C			砂の女（砂女）
	……それに、部落のためにもなっていることですから、部落会の方で、費用ももっていただけるんですよ。」		……再加上又是为了村子干的，所以，都是联合组织拿出钱来买的哟。”	A-36			砂の女（砂女）
	逃げられなかったから、逃げなかった……おそらく、それだけのことなのだ。		因为逃不了，所以没有逃走。……恐怕就这么简单。	A-7			砂の女（砂女）
	「なんとか、ならないのか！ 自分だってつらいんだろう？ こっちも、縄を解いてやったんだから、なんとかしろよ！」		“不能想想办法吗！你自己不也难受嘛？我这头已经给你解开了绳子，你就不能做些什么嘛！”	C			砂の女（砂女）
	よくも、こんなぶよぶよの家が建ていられたものである……傾き、ゆがみ、半身不随になりながら……もっとも最近では、紙やビニールだけの家でも建つらしいから、ぶよぶよには、ぶよぶよなりの、力学的構造というものがあるのかもしれないが……		真亏造得出这种软不遑的房子……倾斜、歪扭、半身不遂……就在最近，听说还有用纸和塑料布造的房子呢，所以，对软不遑，也许有软不遑的力学构造吧……	A-36			砂の女（砂女）
	「待ってくれ！ ちょっと、聞いてほしいんだ！ 聞くだけでいいから、待ってください！」		“等一等！有些话想问问，只问两句就可以，请等一下！”	C			砂の女（砂女）
	縄梯子を固定できたくらいだから、かなりしっかり埋めこんであるにちがいない。		它既然能固定绳梯，一定埋得相当牢固。	C			砂の女（砂女）
	・・・鉄は円周の切線にそって飛ぶわけだから、ロープが目標に対して、直角になった瞬間か、あるいはそのほんの直前をえらんで、ただ手を離せばいい。		……剪刀是沿着圆弧的抛物线飞去的，绳索对于目标，得选择时机出手，当绳索成为直角的瞬间，或再稍稍前一点，只要松开手就行了。	C			砂の女（砂女）
	……そう思ってみると、急に親しみがわいてくるのだから、おかしなものだ……		这么一想，心理竟忽然涌起阵阵亲切感，真奇怪呀……	C			砂の女（砂女）
	……鏡の必要を拒んだのは、おまえ自身だったのだから。		……不需要镜子的本来就是你自己嘛。	C			砂の女（砂女）
	「どうもなりやしないさ……どうにもならないから、地獄の罰なんじゃないか！」		“什么都不会成呀……什么都成不了，这不就是地狱的惩罚吗！”	C			砂の女（砂女）
	誰も見ていないのだから、仕方がない……		谁也没瞧见，真可怕……	C			砂の女（砂女）
	いま、スコップを取りに行っているところだから、もうちょっとの辛抱だ……その板っ切れに、肘をあてがっていりゃ、心配はいらんから……」		“马上把大网篮拖来，你再忍一忍吧……你把胳膊靠着木板就不会有事，用不着担心……”	C			砂の女（砂女）
	顔を食ってくれさえすれば、あとは絶対にこっちのものなのだ。だが、まずその顔に、振向いてももらえないのだから、取りつくしがない……		只要那些乌鸦去叼诱饵，那它就绝对会成为自己的囊中物。但是，首先无法让乌鸦回过头来看一眼诱饵，这才没有着落……	B-15			砂の女（砂女）
	右の不在者に対し 仁木氏の から失踪宣告の申立があったから、不在者は昭和三十七年九月二十一日までに当裁判所に生存の届出をされたい。		兹有仁木希娜提出“宣告失踪”的申请，截止至昭和三十七年九月二十一日，希望“不归者”能向本法庭提出生存登记。	C			砂の女（砂女）
	岸本家は、孤峯庵の檀家であった。名譽総代にもなっていたから、和尚がこうして奥の間にさっさと通っても不思議ではないのだが、		岸本家是孤峰庵的施主，而且还当过施主家的名誉代表，因此，和尚这样无所顾忌地出入家门并不奇怪。	A-37			雁の寺（雁寺）

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
	死んだ南嶽が、慈海和尚に里子を託したのは、この夏のことが忘れられなかったからであろうか。		死去的南岳，把里子托付给慈海和尚，也许是 因为 忘不了这个夏天的缘故吧？	A-69	雁の寺（雁寺）
	里子は久しぶりに呑んだ。ひどく廻りが早かった。夜になった。よく南嶽も入れて、三人で呑みあかしたこともあるから、里子は落ちつけた。		里子好久没喝酒了。很快酒气上涌。入夜了。在过去，还有南岳，三人曾经一起喝酒，喝到通宵， 因此 ，里子沉着不慌。	A-37	雁の寺（雁寺）
	制服にゲートルを巻いて登校しなければならなかった。しかし、前身が般若林であるから、学校の課程も寺務に多忙な小僧たちのために考えられていて、午前中に授業はすんでしまう。		慈念必须穿着学校制服，打着绑腿，步行好远去上学。但是， 因为 前身是般若林中学，学校的课程都是为寺务繁多的小和尚们考虑的，上午课程就上完了。	A-1	雁の寺（雁寺）
	小さい草は冬の土を割って出てくるから根は強い。		从冬天的土地里拔出小草可费劲啦，草根很韧。	C	雁の寺（雁寺）
	慈念の小さい指の方ではとれないから、竹でつくった小刀を慈念は使う。		慈念小小的指头，力量不够，拔不出来， 就用 竹子制作的小刀挖。	B-1	雁の寺（雁寺）
	五十八歳であるから、もう中老に入った年輩といえぬこともない。		他已是五十八岁的人了，不能不说是到了中老年了。	C	雁の寺（雁寺）
	頬や掌に斑点のきはじめるのはこの年ごろからであるから、さして気にすることもなかったわけだが、		脸颊、手掌上出现老年斑，一般来说也是从这个岁数开始的， 因此 ，没什么可以大惊小怪。	A-37	雁の寺（雁寺）
	しかし内臓がわるいとか、食が進まぬといったことはないのだから、慈海は問題にできなかったのだ。		不过，内脏还不坏，也还不是到了不能进饮食的程度， 因此 ，慈海还不当成一个问题。	A-37	雁の寺（雁寺）
	四尺そそこの小さい軀に、あんな大きな鉢頭を重そうに支えているのだから、勤行、作務、学校、と不死身の軀でないとなつてはまるはずがない。		慈念身高还不到四尺，小小的身子，要支撑那么大的脑袋瓜，每天又是修行、干活、上学，他又并非不死之身，如何胜任得了，里子无意识地替慈念辩护。	C	雁の寺（雁寺）
	麻繩は眼醒時計の代用であったから、翌朝、慈海はめずらしく五時かつきりに眼をさまして、麻繩をひっぱった。		麻绳成了闹钟。第二天早晨，慈海异乎寻常地准时在五点醒来，拽了麻绳。	C	雁の寺（雁寺）
	里子が慈念に恐れを感じはじめたのはこの頃からかも知れない。慈海は慈念の師匠であるから、慈念が、いくら押しだまっても、相通する何かがあったのだと思う。		里子对慈念开始产生可怕的心理，也许是从这时候开始的。慈海是慈念的师父，慈念不管如何沉默寡言，互相间总是说过些什么吧。	C	雁の寺（雁寺）
「中学生なんだから、中学校の教課を終えなければ何んにもならない」		“你是个中学生，中学课程没学完，就一事无成呀。”		C	雁の寺（雁寺）
	里子も慈海も珍客で笑顔になった。慈海は酒がのめる相手がきたのだから子供のように頬をほころばし、庫裡と隠察の間の廊下にまでむかえにきた。		里子、慈海都因为稀客临门而笑容满脸。慈海 因为 来了一个能够对饮的酒友，乐得象小孩子似的合不上嘴，一直走到僧房和自己居室之间的廊子迎接。	A-1	雁の寺（雁寺）
「捨ててあったから捨吉じゃろ、それがどうした。さと」		“ 因为 被遗弃的，所以叫舍吉，这不是很清楚吗？你问这个干什么，阿里？”		A-7	雁の寺（雁寺）
	秀子は南嶽と五つちがいだったから、六十を出たばかりの年である。		秀子比南岳小五岁，今年刚过六十。	C	雁の寺（雁寺）
	///しかし、異変が起きたら、源光寺の住職から報せがあるはずであった。大酒呑みの慈海のことだから、どこかで脳溢血にでもなって倒れたとしても、病院か通行人かがしらせてくれるはずである。		///不过，要是有什么意外，源光寺的住持总应该来报个信呀。好喝酒的慈海，如果 是因为 脑溢血倒在什么地方，也总该有医院或者过路人来报告才对。	A-69	雁の寺（雁寺）
「へえ、源光さんへ行かほったらしいから、迎えにゆけいわりました」		“是的，说是可能到源光师父这儿来了， 所以 让我来接回去。”		A-36	雁の寺（雁寺）
	里子はいっそう蒼ざめた。源光寺の雪州和尚の思いやりはわかる気がした。けれども、葬式は、どうせ、二等でやらねばならないから、法類仲間役僧に来てもらわねばならないことはわかっている。		里子的脸色越发苍白。她对源光寺住持雪州和尚的想法，心里明白。不管怎样，要举办二等规格葬礼，无论如何也要从兄弟寺院请来执事僧才行，这一点，她心里也很清楚。	C	雁の寺（雁寺）
	里子が、寺へきたのは、去年の秋だから、まる一年たつ。		里子来到寺院是去年秋天，刚好过了一整年。	C	雁の寺（雁寺）
	・・・法事にゆけば、お布施、菓子、そんなものを袂か頭陀袋に入れてかならず土産に帰ってきたから、行先をうたがうわけにゆかない。		・・・如果是出去办法事，袖子和行囊总是装满施舍和点心等东西，带回来， 因此 ，里子从来不打听他所去的地方。	A-37	雁の寺（雁寺）
	徳全もたびたび酒の相手をさせられているから知っているのである。		徳全也经常与慈海他们一块儿喝酒， 所以 知道一些情况。	A-36	雁の寺（雁寺）
	里子は顔を赧らめた。慈海が、源光寺へ行って何をしゃべっているのか見当がつかないからである。		里子脸色绯红。慈海每次去源光寺都说了些什么，从雪州的话里也可略知一二。	C	雁の寺（雁寺）
「・・・あしたのこともありますから、どうぞ、お休み下さい」		“你们明天还要辛苦呢，快去休息吧。”		C	雁の寺（雁寺）
	職人だからわかることでもある。		他们都是工人，也懂得事理。	C	雁の寺（雁寺）
	もともと、一人きりの孤峯庵の小僧であるから、責任の重い立場でもある。		孤峰庵仅有一个小和尚， 所以 他的责任也就特别重大。	A-36	雁の寺（雁寺）
	三宅は左翼学生であったから、来たるべき革命の日を、情熱をこめて語っていた。		三宅是左派学生，满腔热情地谈论着即将来临的革命的岁月。	C	青春の蹉跎（青春的蹉跎）

原文		訳文		分類一覧	作品名
会話文	地の文	会話文	地の文		
	/// 賢一郎は柄口だから、まさかあんな女にうつつを抜かすことはあるまいと思ひながら、しかし母は、あの娘のどこか崩れた感じが恐ろしかった。		/// 母亲想:贤一郎是有头脑的,难道还会被这个姑娘迷得神魂颠倒吗?可是她总觉得这个姑娘性格上有某种令人可怕的缺陷。	C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	彼は法科の学生であったから、国家の法律がどんなに重く人民の上ののしかかり、どれほど厳しく人民を拘束しているかを、充分に知っていた。		他是法科的学生,他十分懂得国家的法律是如何沉重地压在人民的头上,如何严厉地束缚着人民。	C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	実利的な見地に立っているから、彼は大橋登美子の思わせぶりな求愛の態度に対しても、冷淡だった。		由于从实利出发,所以他对大橋登美子的卖弄风情的求爱采取冷淡的态度。	A-18	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	三尺の廊下をへだてた八畳が父と栄子との寝室になっていた。登美子はそれが嫌だったから、六畳を弟にやって玄間脇の四畳半に降りた。		隔着三尺的走廊对面就是父亲和荣子的八铺席大的寝室。登美子讨厌他们,把六铺席屋让给弟弟,自己搬到大门旁边的四铺席半的小屋里。	C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「おつゆが冷めますからね、早くいらっしやい」		“汤快凉了,快来吧!”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	登美子の弟はまだ中学生だから、使いものになるのは十年以上も先だ。		登美子の弟弟还在上中学,再等十年可能有点用处。	C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「意味がないから頂けないよ。折角ですけど……」		“既然没有别的意思,那更不能收下,虽然你特意……”		A-21	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「折角ですけど、わたし駄目なんです。頭が痛いから、失礼するわ」		“多谢你的好意,可是我不能去。我此刻头痛,对不起。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「スキイに行くんだから汽車賃と宿賃とちょうだい」と、説明抜きで用件だけを言った。		“爸爸,我要出去滑雪,给我火车钱和旅馆费。”她不作解释,只提要求。		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「……先が見えないから全制動をかけて、ゆっくり、まっ直ぐに行くんだ……」		“……前方什么也看不见,你要使劲闸住,慢慢地径直往下。……”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「……卒業した者はみな資本主義社会に奉仕するんだから、大学そのものを否定するという考え方だよ。」		“……大学毕业生都是为资本主义社会服务的,他们本来就否定大学。……?”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
それだけ考え方が根本的に喰い違っているんだから、団体交渉をしたって素直に結論が出せる筈はないんだ。		对问题的考虑方法有根本的分歧,因此双方谈判也不会马上得出结论。		A-37	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「いや、お前は私立大学だから、判検事とか法務省とかいう役人の道に行くのは損だよ。……」		“不,因为你上的是私立大学,当法官或检察官,走法务省那条道要吃亏的。……”		A-1	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「やればやってみたいんですが、しかし僕は早く独立して母を養わなくてはなりませんから、あまり贅沢な望みをもつ訳には行かないんです」		“倒是可以试一试。但是我想早点自立,抚养母亲,不敢有过分的奢望。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「……学資はいままで通りに続けてやるから、やれる所までやってみろ。……」		“……学费仍然和往常一样由我供给,到我出不起的时候再说。……”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「……君なんか独りもので自由だから、羨ましいよ。……」		“……你一个人多么自由,真羡慕你。……”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「……面白そうだから行ってみませんか。……」		“……听说很有意思,你能去吗?……”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「多分、大丈夫だろうと思います。しかしまだあとがあるから、安心できませんよ」		“看来问题不大,不过还不能完全放心。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「どうだかな。安ものだから、自分の小遣いで買ったんでしょう」		“不清楚。可是这东西很便宜,大概是她自己的零用钱买的。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「違いやしませんよ。伯父さんは康子さんの事があるから、お前に学資を出して下さいなんですよ」		“怎么会是两码事?伯父是为了康子的婚事才给你出学费。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「お前ね、私は本気で言うんだから、ちゃんと聞いておくれよ。……」		“我要跟你说句真心话,你好好听着……”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「悪いことは言わないから、いまのうちに黙っておつきあいをやめなさい。」		“我也不想多说不愿听的话,总之,现在你就默默地和她断绝来往吧!”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
人間の社会では経済関係が複雑だから、子供が経済的に自立したときを境として、母と子の関係は断絶する。		但在人类社会里,由于经济关系很复杂,等到孩子在事业上能够自立时,母子关系才就此断绝。		A-15	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
母が死んでも父の遺産はあるから、自分の生活には困らない。		即使母亲死了,还有父亲的遗产,生活不会发生困难。		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
(賢一郎様 もう試験もすんだ頃かと存じます。今度はいかがでしたか。日本中の柄口な青年たちが集まっていることでしょうか、大変ですわね。		“贤一郎:考试快要结束了吧!这一次怎么样呢?日本全国最聪明的青年都要聚集到一处了,真了不得啊。”		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
彼は現実主義者であったから、三宅のような遠いはらかな理想にあこがれたりしなかった。		他是个实用主义者。不会去憧憬三宅那样的遥远的理想。		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
暑さは好きな方ですから、食欲も旺盛です。		我喜欢过夏天,夏天胃口好。		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
試験を受けるという緊張感は案外気持ちのいいものです。答案がすらすらと書けるときの優越感のような一種の状態は、僕にとってはむしろ生甲斐のようでもあります。しかし、まだ先がありますから、安心はできません。		考试时那种紧张感我反而觉得很劲,当我非常顺利地答题时所产生的那种优越感,使我感到生活的意义。但前途莫测,还不能十分放心。		C	青春の蹉跌 (青春的蹉跌)

原文		訳文		分類一覧		作品名
会話文	地の文	会話文	地の文			
「・・・お前が承知しないもんだから、あいつはやけそになったんだ」		“・・・你不答应他，他才豁出去了……”		B-6		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
わたし痩せたでしょう。癖に食べていないの。父やお妾と一緒に御飯を食べるのは嫌だから、変な時間に勝手に台所へ行って、その辺に有るものを何か食べるの。まるで泥棒猫みたい。悲しくなっちゃう……。		“你瞧我瘦了吧，老是吃下下饭，我不愿意和父亲还有他的小老婆一起吃饭，每次总是过了吃饭时间才随便到厨房里找点东西吃，就象个偷食的猫儿似的，心里真不是个滋味哪！……”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「持逃げをした寺坂という人は、お父さんがとても信用して、よくうちへ連れて来ては一緒に酒を飲んだりしていたの。その人、私と結婚したかったのよ。だけどわたし、あなたとの事があるから、断然ことわってやったの。・・・」		“父亲非常信任那个卷逃的寺坂，经常带他到家里来喝酒、吃饭。那个人还想同我结婚，可是我因为有了你，坚决拒绝了……”		A-1		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
だから僕のこと心配してね。絶対に小野みたいなことにならないように、(大橋さんという人にはお気の毒だけど、今のうちに綺麗にさよならしなくてはいけませんよ、あちらのおかたに気の毒なことになるから、よくお話しして、解って頂かなくては駄目ですよ……)		“她老人家担心我会走小野的路，所以她说：对大橋登美子，虽然对不起人家，不过还是干脆脆地分开的好。实在是她过意不去，你好好地跟人家谈一谈，让她能够谅解你……”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
うつ向いた、小さな声だったから、江藤はよく聞きとれず、聞き返した。			“因为低着头，声音很小，江藤没有听清楚。登美子又问道：”	A-1		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
だけどあなたが嫌なんだから、私は何も言わないで、あなたの好きなようにしていたのよ。		“你讨厌我，我可没说什么，总是想办法使你高兴，”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
そしたら急に別れるって言うんでしょう。お母さんが心配するから別れるって言うんでしょう。		可是你突然要同我断绝关系，还说是因为母亲担心，”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
本当はあなたが、もう私なんかどうでもよくなったのね。もう飽きたのね。そうでしょう。はっきり言ってくれてもいいのよ。私はどうせこんなつまらない女ですから、あなたは物足りないのよ。……		实际上你对我无所谓，你已经把我玩弄够了，是不是？那么你把问题说清楚不就得了吗？反正我这样微不足道的女人，满足不了你了，……”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	言葉で約束された訳ではなかったが、(あの事)が承認を約束したものだという風に、彼女は解釈していた。しかしそれは自分勝手な解釈であったから、心細い気持が残っていた。彼女は顔がすこしむくんで見えた。		这并不是用言语来表示的，而是用那种事来表示的——登美子自己这样解释着，但这终究是自己一厢情愿的解释，心里还是七上八下，脸上有点浮肿。	C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
・・・本当は、きっと合格なさるだろうと信じていましたから、あまりびっくりしなかったんです。・・・		“・・・说真的，事先我就相信你合格，所以并不感到怎么吃惊。・・・”		A-36		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
父は一度お祝いに、うちへお招きして御馳走をしようと言っています。しかし姉は、うちの御馳走なんかつまらないから、フランス料理のうまい所へ行こうと提案していました。		父亲提出请你到我家吃饭，以表祝贺。姊姊说，既要请吃饭，在家里太寒碜了，她提议去吃法国菜。		A-29		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「・・・六日の夜の六時半、T・Pホテルのロビーでお会いしたいのです。それから、お祝いですからもちろん、費用のことは私におまかせ下さい。・・・」		六号晚上六点半，我在T・P旅馆的「门」前等你。因为是对你表示祝贺，一切费用都由我来负担。……”		A-1		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
	おれが合格したもんだから、あいつはとたんに気持が変りゃがった。		正因为我考试合格了，才使她变得这么快。	A-48		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
あなたは司法試験をパスして、傑い人になるわけですから、私とはつりあいがとれなくなったのだと思います。		也许你觉得已经没有必要找我了。这一点我懂得。司法考试合格后，你已经成为了了不起的人物，我已经配不上你了。		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「何が嫌なんだ。相談があるって言うから、こうしてわざわざ出て来たんじゃないか」		“什么愿意不愿意。你不是说事情同我商量，我这不就特地来了吗？”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「今日は時間が無いから、僕は行くよ。君はあした直ぐにお医者を探して、行ってみるんだ。・・・」		“今天没有时间了，我要走了，明天你先找个医生看一看，行吗？……”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
“……もつとも、まじめだから試験を一度でパスしたのね。仕方がないかしら。……あなた、ガール・フレンド有るの？”		“可不是，正因为你真，所以才通过了考试。……你有女朋友吗？”		A-46		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「・・・もしか本当だったら困るから、今のうちに手を打つんだ。こんな簡単なことが、どうして解らないんだ」		“・・・如果真的怀孕了，那就伤脑筋了，趁现在赶紧处理掉。这么简单的道理，你怎么不懂啊？”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
繁殖が自然現象であるのだから、それを拒否するためには不自然な努力が要る。		繁殖是自然现象，如果要阻止繁殖就需要人为的力量。		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「・・・伯父さんがこれから先、ずっと後押しして下さいになるんだから、どれだけ心強いかわれやしない」		“今后几年内你还需要伯父的支持，你仰仗他的地方还多着呢！”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
実際にやっている人も居るんだから、私だって働いて、やれないことはないと思います。		实际上也有象我们这样的人，我能劳动，怎么也能对付过去。		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
・・・父や母は頼みにならないから、子供は託児所にあずけてでも、私は働いて、何とかして侍っています。		・・・又不能依靠父母，就是把孩子放在托儿所里，我也要出去工作，怎么着也得设法生活下去，等待着您。				青春の蹉跌 (青春的蹉跌)
「じゃ、先生、教えて。わたし今からどうしたらいいの？ ……あなたが言う通りにしますから、どうしたらいいか、教えて」と言った。		“那么你说吧，往后我怎么办？……你叫我怎么办我就怎么办。”		C		青春の蹉跌 (青春的蹉跌)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
「・・・あなたは男だから、どうせ何か経験はあるだろうと思うの。それは仕方がないわ。・・・」		“你们男人不管谁都有同女人交往的经验。那没有办法。・・・”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
理由がないから、江藤としては彼女の疑惑を解明する方法がわからない。		既然没有根据，江藤也就找不出消除她的疑团的办法。		A-21			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
「・・・お前にも悪いところがあったんだろけど、とにかく正式に内祝言をするんだから、そういう事はきちんと処理して置かなくては、後で問題がおこりますよ。・・・」		“...你是不是对她有什么过错?..... 总之要正式订婚了, 这些事儿得赶紧处理好, 免得将来出问题。...”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
もともと火山湖であるから、底は深い筈だ。		这原先是个火山湖, 湖底很深, 水不流动。		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
「・・・法律の本を借り出していますから、その日のカードを調べてもらえば、僕が図書館にいたかどうか解りますよ」		“...我借了几本法律的书, 你们只要查阅当天的卡片就能证明我在图书馆里。”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
「・・・そこから松岡っていう友達を電話で呼んだんですが、向うは麻雀をやってるから行かないって、断わられたんです」		“...打电话给我的朋友松冈, 邀他一起来喝, 可是他正在打麻将, 回绝了。”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
「・・・加害者が学生だから、それが即ち僕だなんて、それでは論理が飛躍していますよ」		“...凶手是个学生未必就是我, 我这是逻辑的飞跃。”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
「・・・いまから晩まで暇をやるから、ゆっくり独りで考えてみる。・・・」		“...给你一点时间, 从现在到晚上, 你慢慢地考虑考虑。...”		C			青春の蹉跎 (青春的蹉跎)
	/邪魔になって手が使えぬから、無暗に手を振ったら、袖の中にある勘太郎の頭が、右左へぐらぐら靡いた。		①我的手受到牵制, 再也不听使唤。我拼命挥动手臂, 勘太郎的脑袋在袖筒里咕噜咕噜左右直晃荡。②它绊住了俺的胳膊, 用不上劲, 俺拼命电动胳膊, 钻进俺袖子里的勘太郎的脑袋, 也就跟着左右翻滚。③这一来我的手就不好使了, 只能使劲乱摇乱晃。一摇晃, 袖筒里的勘太郎的头也就随着摇来晃去。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	人蔘の芽が出揃わぬ処へ藁が一面に敷いてあったから、その上で三人が半日相撲をとりつづけに取ったら、人蔘がみんな踏みつぶがされてしまった。		①胡萝卜芽儿尚未出齐的地方, 苫着一层稻草。我们三个在上面摔跤, 玩了老半天。一片胡萝卜全给给踏了。②在胡萝卜秧出得不齐的地方, 盖有一大片稻草。他们三个人就在这上边摔了大半天的跤, 胡萝卜整个被踩得稀巴烂。③胡萝卜秧还没有出齐, 地上铺满了稻草, 我们三个人在上面玩了半天摔跤。这么一来, 胡萝卜就全给踏了。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	その時分はどんな仕掛か知らぬから、石や棒ちぎれをぎゅうぎゅう井戸の中へ挿し込んで、水が出なくなったのを見届けて、うちへ帰って飯を食っていたら、古川が真赤になって怒鳴り込んで来た。		①那会儿我不知道这是干什么用的, 就把石子、木棒, 一股脑儿塞了进去, 看到不冒水了, 才回家吃饭。古川涨红脸骂着闯进来②当时, 俺不晓得这是什么玩意儿, 将石块和树棍狠命地塞了进去, 一直塞到看不出水了, 才回家来。刚吃上饭, 古川就气得满脸通红, 嚷了进来。③那个时候, 我哪里晓得这是什么装置, 只是一个劲地把石头和小木片往里填塞, 直到看着不冒水了, 才回家吃饭。这时, 古川红着脸吵上门来了。	B-1	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	仕方がないから、のそのそ出て来て実はこれこれと清に話したところが、		①没办法, 我只得慢吞吞地走出来, 一五一十把经过告诉了清。②俺无奈, 只好磨磨蹭蹭地回到清婆面前, 如此这般地向清婆讲了, ③没法, 只得慢慢吞吞走出来, 一五一十地把情况告诉阿清婆。	B-8	B-9	B-8	坊ちゃん (哥儿)
	しばらくすると井戸端でざあざあ音がするから、出て見たら竹の先へ蝦蟇口の紐を引き懸けたのを水で洗っていた。		①不一会, 我听到井台哗哗的水声, 出去一看, 她正用竹竿挑着钱包的带子, 放水冲洗呢。②过了一会, 井台旁传来了哗哗啦啦的声音, 俺出去一看, 清婆正用竹竿尖挑着钱袋上的细绳儿, 在用清水冲洗哪。③过了一会, 听到井边有哗哗啦啦的声音, 出去一看, 只见她把拴小钱包的绳子钩在竹竿尖上, 正在用水冲洗。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	元は身分のあるものでも教育のない婆さんだから仕方がない。		①这老婆婆虽说出身世家, 却未受过教育, 无法同她讲清楚。②这老太婆虽然出身好, 但毕竟是个没有受过教育的人, 又拿她有啥办法呢。③老太太虽说出身旧世家, 却没有受过教育。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	只清が何かにつけて、あなたは御可哀想だ、不仕合だと無暗に云うものだから、それじゃ可哀想で不仕合せなんだろうと思った。		①只是阿清一提起什么, 总是一个劲儿说:“你真可怜, 你真不幸。”因此我想, 自己也许真是可怜和不幸的吧。②只不过清婆一遇上点什么事, 总是一味地说:“您真可怜, 太不幸啦。”既然她这样说, 于是俺也就认为自己的确是可怜, 的确是不幸的了。③可阿清婆一提到什么, 就没完没了地说:“你真可怜, 真不幸。”因此我也想过:既然她这么说, 也许我是可怜, 是不幸的吧。	A-37	A-38	A-37	坊ちゃん (哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	世話をしてくれるにしたところで、喧嘩をするから、向でも何とか云い出すに極っている。		①纵然受到他的照顾，两人还是要吵架，到头来，他肯定会说三道四的。②反正俺也不想受哥哥的照顾，即便他肯管俺，也还会吵架，到了那时，他肯定还会说出些什么来。③反正我也不想得到哥哥的照顾，即便受他照顾，也免不了同他吵架，这一来，他一定会说出什么话来。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	清は十何年居たうちが人手に渡るのを大に残念がったが、自分のものでないから、仕様がなかった。		①住了十多年的房屋，一旦落入别人手里，阿清感到非常难受。但终究不是自己的财产，她也没有办法。②清婆对于居住了十几年的房子转手给人，感到十分惋惜，但又不是她的产业，也就说不得了。③阿清婆对于自己住了十多年的宅子，一下子让给了人家，感到十分难过，但不是她自己的家业，也无可奈何。	B-3	B-3	B-3	坊ちゃん（哥儿）
	婆さんは何も知らないから年さえ取れば兄の家がもらえると信じている。		①这老婆婆一无所知，以为单凭年龄大就能得到哥哥的家产。②清婆什么也不晓得，以为只要年龄再大些，就可以得到俺哥的这所房子。③老太太什么也不懂，她以为只要年龄大了，就可以得到哥哥的家业。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	この甥は裁判所の書記で先ず今日には差支なく暮していたから、今までも清に来るなら来いと二三度勧めたのだが、清は仮令下女奉公はしても年来住み馴れた家の方がいいと云って応じなかった。		①这个外甥在法院当文书，眼下的生活还算可以，从前也曾再三劝过阿清，说想来就来吧，阿清没有答应，她说：“即便给人家当佣人，还比长年住在熟悉的人家为好。”②她的这个侄儿是法院里的一个录事，目前的日子算是过得比较顺当。过去，他也曾经两三次向清婆提出过：“愿来就来吧。”清婆却说：“我虽然是做女仆，伺候人，但还是多年住惯了的地方好，”没有答应他。③她这个外甥在法院当录事，说起来，眼下的生活也还过得去。在这以前，也曾两三次劝过阿清婆，说想来就来好啦！可阿清婆说：“虽说是给人家当佣人，但这是长年果惯了的家，还是这里好。”所以没有答应。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	何の六百円位貰わんでも困りはせんと思ったが、例に似ぬ淡泊な処置が気に入ったから、礼を云って貰って置いた。		①我想，不要这六百元钱，也不至于苦到哪儿去。然而，他这种不比寻常的爽快的处置甚合我意，所以道谢之后收下了。②俺心里虽然也想，不就这六百块钱吗，你不给，俺也活得了。但是，他的这种不同寻常的爽快做法，很对俺的劲儿，俺便道了谢，收下了。③我心想：就是不给我这六百元，也难不住我。对他这种非同寻常的慷慨，我很满意，所以对他表示了谢意，把钱收了下来。	A-36	B-2	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	兄はそれから五十円出してこれを序に清に渡してくれと云ったから、異議なく引き受けた。		①接着，哥哥又掏出五十元，叫我顺便转交给阿清，我也同意照办了。②俺哥又拿出五十块钱，说：“这个请你顺便交给清婆。”这，俺没有不同意见，答应了下来。③接着，哥哥又拿出五十元，说要我顺便把它交给阿清婆。我二话没说，接了过来。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	三年間まあ人並に勉強はしたが別段たちのいい方でもないから、席順はいつでも下から勘定する方が便利であった。		①三年间，我也总算同其他人一样地学了。本来天分就不高，所以排起名次从后边数要方便得多。②三年间，总算和一般人一样念了下去，俺原本天资就不算好，所以名次总是从后边倒着数，更方便些。③三年时间，总算和人家一样学过来了。本来天资就不怎么好，所以排起成绩名次来，总是倒着去找我的名字要方便得多。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	自分でも可笑しいと思ったが苦情を云う訳もないから大人しく卒業して置いた。		①连自己都觉得好笑，当然也没有什么可抱怨的，就这样安安稳稳地毕业了。②自己也感到奇怪，不过，这是不便表示不满的，所以便老老实实地给它毕业了。③连自己都觉得可笑，但也无可抱怨，就那么老老实实地毕业了。	B-1	A-36	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	卒業してから八日目に校長が呼びに来たから、何か用だろうと思って、出掛けて行ったら、四国辺のある中学校で数学の教師がいる		①毕业后第八天，校长派人来叫我，我想大概有要紧的事，到那里一看，原来四国地方的一所中学需要数学教师。②毕业后的第八天，校长派人来把俺叫去。俺心想：有什么事儿呢？去了一看，原来是征求我的意见；在四国那边的某个中学，需要一名数学教师。③毕业后的第八天，校长找我。心想难道有什么事？跑去一问，说是在四国地方有一所中学需要数学教员。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	尤も教師以外に何をしようとするあてもなかったから、この相談を受けた時、行きましようとして即席に返事をした。		①当然，除了教师，也未曾想过要做别的事情。听校长一说，我就当场应承下来。②当然，没想当教员，可也没有干其他行当的指望，所以校长一向俺征求意见，俺当场就回答说：“那就去吧。”③而不当教员干什么呢，也没什么打算。所以当校长与我商量时，我当即答应说：“那就去吧！”	C	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	独りで極めて一人で喋るから、こっちは困まって顔を赤くした。		①她一个人不停地唠叨着,我却不好意思,脸都涨红了。②清婆自吹自擂,自己一个人大讲特讲,弄得俺烧红了脸,怪不好意思的。③她自编自排地唠叨着,弄得我很难堪,脸都红了。	C	B-21	B-21	坊ちゃん(哥儿)
	只清は昔風の女だから、自分とおれの関係を封建時代の主従の様に考えていた。		①阿清倒认为,自己是旧时代的女人,她把自己同我当成主仆关系看待。②只不过是,清婆是个旧式女人,她把地自己和俺的关系,似乎看成是封建时期的主仆关系。③不过,阿清婆是旧时代的女人,她把我和她的关系,看成是封建时代的主仆关系。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	余り気の毒だから「行く事は行くがじき帰る。来年の夏休にはきっと帰る」と慰めてやった。		①我有些过意不去,安慰她:“去了不久还要回来的,明年暑假我肯定回来。”②俺看她过于可怜,就安慰她说:“去是去,不过很快就要回来的。”③我看了实在难受,就安慰她说:“去是要去,但很快会回来的,明年暑假一定回来。”	C	B-1	B-1	坊ちゃん(哥儿)
	校長でも尋ねようかと思ったが、草臥れたから、車に乗って宿屋へ連れて行くと車夫に云い付けた。		①我想见见校长,因为太累,就上了车,吩咐车夫把我拉到旅馆去。②俺心想:不要去拜访一下校长?可俺太累了,便又坐了车,吩咐车夫把我送到旅馆去。③心想:那就去找校长吧,可又太累了,于是登上车,吩咐车夫说:“拉到旅店去!”	A-4	B-2	A-38	坊ちゃん(哥儿)
	山城屋とは質屋の勘太郎の屋号と同じだから一寸面白く思った。		①这个山城屋竟然和当铺勘太郎的店号相同,真有意思。②山城屋这个字号,和勘太郎家当铺的字号相同,真有意思。③说起山城店,跟当铺勘太郎家的字号一样,这倒怪有意思!	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	仕方がないから部屋の中へ這入って汗をかいて我慢していた。		①没办法只好进去,流着大汗将就。②俺不得已,只好进了房间,忍耐着,不断地擦着汗。③没办法,只得钻进房间里,淌汗也得忍着。	B-9	B-9	B-8	坊ちゃん(哥儿)
	給仕をしながら下女がどちらから御出になりましたと聞くから、東京から来たと答えた。		①在一旁伺候的女佣问我从哪里来,我告诉她从东京来。②女侍者一边服侍俺吃饭,一边问:“客人是从哪儿来的呀?”俺答道:“从东京来的。”③女茶房边侍候边问我从哪里来,我答道:“从东京来。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	すると東京はよい所で御座いましょうと云ったから当り前だと答えてやった。		①她问:“东京是个好地方吧?”我说:“那当然罗。”②于是那个女侍说:“东京是个好地方吧。”俺回答她说:“那还用说嘛。”③她一听就说:“东京是好地方吧?”我答道:“那还用说。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	膳を下げた下女が台所へ行った時分、大きな笑い声が聞えた。くだらないから、すぐ寐たが、中々寐られない。		①女佣撤走饭盘回到厨房时,我听到一阵大笑。我感到无聊,很快就睡了。可怎么也睡不着。②女侍者将餐具撤了下去,估摸她回到厨房的时候,从厨房里传来了高高的哄笑声,这种事儿不值得一理,俺马上躺下了,可轻易睡不着。③女茶房收拾好碗筷,回到厨房之后,传来了一阵狂笑。因为呆着无聊,马上就躺下了,但怎么也睡不着。	C	C	A-1	坊ちゃん(哥儿)
	笹は毒だから、よしたらよかろうと云うと、いえこの笹が御薬で御座いますと云って旨そうに食っている。		①我说:“竹叶有毒,算了吧。”她说:“不,这竹叶是药阿。”说罢仍然吃得津津有味。②俺说:“竹叶皮有毒,最好别吃。”清婆回来说:“不,这竹叶皮是药呢。”吃得特别香甜。③我说:“竹叶有毒,别贪嘴的好。”她说:“不,这叶子还可以当药哩!”仍然吃得挺香。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	みんなやったってこれからは月給を貰うんだから構わない。		①即使全部都给他们也没关系,反正就要领薪水了。②就是都付了小费,今后要领薪水了,也没啥关系。③即使全都给了他们,往后我可以拿到薪水,也没关系。	C	B-3	B-3	坊ちゃん(哥儿)
	田舎者はしみたれだから五円もやれば驚いて眼を廻すに極っている。		①乡下人小气,给他五元钱就吓得不知如何是好。②乡巴佬都是小鬼,只要给他们五块钱,肯定他们会吓得连嘴都合不拢的。③乡下人不开眼,给上五元钱,肯定要大吃一惊。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	飯を済ましてからにしようと思っていたが、癪に障ったから、途中で五円札を一枚出して、あとでこれを帳場へ持って行けと云ったら、下女は変な顔をしていた。		①我本想吃完饭再说,然而气不过,吃了一半就掏出五元钱来,说:“回头送到帐房去!”女佣感到十分诧异。②俺本想等吃完了饭再把小费拿出来,可她这样惹翻了俺,吃着吃着,俺就拿出五块钱来说:“回头把这个拿到帐房去!”女侍者脸上显出了怪里怪气的样子。③本想吃完了饭再给钱的,由于实在气极了,饭没吃完就拿出一张五元钞票,说:“等一会把它拿到帐房去!”女茶房显出诧异的神情。	C	C	A-15	坊ちゃん(哥儿)
	学校は昨日車で乗りつけたから、大概の見当は分っている。		①昨天坐车到学校去过,所以能摸清大致的方向。②学校,俺昨天坐人力车去过的,大体的方向已经了解。③因为昨天坐车来过学校,大致的方向是清楚的。	A-36	C	A-1	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	おれは嘘をつくのが嫌だから、仕方がない、だまされて来たのだとあきらめて、思い切りよく、ここで断わって帰っちゃおうと思った。		①我是不喜欢撒谎的,有什么法子,既然受骗而来,只好认了。狠狠心一口回绝折返东京吧。②俺最讨厌的是扯谎,既然这样,那又有什么办法,就把它当成被骗到这儿来的吧。俺想干脆脆脆,把这个工作辞了,回它娘的东京去!③我最忌讳说谎。可也没法,既然被骗来了,只好豁出去。又一想:不如决心就此辞聘回去。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	宿屋へ五円やったから財布の中には九円なにがししかない。		①无奈已经付了五元房钱,口袋里只撒下九元了。②俺刚刚给了旅馆五块钱,所以钱袋里只剩下九块多钱。③可是,已经给了旅店五元,钱包里只有九元之数了,	C	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	やがて、今は只希望である、あなたが希望通り出来ないのはよく知っているから心配しなくともいいと云いながら笑った。		①过一会儿,他笑着说:“刚才说的只是希望而已,我很清楚你无法照我的希望那样去做,放心好啦。”②校长眨巴着他那狗獾一般的眼睛看了俺半天,然后说道:“现在说的,都是希望之词,我深知您做不到我所希望的,所以请不必担心。”说着,他笑了。③过了一会,笑着说:“刚才说的,只是希望罢了。你做不到,这一点我很清楚,请放心好啦!”	C	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	文学士と云えば大学の卒業生だからえらい人なんだろう。		①既然是文学士,那就是大学毕业生了,该是个了不起的人物。②文学士嘛,当然是个大学毕业生,了不起的人物喽。③说起学士,那是大学毕业生,在这里也许要算个了不起的人吧。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	文学士だけに御苦労千万な服装をしたもんだ。しかもそれが赤シャツだから人を馬鹿にしている。		①做了文学士,就得穿这种活受罪的衣服,况且又是红衬衫,简直作弄人。②果然不愧是位文学士,所以才穿上这种煞费苦心想出来的服装,而且那还是件红衬衫,这简直是有意思弄人!③因为是文学士,就得穿这种苦不堪言的服装?何况那衬衫还是红颜色的,更叫人莫明其妙。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	当人の説明では赤は身体に薬になるから、衛生の為にわざわざ跳らえるんだそうだが、いらざる心配だ。		①据他本人说,红色可以保健身体,有益于卫生,所以特地订做了这件衬衫。②据他本人解释,红色对身体有好处,为了保养起见才特意定做的。③据他本人解释:红色是保护身体的良药,为卫生起见,才特意定做的。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	浅井は百姓だから、百姓になるとあんな顔になるかと清に聞いてみたら、そうじゃありません。あの方はうらなりの唐茄子ばかり食べるから、蒼くふくれるんですと教えてくれた。		①浅井是庄稼人家,我向阿清,庄稼人家是否都是这副长相,阿清说不是。她告诉我,那个人净吃老秧子南瓜,所以长得苍白而虚胖。②浅井的爹是个庄稼人,俺问过清婆:“是不是庄稼人都是这种面色?”清婆告诉我:“不是的,他是因为光吃老秧南瓜,所以才又苍白又虚胖的。”③浅井是庄稼人,所以我曾问过阿清婆:“当了庄稼人,是不是就得变成这种脸色?”阿清婆告诉我:“不是,那是因为吃老秧的南瓜,所以才苍白而胖胖的。”	A-36	A-7	A-7	坊ちゃん(哥儿)
	そのほか一人々に就てこんな事を書けばいくらでもある。然し隙がないからやめる。		①其余的这样一一写下去没完没了,所以就就此为止吧。②此外,对每个教员如果把这类事写下来,那还多得很,这种没完没了的事,俺就不再说下去了。③其他的人,如果照这样一一记述下去的话,那就太多了,而且也写不完,干脆到此为止吧!	A-36	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	それから学校の門を出て、すぐ宿へ帰ろうと思ったが、帰ったって仕方がないから、少し町を散歩してやろうと思つて、無暗に足の向く方をおるき散らした。		①出了校门,我打算立即回旅馆,可回去也无事可干,到街上散散步吧。于是漫无目的随便蹒跚起来。②随后,俺走出校门,本想马上回旅馆去,不过回去了也无聊,于是就想在锁甸上稍微散散步,俺不管三七二十一,信步转悠了一阵。③完事之后,我从校门出来,心想立即回店去。可又一想:回去也没有事,不如在街上走走。便无目的地信步而行。	C	A-38	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれは生れてからまだこんな立派な座敷へ道入った事はない。この後いつ道入れるか分らないから、洋服を脱いで浴衣一枚になって座敷の真中へ大の字に寐てみた。		①我平生从来未进过这样阔气的房子,今后也不知何时才能再进这样的房子。我脱去西服,换上一件浴衣,在房间中央躺成一个“大”字。②俺有生以来还没有住过这样漂亮的房间,今后能否住得上也很难说。俺脱掉了西装,换上件旅馆备好的单衫,在房间正中仰面一躺,伸开了胳膊和腿,成了一个“大”字。③我有生以来,还没有进过如此高级的房间,往后什么时候能住上这种房间,也还说不上。我脱了西服,只穿一件浴衣,手脚摊成一个“大”字,躺在房间的正中央。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれは文章がまずい上に字を知らないから手紙をかくのが大嫌だ。		①我文章作得不好,识字也不多,所以很讨厌写信。②俺不会写文章,加上许多汉字写不上来,所以最讨厌写信。③我写不好文章,甚至有些字都写不出来,所以特别不爱写信。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	然し清は心配しているだろう。難船して死にやしないかなどと思っちゃ困るから、奮発して長いを書いてやった。		①不过,阿清总惦念着我吧。她要是以为我翻船淹死了,那可不好,所以咬咬牙写了一封长信寄给她。②但是清婆准在挂念俺啊,如果不给她写信,她会认为俺是翻船淹死了,那就糟了。所以这回敲足了劲,给她写了一封长信。③可是阿清婆也许在惦念着我,如果她担心我翻船淹死了,那多不好。因此我发狠给她写了封长信。	A-36	A-36	A-37	坊ちゃん(哥儿)
	手紙をかいってしまったら、いい心持になって眠気がさしたから、最前の様に座敷の真中へのびのびと大の字に寐た。		①写完信,心情舒畅,睡意朦胧,又象刚才那样,在房间正中放松筋骨躺成个“大”字。②信写完了,俺心里很畅快,上来了睡意,又象刚才那样,伸开了胳膊、腿,成了个“大”字躺下了。③写完了信,心里挺痛快。睡意来了,于是,象先前一样,手脚摊成大字,舒舒服服地躺在房间中央。	B-4	B-4	A-38	坊ちゃん(哥儿)
	受持ちを聞いてみると別段むずかしい事もなさそうだから承知した。		①听了自己担任的课程,也没啥特别的困难,就答应下来了。②俺向他问了担任什么课,看来,并没什么特别困难,俺就答应下来了。③其实,他说的要担任的课,倒也并不怎么难,我随即答应了。	B-1	B-1	C	坊ちゃん(哥儿)
	授業上の打ち合せが済んだら、君はいつまでこんな宿屋に居る積りでもあるまい、僕がいい下宿を周旋してやらから移りたまえ。		①商量好课程之后,他自作主张地说:“你不能老是住在旅馆里,我给你找个好一些的公寓,就搬过去吧。”②任课的问题谈妥了,他又说:“你总不至于常住这种旅馆吧,我给你介绍个好住处,你搬过去。”③上课的事谈完之后,他自作主张地说:“你不会一直住在这家旅店吧?我给你找个好房东,搬去吧。”	B-1	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	早い方がいいから、今日見て、あす移って、あさってから学校へ行けば極りがいいと一人で呑み込んでいる。		①宜早不宜晚,今天看房子,明天搬家,后天到学校上课,这样挺好。”②搬得越快越好,你今天去看房,明天搬家,后天去学校上课,那就一切顺利啦。”他自己就这样替俺全决定好了。③越快越好,今天去看房子,明天搬,后天好去上课,就这么办。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	ウィッチだって人の女房だから構わない。		①不过她已成了别人的老婆,所以无妨。②妖婆也罢,反正是别人的老婆,和俺无关。③就算是女巫,既然作了人家的老婆,倒也无妨。	A-36	C	A-21	坊ちゃん(哥儿)
	おれは江戸っ子で華著に小作りが出来ているから、どうも高い所へ上がつても押しが利かない。		①我是江戸哥儿,生来文弱,矮小,虽然站在高处,还是缺乏威严的风度。②俺是“江戸儿”,生得小巧玲珑,个子也矮,便是登上高高的讲台,也缺少威压人的力量。③我是江戸儿,身材显得斯文矮小,即使站在高处,也没有那种镇住人的威严。	C	B-23	C	坊ちゃん(哥儿)
	然しこんな田舎者に弱身を見せると癖になると思ったから、なるべく大きな声をして、少々巻き舌で講釈してやった。		①可转念一想,要是在这帮野小子跟前示弱,往后就难办了,所以尽量提高嗓门,用又快又重的语调讲课。②可是俺又想,如果俺向这些乡巴佬示弱,那就会损了他们的毛病,于是俺尽量放大了声音,稍微带上点卷舌音,给他们讲起课来。③我心里想:在这些乡下佬面前示弱,会损出他们的毛病来。所以尽可能提高嗓门,带点卷舌音给他们讲课。	A-36	A-38	A-36	坊ちゃん(哥儿)
	最初のうちは、生徒も烟に捲かれてほんやりしていたから、それ見ると益得意になって、べらんめい調を用いてたら、一番前の列の真中に居た、一番強そうな奴が、いきなり起立して先生と云う。		①起初,学生如入五里雾中,被弄得茫然若失。“怎么样?”我越来越得意,连东京地方骂人的粗鲁话也带出来了。这时,坐在最前边、身体最强壮的一个家伙,猝然站起来,喊了声:“老师!”②在最初一段时间里,学生们被俺的气势压倒,呆呆地坐在那里。俺心想:“这一招果然灵”,便更加得意起来。连“江戸儿”吊儿郎当的语调也上了。一个坐在最前排正中、长得十分结实的家伙,突然站起来,叫声“老师”。③刚开始时,学生不知深浅,显得茫然不知所措,叫你们知道知道我的厉害!我心里更加得意了,于是掀起了东京腔。这时,坐在最前面一排正中的一个看上去挺凶的家伙,突然站了起来,叫了一声“老师!”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	早過ぎるなら、ゆっくり云ってやるが、おれは江戸っ子だから君等の言葉は使えない、分らなければ、分るまで待ってるがいいと答えてやった。		①于是我回答他:“要是嫌快,就放慢一些。不过,我是江戸哥儿,不会说你们这里的话,听不懂慢慢好了。”②俺回答说:“如果讲得太快了,俺可以给你们慢点讲,不过俺可是‘江戸儿’,说不好你们的话,如果你们听不懂,等到你们几时能听懂了再说。”③我答道:“若是太快,就给你们讲慢点。我是江戸儿,不会说你们的话。若是听不懂,就等到能听懂再说。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	仕方がないから何だか分からない、この次教えてやると急いで引き揚げたら、生徒がわあと嘩した。		①没办法,我只得说:“我不懂,下回再说吧。”便急忙退了出来。学生们哇地哄闹起来。②最后俺没办法,“不太懂,下次俺再给你解释。”然后俺匆匆地离开教室,学生们哇的一声,哄起来了。③没法,只好直说:“这道题有些难解,下次教给你吧。”随即抽身往回走。这时学生们“哇”的一声哄了起来。	B-8	C	B-9	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	うんと云ったが、うんだけでは気が済まなかったから、この学校の生徒は分らずやだなど云ってやった。		①但光是“嗯”还觉不够，又添了一句话：“这个学校的学生太不懂事啦！”②俺“嗯”了一声，可是单纯“嗯”一声，又觉得有些不够，接着又说了句：“这个学校的学生都是些不通情理的东西哩。”③我还是“嗯”了一声，可光“嗯”还觉着不顺气，就又说了句：“这学校的学生尽是些糊涂虫！”	B-4	C	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	三時になると、受持級の生徒が自分の教室を掃除して報知にくるから検分をするんだそうだ。		①听说到了三点，本班的学生打扫完教室前来汇报后，还得检查一下，②据说，三点的时候，每个教员担任的班级的学生们，打扫完他们的教室，还要来报告，教员还得去检查。③据说到了三点，等任课班级的学生来通知说，本班教室已经打扫好了，就去检查。	C	C	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	然しほかの連中はみんな大人しく御規則通りやってくるから新参のおればかり、だだを捏ねるのも宜しくないと、思っ得我慢していた。		①然而，别人都老老实实，规规矩矩，而新来的我反而爱耍性子，这样不太好。所以我忍住了。②不过，俺想，既然其他的伙计都在老老实实遵守着这一堂堂的规定，只有俺这个新来乍到的，耍骄耍痴地不遵守规定，也不太合适，所以就忍住啦。③可是，其他人都老老实实地按规章办事，光我这个新来的人去招惹是非，反而不好，所以就忍住了。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	四つ角で分れたから詳しい事は聞くひまがなかった。		①我们在十字街头分手，有些事没有来得及详细问他。②由于到了十字路口，俺们就分手了，也没有工夫细问。③我们在十字路口分了手，没来得及去细问。	C	A-15	C	坊ちゃん（哥儿）
	この学校がいけなければさぞどっかへ行く覚悟でいたから、狸も赤シャツも、些とも恐しくはなかった。		①这个学校不行，我可以马上到别的地方去，正因为有了这番主意，什么狐狸、红衬衫，我一点也不打怵。②俺早就作好思想准备，如果在这个学校教不下去，那就换个另外的地方，所以俺一点也不怕“狗彘”，不怕“红衬衫”。③我打算着：如果这个学校呆不下去，就到别的地方去。所以狐狸也好，红衬衫也好，我一点也不怕。	A-56	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	先方で挨拶をしたから、おれも挨拶をした。		①因为他们先打了招呼，我也寒暄了几句。②方向俺行了礼，俺也回了礼。③他们向我行礼，我也还了礼。	A-1	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	その晩は久し振に蕎麦を食ったので、旨かったから天麩羅を四杯平けた。		①很久没有吃到这样可口的面食了，当晚我一连吃了四碗炸虾面。②这天晚上，吃上了好久未吃上的荞麦条，又好吃，所以足足报销了四大碗“对虾面”。③当晚，因为好久才吃到荞麦面，觉得味道极美，一下子吃了四大碗炸虾面。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは馬鹿々々しいから、天麩羅を食っちゃ可笑しいかと聞いた。		①真是岂有此理！我于是问他们：“吃炸虾面有什么可取笑的？”②俺感到可气，便问道：“吃对虾面有什么可笑的？”③我弄不清这是怎么回事，问道：“是为吃炸虾面发笑吗？”	A-38	B-2	C	坊ちゃん（哥儿）
	田舎者はこの呼吸が分からないからどこまで押して行っても構わないと云うて見だろ。		①看起来，乡巴佬不懂这个门道，以为不管如何瞎闹都没有关系。②这些乡巴佬不懂得分寸，他们认为怎么闹下去也没有关系。③乡下佬不通此理，也许认为不管放肆到什么程度都不要紧。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	一時間あるくと見物する町もない様な狭い都に住んで、外に何にも芸がないから、天麩羅事件を日露戦争の様に触れられさすんだろ。		①住在这种巴掌大的镇子，逛上一小时就再没有看的了，当然不会有什么娱乐，所以才把炸虾面事件当作日俄战争一般宣扬吧。②住在这样的小城镇里，一个钟头就能走遍全城，再也没什么可瞧的地方，又没什么可消遣的，所以才把对虾面这件事，当做和日俄战争一样的大事，到处去张扬的吧。③住在这狭小的城市里，走上一个小时，就没有可逛的地方了，又没有什么好玩的东西，所以就炸炸对虾面当作一件事，喧嚷成日俄战争一样了。	A-83	A-83	A-91	坊ちゃん（哥儿）
	小供の時から、こんなに教育されるから、いやにひねっこびた、榎木鉢の楳みた様な小人が出来るんだ。		①他们在童年时代就受到这样的教育，造就出这种小人物来，刁钻，世故，象花盆里的小枫树令人讨厌。②由于他们从小就受这样的教育，所以才造就出这群象盆栽的枫树那样老气横秋、七扭八歪的“老小人”的吧。③从小就受这种教育，培养出来的都象是盆栽枫树般的早熟小人。	C	A-15	C	坊ちゃん（哥儿）
	あんまり腹が立ったから、そんな生意気な奴は教えないと云ってすたすた帰って来てやった。		①我很生气：“这样调皮的学生，我教不了。”说罢，急急忙忙往回走。②俺气极了说：“俺再也不教你们这些不知好歹的东西！”说罢，就近开大步回休息室来。③我实在气极了，说：“尽是些不懂道理的家伙，我不教了。”说完，气乎乎地走了。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	おれの這入った団子屋は遊廓の入口にあって、大変うまいと云う評判だから、温泉に行った帰りがけに一寸食ってみた。		①我去的这家团子店座落于妓院的大门口，听说很不错，洗完温泉澡，顺便去尝了尝。②俺去的那家卖糯米团子的铺子，就在妓院街的街口上，听人说那家的糯米团子好吃，俺洗完温泉，就去品尝了一下。③。我去的那家团子铺在烟花巷的入口处，很有名。听说那家的团子特别好吃，所以在洗了温泉之后，顺便去尝了尝。	C	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	今度は生徒にも逢わなかったから、誰も知るまいと思って、翌日学校へ行って、一時間目の教場へ這入ると团子二皿七銭と書いてある。		①这次没有遇到学生，想来不会有人知道了。第二天到学校，上第一堂课时，看见黑板上写着：“两盘团子七分钱。”②这次并未碰上学生，所以俺想，这回大概谁也不会晓得了吧。第二天去学校，刚一走进第一节课的教室，黑板上写着：“团子两盘，七分钱。”③心想这回没有碰上学生，该不会有人知道吧。第二天到学校去，第一堂课一进教室，就见写着：“两碟团子七分钱。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	折角来たものだから毎日這入ってやろうと云う気で、晩飯前に運動券出掛る。		①我想，好容易到了这地方，多洗洗温泉澡吧。于是每天晚饭前，作为运动常到那儿去。②俺寻思，既来了，那就每天来个温泉澡吧，所以每天晚饭前，稍带着散步，总要去上一回。③难得来到这个地方，就想每天去洗温泉澡，所以在晚饭前，我总是作为运动上那里去。	C	A-92	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	深さは立って乳の辺までであるから、運動の為に、湯の中を泳ぐのは中々愉快だ。		①水深齐胸，为运动起见，在热水里游上一阵特别开心。②深度，站着可以达到胸部上下，所以在浴池里游一游，活动一下身体，真是愉快极啦。③水深齐胸，为了运动，在浴池里游泳，很是痛快！	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	湯の中で泳ぐものは、あまり有るまいから、この貼札はおれの為に特別に新調したのかも知れない。		①在浴池里游泳的人并不多，这字条是新贴上的，肯定是冲着我来。②由于很少有人能在浴池里游泳，这块牌子也许是专为俺做的吧。③在温泉池中游泳的几乎绝无仅有，看来，这块牌子是特意为我而新做的。	C	A-15	C	坊ちゃん（哥儿）
	山嵐は might is right という英語を引いて説論を加えたが、何だか要領を得ないから、聞き返してみたら強者の権利と云う意味だそう。		①豪猪引用一句英语 might is right 加以论证。我不明白，问他什么意思。他说：“强权即公理。”②“豪猪”引了 might is right 这句英语来劝导俺，俺一时听不明白。又问了一遍，原来是“权力即权利”的意思。③野猪引用了 might is right 的英语来告诫我，我弄不懂是什么意思，反过去问他，他说是“强者有理”的意思。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	一体癖性だから夜具蒲団などは自分のものへ薬に寝ないと寝た様な心持がしない。		①我有一种怪毛病，总是躺在自己的被子里才舒服，否则我就无法入睡。②俺原是个爱洁净得出奇的人，所以被褥什么的，如果不是舒舒服服地睡在自己的被褥上，就好像没有睡过觉似的。③我一向有个毛病，如果不舒舒服服睡在自己的被褥里就睡不着觉。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	よくあんなものを食って、あれだけに暴れたもんだ。それで晩飯を急いで四時半に片付けてしまふから豪傑に違ない。		①难为他们吃了这种饭还能那般胡闹。况且开饭甚早，四点半之前就吃完了，可算是英雄好汉。②真难为这些学生们吃了那样糟糕的东西，居然还干得出那么多调皮的事儿！而且这些学生们都是急脾气，四点半钟就把晚饭给报销啦，真算得上是群英雄好汉。③学生们吃得这么差，还有劲这么胡闹，真是难得。而且四点半钟就早早把晚饭吃完了，真是好样的！	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	飯は食ったが、まだ日が暮れないから寐る訳に行かない。		①吃罢饭，太阳还老高的，没法去睡觉，便想去洗个温泉澡。②俺，饭是吃过了，但天还没黑，也不便就此睡下，很想去温泉洗个澡。③饭是吃过了，可天还没有黑，当然没法睡觉，这一来就想到温泉去一下。	C	B-3	B-12	坊ちゃん（哥儿）
	すたすた急ぎ足にやってきましたが、擦れ違った時おれの顔を見たから、一寸挨拶をした。		①他大步流星地走着，快要擦肩而过的时候，一眼看到了我，我跟他打了声招呼。②他迈开大步急急地赶来，在俺和他相对擦肩而过的时候，他看了俺一眼，于是俺向他打了个招呼。③匆匆地直往前来。和我擦肩而过时看见了我，我点了一下头。	C	A-38	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは腹が立ったから、ええ宿直です。		①我满肚子不高兴，说：“嗯，是我值班。②俺发火了，“唔，是值班。③我很不高兴地说：“是呀，是值班。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	宿直ですから、これから帰って泊る事は儘かに泊りますと云い捨てて済ましてあるき出した。		①正因为值班所以这才回校，老老实实住在那儿。”说完，扬长而去。②正因为是值班，所以俺现在回学校去，住嘛，会住在那里的，不成问题的。”说罢，没再理他，就满无所谓地走开了。③因为值班，这才往回走。既然要住一宿，就认真地去住呗！”说完，我就走了。	A-46	A-46	A-93	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	「おい君は宿直じゃないか」と聞か ら「うん、宿直だ」と答えたら、「宿 直が無暗に出てあるくなんて、不都合 じゃないか」と云った。		①“喂，不是你值班吗？”“嗯，是我值 班。”“值班时间出外乱跑不合适吧？”② 他问俺：“喂，你不是值班吗？”俺回答说： “嗯，是值班。”他说：“值班却在外面乱 撞，不太合适吧。”③野猪问：“喂，你不是 值班吗？”我答道：“嗯，是值班。”他又说： “值班也随便跑出来，不合适吧。”	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	暑い時には散歩でもしない宿直も骨 でしょうと校長が、おれの散歩をほめ たよと云って、面倒臭いから、さっ さと学校へ帰って来た。		①他说，天气热，值班时不出外走走，哪 受得住啊。”我嫌麻烦，再不愿多说，便匆 匆回到学校来了。②校长还夸俺出来散 步，说：“这种热天，不出来散步，那值 宿也真够呛阿。”俺感到事情越来越麻 烦，便三步两步赶忙回学校里来了。③刚 才碰到过校长了，他对我出来散步还大加 赞赏呢，说天热的时候，如果不出来散步 ，值班员也真够受的！”我怕说下去太 ■嗦，就转身走回学校来了。	B-2	B-2	B-1	坊ちゃん（哥 儿）
	くれてから二時間ばかりは小使を宿直 部屋へ呼んで話をしたが、それも飽き たから、寐られないまでも床へ這入ろ うと思つて、寐巻に着換えて、蚊帳を 捲くつて、赤い毛布を跳ねのけて、頓 と尻持を突いて、仰向けになった。		①晚上我把校工叫到值班室闲聊了两个 多钟头，谈够了，不管能不能睡着就想往 床上钻。我换上睡衣，撩起蚊帐，推开红 毛毯，咚地一屁股坐倒，仰面朝天躺着。 ②天黑以后，俺把工友叫到值班室来，和 俺聊了两个钟头。后来，也腻烦了，俺想 即使睡不着，也先在被窝里躺下再说，于 是换上了睡衣，揭开蚊帐，把红毛毯掀到 一边去，咚的一声来了个屁股蹲，坐到被 窝里，然后仰面朝天躺下了。③天黑后， 我把校工叫到值班室，闲谈了两个小时， 觉得腻味了，心想睡不着也得在床上躺 着。于是，换上睡衣，撩起蚊帐，把红毯子 往旁边一推，屁股朝下猛地一■，仰面躺 了下去。	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	法律の書生なんてものは弱い癖に、や に口が達者なもので、愚なる事たら しく述べ立てるから、寐る時にどんど ん音がするのはおれの尻がわるいの じゃない。下宿の建築が粗末なんだ。 掛け合うなら下宿へ掛け合えと回まし てやった。		①这个学法律的学生很懦弱，但嘴巴很能 讲，长篇大论讲了许多愚蠢的话来。我顶 撞他说：“睡觉时发出咚咚的声音，不是我的 屁股作孽，是因为公寓的建筑太简陋 了。你有意见可直接找房东提。”②学法律 的书生这号人，别看他长得瘦弱，但嘴头 子上却能说会道，滔滔不绝，竟朝俺说这 些屁话。俺把他顶了回去，说：“咚咚发出 响声，怨不着俺的屁股，是因为公寓的建 筑太粗糙啦。如果你要抗议，请向公寓去 抗议吧！”③那个学法律的学生很懦弱， 可那张嘴却特别厉害，说起蠢话来也是长 篇大论的。我还口说：“睡觉时咚咚地响， 那不是我的屁股有毛病，而是公寓的房子 太简陋。你要是有意，那就找公寓去说 吧！”	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	この宿直部屋は二階じゃないから、い くら、どしんと倒れても構わない。		①这间值班室不在楼上，不管怎么摔都没 有关系。②可现在这个值班室，并不是楼 上，不管俺怎样咕咚的躺倒，也没啥关 系。③这值班室不在楼上，任我怎么■屁 蹲也不要紧。	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	ざらざらして蚤の嫌でもないからこ いつあど驚ろいて、足を二三度毛布の中 で振つてみた。		①扎扎拉拉地不象跳蚤，哎呀，我吓了一 跳，两腿在毛毯里抖落了好几下。②硬梆 梆的不象是跳蚤。俺惊叫了一声“哎呀”， 把两腿在毛毯中抖落了一下。③涩拉拉 的，又不象是跳蚤。我吓了一跳，用脚在 毯子里踢了两三下。	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	相手が小さ過ぎるから勢よく投げつけ る割に利目がない。		①无奈对方太小，使再大的力气也碰不着 它们。②可对手太小，别着狠狠地扔过 去，却收效不大③可是对手太小，扔得劲 大，却不大起作用。	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	仕方がないから、又布団の上へ坐つ て、煤掃の時に藁を丸めて畳を叩く様 に、そこら近辺を無暗にたたいた。		①没办法我又坐在被子上，象大扫除时卷 起软席敲打地面一般。②不得已，俺象大 扫除时把草席子卷起来敲打座席那样，把 周围狠狠地拍打了一阵。③没办法，只得 又坐在褥子上，象扫除时把席子卷成圆筒 敲打塌塌米似的，用枕头朝身子周围不停 地拍打起来。	C	C	B-8	坊ちゃん（哥 儿）
	バツタが驚ろいた上に、枕の勢で飛び 上がるものだから、おれの肩だの、頭 だの鼻の先だのへくっ付いたり、ぶつ かったりする。		①我一个劲儿猛砸，蚂蚱吃惊了，随着枕 头跳上来，撞击着或落在我的肩膀、脑袋 和鼻尖上。②蝗虫受了惊吓，加上在枕头 敲打之下，都飞了起来。在俺的肩上、头 上、鼻尖上，又是落又是乱撞。③蝗虫被 惊动了，随着枕头飞了起来，不停地碰到 或落在我的肩膀上、头上、鼻尖上。	C	C	C	坊ちゃん（哥 儿）
	顔へ付いた奴は枕で叩く訳に行かない から、手で攫んで、一生懸命に擲きつ ける。		①落在脸上的不能用枕头打，只能用手抓 来使劲摔死。②落在脸上的，不好用枕头 敲打，就用手去抓，狠命地摔。③落在脸 上的，没法用枕头打，只好用手抓住，使 劲往外摔。	B-22	B-1	B-9	坊ちゃん（哥 儿）
	忌々しい事に、いくら力を出しても、 ぶつかると先が蚊帳だから、ふわりと動 くだけで少しも手筈がない。		①令人恼的是，不管花费多大力气，由 于撞到了蚊帐上，只是轻轻颤动一下，便 毫无反应了。②令人可气的是，不管你怎 样使出九牛二虎之力，砸上去的是蚊帐， 只是轻轻颤动一下，丝毫也用不上劲 儿。③可恨的是无论怎么使劲，因为撞到 了蚊帐上，所以只是轻轻地颤动，毫无反 应。	A-15	C	A-7	坊ちゃん（哥 儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	いたずらと罰はつきもんだ。罰があるからいたずらも心持ちよく出来る。		①淘气就要受处罚,有了处罚淘气才显得有趣。②淘气就离不开受处分,由于有处分,淘气的事,干起来才觉得痛快。③淘气和处罚是连着的。有处罚,淘起气来心里才痛快。	B-6	A-15	B-6	坊ちゃん(哥儿)
	手燭をつけて一匹ずつ焼くなんて面倒な事は出来ないから、釣手はすしして、長く畳んで置いて部屋の中で横堅十文字に振ったら、環が飛んで手の甲をいやと云う程焼った。		①要是点起灯烛一个去烧,那样太麻烦,于是就摘下蚊帐,叠成长条,在屋子中央上下左右甩了一口气。环子砸在手背上,好一阵疼痛。②俺干不了那种晃着蜡烛,把蚊子挨个烧死的麻烦事儿,便把蚊帐钩摘下,把蚊帐长长地叠起来,在屋子里上下左右地一抖落,蚊帐环一甩,狠狠地打在了手背上。③要是点上蜡烛去一只只地烧,实在太麻烦了。于是从吊钩上摘下蚊帐,叠成长条,在屋子里上下左右乱挥了一阵,钩环扫过来,狠狠地打痛了我的手背。	A-38	B-2	A-38	坊ちゃん(哥儿)
	ランプは既に消してあるから、暗くてどこに何が居るか判然と分らないが、		①灯已熄了,黑暗中看不清哪里摆着什么东西。②尽管煤油灯已吹熄,黑暗得很,有什么东西,在哪儿,都看不大清。③灯已经熄了,周围很暗,分辨不出在哪里有什么东西。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	正直だから、どうしていいか分らないんだ。		①正因为正直,所以不知道该怎么办。②由于俺为人太正派,所以才想不出好主意来。③因为我为人正直,所以才不知怎么办。	A-46	A-95	A-94	坊ちゃん(哥儿)
	おれはこう決心をしたから、廊下の真中へあぐらをかいて夜のあけるのを待っていた。		①一旦下定决心,我盘腿坐在走廊中央等待天明。②俺既然这样下了决心,便在走廊的中间,盘腿而坐,等待天亮。③我这样下定了决心,就盘腿坐在走廊当中等着天明。	C	A-96	B-1	坊ちゃん(哥儿)
	おれが宿直部屋へ連れて来た奴を詰問し始めると、豚は、打つても擲いても豚だから、只知らんがなで、どこまでも通す見と見えて、決して白状しない。		①我把那个学生带到值班室来审问。猪到底是猪,揪他打他,一口咬定不知道。要么就这样熬死过去决不招供。②他开始审问那两个被俺带进值班室的家伙。猪罗这种东西,你就是打它骂它,终究是猪罗。这两个家伙,看来是始终要用“不知道”来搪塞过去,说什么也不肯交代。③我开始审问带到值班室来的家伙。是猪,打也好,鞭打它也好,到头来还是猪。他只是一味地回答说不知道,看来是想就这样坚持到底,决不招认。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	こんな悠長な事をするから生徒が宿直員を馬鹿にするんだ。		①这样放纵下去,致使学生连值班教师都捉弄了。②正由于他做起事来这样不死不活的,所以住学生才敢于捉弄值宿教员。③正因为办事拖拉,所以学生才敢捉弄值班教师。	A-97	A-59	A-46	坊ちゃん(哥儿)
	こう思ったが向うは文学士だけに口が達者だから、議論じゃ叶わないと思って、だまっていた。		①我心中虽这么想,但对方是文学士,能说会道,争论起来敌不过他,所以就闷声不响了。②俺心里虽然这样想,但对方是个文学士,能说会道,争论起来,当然争论不过他,所以俺什么也没说。③我虽这么想,可对方是文学士,能说会道,辩论起来,我肯定不是对手,只好默不作声。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	吉川君と二人ざりじゃ、淋しいから、来給えとしきりに勧める。		①只有我和吉川君两人,太冷清,你也来吧。②他一个劲儿劝我。③我和吉川君两人去,太单调,你也来吧。④光和吉川君两个人去,怪寂寞的,走吧!”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	赤シャツの行く所なら、野だは必ず行くに極まっているんだから、今更驚ろきもしないが、		①红衬衫要去的地方,小丑也一定去,这是不足为怪的。②“红衬衫”所到之处,“蹩脚帮”一定跟着,所以听了这话,俺也不觉得奇怪。③红衬衫要去的地方,帮腔佬定去无疑,这已是不足为怪的了。	C	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれはこう考えたから、行きましようかと答えた。		①想到这里我就回答:“那就去吧。”②想到这里,俺回答说:“那好吧,俺去。”③这么一想,便答应说:“去吧!”	B-1	C	B-2	坊ちゃん(哥儿)
	ターナーとは何の事だか知らないが、聞かないでも困らない事だから黙っていた		①透纳是什么人,我不知道,不过不打听清楚,于我也无碍,所以我没有开口。②塔诺儿是什么,俺不知道,不过不打听,也犯不了什么难,所以俺默不作声。③我不知透纳是怎么回事,这事不问也无关紧要,所以没有吭声。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん(哥儿)
	出来る事なら、あの島の上へ上がってみたいと思ったから、あの岩のある所へは舟はつけられないんですかと聞いてみた。		①如果可能,真想到岛上看看,于是问道:“那块满布岩石的地方,船能靠岸吗?”②俺想,如果可能,俺很想登上那个岛去看看,于是俺问:“在那儿有岩石的地方,船不能找岸啊?”③可能的话,真想上岛去看看,于是我问:“在那有岩石的地方能靠船吗?”	A-38	C	A-38	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	なに誰も居ないから大丈夫ですと、一寸おれの方を見たが、わざと顔をそむけてにやにやと笑った。		①“这里没有什么人，不要紧的。”说罢转过脸去，嘻皮笑脸的样子。②“没有旁人，不要紧的。”他说完，看了俺一眼，特地扭过头去抿着嘴笑了笑。③“没关系，这里又没有旁人。”帮腔佬说话时看了看我，又故意背过脸去格格地直笑。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	人に分らない事を言って分らないから聞いたって構やしませんでえ様な風をする。		①谈论一些别人听不懂的事，以为人家听了也没有关系，做出若无其事的样子。②不过，他们似乎在说些别人不懂的事儿，以为别人不懂，所以就不怕人听。③说些人家听不懂的话，认为人家听了反正也不懂，就装着满不在乎的样子。	C	A-36	B-1	坊ちゃん (哥儿)
	面倒だから糸を振って胴の間へ擲きつけたら、すぐ死んでしまった。		①我嫌麻烦，抡起钓丝摔到船里，鱼立即死了。②俺烦了，抡起钓线，把鱼摔在船的中央，立刻就摔死了。③我嫌麻烦，于是抡起钓线，把鱼朝船舱里使劲一擲，鱼当即死了。	C	C	A-38	坊ちゃん (哥儿)
	おれは一匹で懲りたから、胴の間へ仰向けになって、さっきから大空を眺めていた		①我钓了一条就厌烦了，仰朝天躺在船舱里，一直眺望着天空。②俺真替他们遗憾得很！俺钓上一条就再也不想钓了，仰卧在船腹当中，一直在眺望着天空。③我钓了一条就尝够了苦头，所以一直仰面躺在船舱里望着天空。	C	C	A-36	坊ちゃん (哥儿)
	おれの事は、遅かれ早かれ、おれ一人で片付けて見せるから、差支えはないが、		①我的事迟早由我一一人解决，没什么要紧。②俺的事，迟早俺会自己来善后，不会有什么问题的。③我的事迟早我自己会处理好的，不用你来多嘴！可	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
「君が来たんで生徒も大に喜んでるから、奮発してやってくれ給え」		①“你来了学生也很欢迎，你要好好干哪。”②“由于你来任课，学生们都很欢迎呢，加劲干吧。”③“你来了之后，学生们都非常高兴。希望你好好地干呀！”		C	A-15	C	坊ちゃん (哥儿)
	こいつの云う事は一々癪に障るから妙だ。		①不知怎的，这家伙一开口我就来火。②真是怪啦，这家伙只要一开口，没有一句话不惹俺生气③说来也怪，这家伙说什么都招人生气。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
「そんな面倒な事情なら聞かなくてもいいんですが、あなたの方から話し出したから伺うんです」		①“这样复杂的问题，我本来可以不问，因你主动提到了我才问的呀。”②“假如是那样不好说清楚，不问也可以，是您开始提起来的，所以我才问。”③“既然情况那么复杂，那就不问也罢。因为你这么提起，我才问的。”		A-13	A-36	A-2	坊ちゃん (哥儿)
「無論怖くはない、怖くはないが、乗ぜられる。現に君の前任者がやられたんだから、気を付けなといけないう云うんです」		①“当然不怕。虽然不怕，人家也要钻的，你的前任就吃了大亏，所以我劝你要注意。”②“当然，你不怕，怕是不怕，不过会上当。先说吧，你的前任不就是上当了吗？所以我说，你得多加小心。”③“当然不怕。可不怕还是被人钻了空子呀！你的前任教员就吃了苦头，所以才提醒你注意的。”		A-36	A-36	A-83	坊ちゃん (哥儿)
だれと指すと、その人の名誉に關係するから云えない。・・・		①“你问是谁，因为关系个人的名誉，我不便告诉你。②“你让我指出他是谁，这关系到他的名誉，我可不能说。③“说出人來，就关系到人家的名誉，所以不能说。”		A-1	C	A-36	坊ちゃん (哥儿)
又判然と証拠のない事だから云うと此方の落度になる。		①再说也没有确凿的证据，若说出来就是我的不对了。②而且也没有确凿的证据，如果我说，那我就缺了理。③而且又没有确凿的证据，如果说出来，那就是我的不对了。		C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
とにかく、折角君が来たもんだから、ここで失敗しちゃう僕等も君を呼んだ甲斐がない、どうか気を付けてくれたまえ		①总之，你特意到此地來，要是在这件事情上失败了，也不是我们请你來的本意，还是注意些为好。”②总之，难得你到这个学校來，如果你在这里搞砸了，那我们把你聘请來的一片苦心，也就付之东流啦。请你务必多加小心吧！”③总之，你特意來这里，如果失败了，那就失去了我们请你來的本意。你得多加留神。”		C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	判然とした事は云わないから、見当がつかかねるが、		①他的话若明若暗，叫人摸不着头脑。②虽然由于他不肯明说，俺还琢磨不透，③因为他没有把话说明白，所以难以捉摸，	C	A-15	A-7	坊ちゃん (哥儿)
	何でも山嵐がよくない奴だから用心しろと云うらしい。		①不过他好象暗示：“豪猪不是好东西，你要当心。②不过他好象是说：“豪猪”是个坏家伙，要俺多加提防③但话里似乎在说，野猪终究不是好东西，要提防着他。	C	C	C	坊ちゃん (哥儿)
	藤口をきくのでさえ、公然と名前が云えない位な男だから、弱虫に極まってる。		①即使私下里议论起來也不敢指名道姓，看来肯定是个胆小如鼠的人。②就连背地里讲话，都不敢公然提名道姓，可见是个窝囊废。③连在背地里议论人都不敢公开指名道姓，这种人肯定是胆小鬼。	C	A-41		坊ちゃん (哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	弱虫は親切なものだから、あの赤シャツも女の様な親切ものなんだろう。		①大凡胆小鬼都很亲切,所以那位红衬衫也象女人般和善。②窝囊废对人都都是亲切的,所以这个“红衬衫”也会和女人一样地对人亲切的吧。③胆小鬼总是和蔼可亲的,所以红衬衫才显得跟女人一样和蔼可亲吧。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん(哥儿)
	親切は親切、声は声だから、声が気に入らないって、親切を無にしちゃ筋が違う。		①亲切归亲切,声音归声音,因为讨厌他的声音而将他的亲切也一概抹杀,这有些说不过去。②关切是关切,声音是声音,这是两码事儿。虽说俺不喜欢他的那种声音,但是俺总不该辜负他对俺的一片好心呀。③可亲归可亲,声音属声音,因为声音不顺耳,就否认了人家的可亲之处,那也不是不公道的。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	大方田舎だから万事東京のさかに行くんだろう。		①也许因为乡下,万事都和东京相反吧。②可能因为这儿是偏远的小地方,万事都和东京颠倒的吧。③也许因为这里是乡下,一切都与东京相反吧。	A-1	A-1	A-1	坊ちゃん(哥儿)
	おれはたった一杯しか飲まなかったから一銭五厘しか払わしやない。		①因为我只吃了一杯,所以他只得了一分五厘钱。②俺只喝了一杯冰水,所以只让对方替我付了一分五厘钱。③我只喝了一杯,他只付了一分五厘钱。	A-7	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれはここまで考えたら、眠くなったからぐうぐう寐ってしまった。		①想到这里,我感到疲倦,就昏昏睡了。②俺琢磨到这儿,上来了困意,便呼呼噜噜地睡着了。③我想到这里,睡意上来了,随即呼呼睡去。	B-1	B-2	C	坊ちゃん(哥儿)
	あくる日は思う仔細があるから、例刻より早や目に出勤して山嵐を待ち受けた。		①第二天,由于心中有事,便极早赶到学校等着豪猪。②第二天,由于俺心中有事,到学校去就比平常的时间早一些,去专等“豪猪”。③第二天,因为有心事,所以比平常早早地到了学校,单等野猪到来。	A-16	A-15	A-7	坊ちゃん(哥儿)
	おれは着っ手だから、開けて見ると一銭五厘が汗をかいている。		①我的心手好出汗,张开一看那一分五厘钱早被汗水浸湿了。②俺是汗手,放开手一看,这一分五厘钱都变得水淋淋的了。③我是汗手,伸开手一看,那一分五厘钱都被擦出了汗。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	汗をかいてる銭を返しちや、山嵐が何とか云うだろうと思ったから、机の上へ置いてふうふう吹いて又握った。		①心想,要是把汗水浸湿的钱给他,豪猪说不定会说闲话,所以在桌子上吹了又吹,重新攥在手里。②俺心想:如果俺把沾满了汗水的铜板还给“豪猪”,他说不定会说出点什么难听的来,于是俺把铜板放在桌子上,嘎嘎的吹了一阵,然后又把它攥到手里。③心想把冒汗的钱还给他,不知野猪又会说出什么话来,于是把钱放在桌子上吹干,然后又捏在手里。	A-36	A-38	A-38	坊ちゃん(哥儿)
	ところへ赤シャツが来て昨日は失敬、迷惑でしたらうと云ったから、迷惑じゃありません、御蔭で腹が減りましたと答えた。		①这时,红衬衫来了,他说:“对不起,昨天有劳你啦。”我回答:“不客气,托你的福,肚子有些饿。”②就在这时候,“红衬衫”跑到俺的面前来说:“喂呀,昨天太过意不去了,让你跟着跑了一趟。俺回答说:“不是白跑一趟,而是托你的福,饿了一顿肚子哩。”③这时红衬衫走过来对我说:“昨天太对不起啦,难为你喽!”我答道:“倒也没有什么,只是托福让我饿了肚子。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	すると赤シャツは山嵐の机の上へ腕を突いて、あの盤台面をおれの鼻の側面へ持って来たから、何をするかと思ったら、君昨日帰りがけに船の中で話した事は、秘密にしてくれたまえ。まだ誰にも話しやしませんまいねと云った。		①红衬衫把胳膊肘撑在豪猪的桌上,把他那张痒痒的圆脸凑到我的鼻子旁边。我想他究竟要干什么呢?只听他说:“哎,昨天回来时咱们船上谈的事儿请保密。你没有告诉别的人吧?”②这时,“红衬衫”把胳膊肘支在“豪猪”的桌子上,把他那大圆脸凑到俺的鼻子旁边来,俺想他这是要做什么呀,原来他向俺说:“喂,昨天临回来的时候,在船上谈的事,你可不要对任何人说呀。你大概还没有对任何人说吧。”③红衬衫两手撑在野猪桌子上,把那张椭圆形的面孔就到了我的鼻子跟前。我想:他要干什么?他说:“老弟,昨天回来时在船上谈的事,务必保密,你该没有向任何人说吧?”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	やがて始業の喇叭がなった。山嵐はどうとう出て来ない。仕方がないから、一銭五厘を机の上へ置いて教場へ出掛けた。		①过一会儿,上课铃响了,豪猪一直没有来,我只好把一分五厘钱放在桌子上,然后到教室去了。②不久,上课的喇叭响了。“豪猪”终于没有到校,俺无奈把一分五厘钱放在桌子上,上课去了。③不一会,上课的号声吹响了,野猪还是没有来。没法,只好把一分五厘钱放在桌子上,上课去了。	B-9	C	B-9	坊ちゃん(哥儿)
	おれは机の上にあった一銭五厘を出して、これをやるから取って置け。		①我拿起桌上的一分五厘钱放到豪猪眼前:“这个还你,拿去!”②俺把桌子上的一分五厘钱拿起来说:“给你这个,你收下吧。”③我拿起桌上的一分五厘钱,放在野猪跟前,说:“给你,拿去。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
「冗談じゃない本当だ。おれは君に氷水を着られる因縁がないから、出すんだ。取らない法があるか」		①“不是开玩笑，是真的。我不能无缘无故让你请客喝冰水，还你，你不能不要。”②“不是玩笑，是真格的。俺可没有让你请喝冰水的命，所以还你。你怎么能不收下？”③“不是开玩笑，是真的。我没有要你请喝冰水的理由，所以把钱还给你。你哪能不收？”		C	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
「今時分でも、いつ時分でも、返すんだ。着られるのが、いやだから返すんだ」		①“现在不还，将来也要还的，你请客我还不情愿呢，还你。”②“现在也罢，什么时候也罢，反正就是要还你。俺不要你请客，就还嘛。”③“管它现在，还是几时，反正要还。我不高兴要人家请客，所以要还。”		C	B-1	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	赤シャツの依頼がなければ、ここで山嵐の卑劣をあげて大喧嘩をしてやるんだが、口外しないと受け合ったんだから動きがとれない。		①假如不是红衬衫有言在先，我非当面揭露豪猪的卑劣行为，和他大吵一顿不可。②因为已经答应人家不外传了，只好作罢。③要不是“红衬衫”要求俺不要说，那俺就立刻把“豪猪”的单脚行径，全抖搂出来，和他狠狠吵上一架。但是由于俺已答应不说，结果俺可就非常被动啦④如果不是红衬衫求过我，我会当场把野猪的可耻行径兜露出来，跟他大吵一场。可是答应了不说，这就没法发作了。	A-81	A-60	B-1	坊ちゃん（哥儿）
「氷水の代は受け取るから、下宿は出てくれ」		①“冰水钱我收下啦，请你快搬出寓所。”②“冰水钱我收下，请你从住处给我搬出去！”③“冰水钱我收下。但你得从寓所搬走！”		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
「なぜ置いたか、僕は知らん、置く事は置いたんだが、いやになったんだから、出ると云うんだらう。君出てやれ」		①“他为什么出租我不清楚，租是租了，眼下不高兴，他说叫你搬走，你就得搬走。”②“我不知道他为什么租给你，租是租给你，可现在他不愿意租啦，所以要你搬出。那就请你搬出去！”③“为什么出租我也不知道。租是租了，可如今是人家讨厌你才要你搬走的。你就搬出来吧！”		C	A-36	B-6	坊ちゃん（哥儿）
	山嵐もおれに旁らぬ肝癪持ちだから、負け嫌な大きな声を出す。		①豪猪的火暴性子不亚于我，他扯起嗓门大嚷起来。②“豪猪”和俺差不多，也是个爱动肝火的人，所以他也毫不示弱地大嚷嚷着。③野猪也是个不亚于我的暴性子，粗声大气地喊起来。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは、別に耻ずかしい事をした覚えはないんだから、立ち上がりながら、部屋中一通り見巡わしてやった。		①我自以为没有干什么丢丑的事，兀自站立着，向室内环顾了一遍。②俺回心无愧，便站了起来，同时环视了一下整个屋子。③我并不感到我做错了什么事，便站起身来向室内环视了一圈。	C	B-2	B-2	坊ちゃん（哥儿）
	会議と云うものは生れて始めてだから頼と容子が分らないが、		①我有生以来头一次参加开会，根本不知道这是怎么回事。②有生以来，俺还是第一次参加，所以怎样个开法，一无所知。③提起开会，平生还是第一次，根本不知道怎样个开法。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは様子が分らないから、博物の教師と漢学の教師の間へ這入り込んだ。		①我因为不了解情况，便在博物教员和汉学教员中间坐下了。②俺不懂应该怎么坐，便钻到博物教员和汉学教员中间坐下了。③我不了解这些规矩，挤到博物教员和汉学教员之间。	A-3	B-2	C	坊ちゃん（哥儿）
	今日は怒ってるから、眼をぐるぐる廻しちや、時々おれの方を見る。		①今天，因为生气，眼珠子时时打转，不住地瞋我。②今天“豪猪”在恼火，他咕鲁咕鲁转动着眼珠，不时地看俺。③野猪今天显得很生气，眼珠子滴溜乱转，不时地看看我。	A-1	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	あなたは眼が大きいから役者になるときと似合いますと清がよく云った位だ。		①阿清时常说：“你的眼睛大，当演员肯定合适。”②甚至连清婆都时常说：“少爷您的眼睛很大，所以您当演戏的，肯定是合适的。”③阿清婆经常说：“你是大眼睛，当演员一定很合适。”	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	挨拶をするとへえと恐縮して頭を下げるから気の毒になる。		①每逢同他打招呼，他就“哎”地一声恭敬地低下头来，倒使我有些难为情。②俺打个招呼，对方总是毕恭毕敬地答应一声“欸”，然后低头为礼，使人觉得他这个人怪可怜的。③跟他打招呼，他总是连声答应着，恭恭敬敬地低下头行礼，使人感到他很可怜。	B-5	B-5	B-5	坊ちゃん（哥儿）
	この位関係の深い人の事だから、会議室へ這入るや否や、うらなり君の居ないのは、すぐ気がついた。		①我同老秧君的关系如此深厚，所以一进会议室就发现他不在。②由于“老秧”君是个和我关系这样密切的人，所以当俺一进会议室，立刻就注意到了他不在。③因为他是这么一位印象极深的人，所以一走进会议室立刻发现冬瓜脸君不在。	A-36	A-18	A-7	坊ちゃん（哥儿）
	おれは、じれったく成ったから、一番大に弁じてやろうと思って、半分尻をあげかけたら、赤シャツが何か云い出したから、やめにした。		①我有些耐不下去，想头一个站起来辩解一番。刚抬起半边屁股，红衬衫发言了，我只得作罢。②俺再也擦不住了，刚抬起一半屁股，想要讲它一通，可就在这时，“红衬衫”已开始讲话了，俺只好不讲。③我烦躁起来，想第一个发言，屁股刚抬起来一半，见红衬衫开口说话，就又坐了下来。	B-8	B-9	B-1	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	かつ少年血気のものであるから活気があふれて、善悪の考はなく、半ば無意識にこんな悪戯をやる事はないとも限らん。		①况且少年们血气方刚，朝气蓬勃，一时分不清善恶，或许是半无意识地干了坏事，也未可知。②而且少年血气方刚，活泼好动，缺乏判断善恶的能力，很可能半无意识地干出这种淘气的举动。③何况少年血气方刚，生气横溢，好坏不分，这么淘气，说不定多半出于无意。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	気狂が人の頭を振り付けるのは、なぐられた人がわるいから、気狂がなぐるんだそうだ。		①好比一个疯子打破了人家的头，他可以说，都是因为被打的人不好，疯子才打他的。②疯子打了别人的脑袋，是因为被打的人不好，所以疯子才打的。③也就是说疯子之所以打人的头，是因为被打者不好，才招到疯子打的。	A-55	A-98	A-55	坊ちゃん（哥儿）
	狸でも赤シャツでも人物から云うと、おれよりも下等だが、弁舌は中々達者だから、まづい事を喋舌って揚足を取られちゃ面白くない。		①狐狸和红衬衫，论人格均比我低下，但都能说善辩，倘若我说得不好，被他们挑毛病就没意思了。②“狗獾”和“红衬衫”从人品说，比俺差得远，但在嘴巴子上，却都能言善辩，如果俺说得不妙，让他们抓了小辫子，那可就糟糕了。③狐狸也好，红衬衫也好，从人品来说居我之下，但讲起话来却是把好手。如果我说得不够味，让人钻了空子，岂不难堪。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは野だの云う意味は分らないけれども、何だか非常に腹が立ったから、腹案も出来ないうちに起ち上がってしまった。		①我虽然不明白小丑说的意思，不过心中十分气愤，没等打好腹稿就霍然站了起来。②俺虽然听不太懂“蹩脚帮”所说的内容，但却非常生气，于是在俺的腹稿还未打好之前，就霍地站了起来。③我虽然没有听懂帮腔佬说话的意思，但却感到非常生气，腹稿还没有完成就站了起来。	C	A-38	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは生徒をあやまらせるか、辞職するか二つのうち一つに極めてるんだから、もし赤シャツが勝手を制したら、早速うちへ帰って荷作りをする覚悟でいた		①我决心已定，要么叫学生赔罪，要么是我辞职，二者必择其一。如果红衬衫的意见取胜，我立即回寓所卷铺盖。②俺早已下定决心，要么让学生承认错误，要么俺辞职，两者只能择一。所以，如果“红衬衫”操了胜券，那俺马上就回住处去卷铺盖。我已经横下一条心：不是让学生认错，就是我辞职，二者必居其一。如果红衬衫操了胜券，我打算立即回住处卷铺盖。③	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれはこう云う単純な人間だから、今までの喧嘩はまるで忘れて、大に難有いと云う顔を以て、腰を叩いた山嵐の方を見たら、山嵐は一向知らん面をしている。		①我就是这样一个单纯的人，我完全忘记了刚才的吵架，以十分感谢的神情朝坐下来的豪猪望望。豪猪全然一副若无其事的样子。②俺是这种直肠子的人，把刚才的吵架忘到九霄云外，脸上带着非常感激的表情来看就了座的“豪猪”，“豪猪”却毫不理睬俺。③我就是这样一个头脑简单的人，把刚才吵架的事全忘光了，脸上带着十分感激的神情，看着坐下去的野猪。而野猪却显出一副全然若无其事的样子。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
「只今一寸失念して言い落しましたから、申します。		①“刚才有件事忘记说了，现补充如下：②“刚才有点疏忽，忘了说件事情，现在讲一讲。③“刚才有几句话忘说了，再补充一下。		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	それから校長は、もう大抵御意見もない様でありますから、よく考えた上で処分しましょうと云った。		①校长接着说：“看来大家没有别的什么意见了，仔细考虑之后再给予处分。”②随后，校长说：“大体上诸位已经没有什么意见了，我要充分加以考虑之后，再进行处分。”③这时，校长说：“看起来，意见大致发表完了。待我好好考虑之后，再作出处分吧！”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは脳がわるいから、狸の云うことなんか、よく分らないが、		①我的脑子不灵光，听不懂狐狸的话是什么意思。②俺头脑笨，对“狗獾”说的那套话，不太明白。③我脑子笨，所以不大懂得狐狸说话的意思。	C	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	あんまり腹が立ったから「マドンナに逢うのも精神的娛樂でさか」と聞いてやった。		①我十分生气地问道：“会玛董娜，也是一种精神娱乐吗？”②俺越想越恼火，于是问他说：“和玛利亚幽会，也是精神娱乐吗？”③我实在气不过，顶了他一句：“与玛董娜幽会，是否也属精神娱乐？”	C	A-38	C	坊ちゃん（哥儿）
	こんな者を相手に喧嘩をしたって江戸っ子の名折れだから、車屋をつれて来てさっさと出て来た。		①跟这号人吵嘴有损江戸哥儿的名誉，我叫来车夫急忙走了。②把这号人当作吵架的对手，只能是俺“江戸儿”的耻辱。所以俺二话没说，找来车夫，就搬了出来。③与这种家伙争吵，有损江戸儿的名声。于是，我叫来车夫，拉着东西匆匆地走了。	C	A-36	A-38	坊ちゃん（哥儿）
	面倒だから山城屋へ行こうかとも考えたが、		①心想，真麻烦，不如再回山城屋去吧。②俺也想过：为了省事，还是先搬回山城屋去。③我心想：真烦人，还是回到山城店去吧？	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	又出なければならぬから、つまり手数だ。		①不过终究是要搬的，还不是一样费事。②可以后还得搬出来，实际反倒费事。③可说不定还得搬出来，又是麻烦事。	C	C	B-4	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	ここは士族屋敷で下宿屋などのある町ではないから、もっと賑やかな方へ引き返そうかとも思ったが、		①这里是士族人家的公馆，不象有公寓的样子，心想还是折回比较热闹的地方去吧。②这一带都是士族宅邸，不象是个会招租的区域，于是俺又想，还是折回到更热闹一点的地方去。③这一带是旧官僚的住宅区，并非旅店之类店家的街道，因此又想返回到更热闹一点的地方去。	C	A-38	A-37	坊ちゃん（哥儿）
	うらなり君は土地の人で先祖代々の屋敷を控えている位だから、この辺の事情には通じているに相違ない。		①老秧君是本地人，又有世代传下来的房产，对这里的情况一定谙熟。②“老秧”君是当地人，占着祖祖辈辈传下来的一所宅子，所以他肯定会知道这条街的情况。③冬瓜脸是当地人，住着祖先世代相传的住宅，他对这一带的情况肯定很熟。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	幸一度挨拶に来て勝手は知ってるから、捜がしてあるか面倒はない。		①幸好从前拜访过一次，知道地点，用不着到处打听。②幸而俺曾经一度到这儿来探望过他，了解他住在哪儿，毋需费事去现找。③幸而我曾来拜访过一次，知道地点，用不着费劲到处去找。	B-24	B-25	B-25	坊ちゃん（哥儿）
	大方清がすきだから、その魂が方々の御婆さんに乗り移るんだらう。		①也许因为喜欢阿清吧，所以见到所有的老婆婆就暗自比做阿清了。②这多半是因为俺喜欢清婆，所以她的魂儿附到了所有老婆婆的身上的缘故吧。③也许因为喜欢阿清婆，从而把这种好感移到其他老太太的身上了吧。	A-7	A-98	A-64	坊ちゃん（哥儿）
	気になるから、宿の御婆さんに、東京から手紙は来ませんかと時々尋ねてみるが、		①我不放心，时常问房东婆婆，东京有没有来信。②由于放心不下，俺不断问房东婆婆，有没有东京来的信。③因为很担心，所以经常问房东老太太，东京有没有信来？	C	A-15	A-7	坊ちゃん（哥儿）
	いか銀の様に御茶を入れまじょうと無暗に出て来ないから大きに楽だ。		①不过，他不象伊贺银那样拼命跑过来喝茶，所以快活多了。②但不象“假银”那样，动不动就到俺的房间里，来一通“让我给您沏壶茶吧”，所以俺住在这里轻松多了。③但因为他不象骗子银那样老来说“喝茶吧”，所以倒要痛快得多了。	A-36	A-36	A-7	坊ちゃん（哥儿）
	人を頼んで懸合うておみると、遠山さんでも古賀さんに義理があるから、すぐには返事は出来かねて——	①“他托人去说案，远山先生家因为把小姐早许了古贺先生，所以没能马上回话。②“他托人给他捏合。因为远山家已经和古贺家有言在先，当然无法立即回复③“他托人前来说媒，远山先生倒也说，已与古贺老痴定了案，所以不能很快答复	A-36	A-63	A-36	坊ちゃん（哥儿）	
	これじゃ聞いたって仕方がないから、やめにした。		①看来，再问她也问不出什么结果，我只好就此打住。②照这样子，就是再问也难问出个名堂来了。俺也就不再问了。③这样问下去，也问不出所以然来，只好作罢。	B-9	C	B-9	坊ちゃん（哥儿）
	符箋が二三枚ついてるから、よく調べると、山城屋から、いか銀の方へ廻して、いか銀から、萩野へ廻って来たのである。		①信封上粘着几张小字条，仔细一看，是从山城屋转到伊贺银，又从伊贺银转到萩野来的。②信封上粘有三条便条，仔细一看，原来是由山城屋转到“假银”家，由“假银”家又转到萩野这里来的。③上面粘着两三张条子，仔细查看一下，原来是从山城店转到骗子银那边，又从骗子银那里转到萩野家来的。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	坊っちゃんの手紙を頂いてから、すぐ返事をかこうと思ったが、生憎風邪を引いて一週間ばかり寝ていたものだから、つい遅くなって済まない。		①“接到哥儿的来信，本来想马上回信的，不巧患了感冒，躺了一个星期，所以耽搁下来，真对不起。②“接哥儿您的信后，我本想立刻写回信，不巧正患感冒，足躺了一个星期，所以回得晚了，对不起。③接到哥儿的信后，本想马上回信的，不巧患了感冒，躺了一个星期，所以还是回信迟了，请原谅。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	その上今時の御嬢さんの様に読み書きが達者でないものだから、こんなまずい字でも、かくのに余っ程骨が折れる。		①我比不上如今的小姐们那般能识会写，字也不象样子，尽管如此，倒也费了不少气力。②再说，我不象现在的小姐们那样，能读会写。别看我的字写得这样难看，可写起来还是十分费劲的。③我老了，不象如今的小姐那样读书写字都行，就是这 样难看的字，写起来也费了很大的劲。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	字がまずいばかりではない、大抵平仮名だから、どこで切れて、どこで始まるのだから句読をつけるのに余っ程骨が折れる。		①字不光难认，而且使用很多草写字母，不知道哪里开头，哪里断句，要读懂每一句话十分费力。②的确是很难辨认，不只是字写得不整齐，而且全文大部分是用楷体字母写的，只为了辨认出句子断在哪里，连在哪里，就要花很大气力。③读起来的的确很费劲，不仅字写得不好，而且大都是用平假名写的，哪儿是句尾，哪儿是句首，要断句是很困难的。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	おれは焦っ勝ちな性分だから、こんな長くて、分りにくい手紙は五円やるから読んでくれと頼まれても断るのだが、		①我是个急性子，要是平常有人拿了这样又长又难认的信来，花上五元钱请我念念给他听，我也不干。②俺是个动不动就起急的脾气，象这种又长又难认的信，就是有人给俺五块钱求俺读它，俺也决不肯读的。③我是个急性子，象这样冗长而又难认的信，如果是别人求我，说“给你五元钱，请你给念念！”我决不干。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	読み通した事は事実だが、読む方に骨が折れて、意味がつかないから、又頭から読み直してみた。		①读是读了，不过注意力全花在认字上了，意思都不甚明白，只好从头又读了一遍。②读是读了，但由于读起来非常费劲，意思连贯不起来，所以又从读了起来。③看完是看完了，可劲都花在认字上，意思仍连贯不起来，只得又从读了一遍。	B-9	A-18	B-8	坊ちゃん（哥儿）
	部屋のなかは少し暗くなって、前の時より見にくく、なったから、とうとう椽鼻へ出て腰をかがねがら鄰寧に拝見した。		①屋内渐暗了，比刚才更难辨认，我又来到廊下坐着，郑重其事地拜读了。②房间里稍微有点暗了下来，比刚才更难看清，俺终于走到了前廊的边儿上，坐在那里仔细地拜读起来。③屋子里暗下来了，比刚才看时更加费劲了，只好走到廊檐前坐下，认真地读起来。	B-4	A-77	B-9	坊ちゃん（哥儿）
	—ほかの人に無暗に渾名なんか、つけるのは人に恨まれるものになるから、やたらに使っちゃいけない、		①。随便给人起绰号，是会遭人忌恨的，所以不能再乱起了。②您给别人乱起外号，起外号，会招来别人的怨恨，您千万不要胡乱给人起外号了。③随便给别人起外号是要招人怨恨的，所以不要随便用外号叫人。	A-36	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	田舎者は人がわるいそうだから、気をつけて昔い目に遭わない様にする。		①听说乡下人很坏，你要当心，免得遭人欺侮。②听说地方上的人，为人坏，您要注意，别让人给您当上一③听说乡下人为人不好，可得当心，免得上当	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	氣候だって東京より不順に極ってるから、麻冷をして風邪を引いては行けない。		①那里的气候也一定不如东京，睡觉时不要受凉，防止伤风。②就连气候，肯定也不象东京这里调和，睡觉注意，不要着凉，别弄感冒了。③气候肯定也不如东京好，睡觉别贪凉，省得感冒。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	坊っちゃんの手紙はあまり短過ぎて、容子がよくわからないから、この次には責めてこの手紙の半分位の長さのを書いてくれ。		①哥儿的信很短，那边的情况写得不够详细，下回再来信至少要有这封信一半长。②您的信写得太简短了，我无法知道您的详情，下次来信，请您至少也要写这封信的一半长才好。③小少爷来的信太短了，没有把那边的情况说清楚，下次来信，至少要写得比这封信再长一半。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	宿屋へ茶代を五円やるのはいいが、あとで困りやしないか、田舎へ行って頼りになるは御金ばかりだから、なるべく儉約して、万一の時に差支えない様にしなくっちゃいけない。		①旅馆里给了五元小费可以，但此后会不会发生困难呢？到了乡下，诸处要用钱，尽量节俭着花，要留有余地，以防不时之需。②哥儿您给了旅馆五块钱小费，这虽然可以，但您不是后来手头就短缺了？您到地方去，唯一可依靠的只有钱，所以应当尽量节省，以备万一。③给了旅店五元茶钱也可以，不过，往后会不会有困难呀？到了乡下，唯一可依靠的就是钱，要尽可能节省些，以便万一可以有备无患	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	御小遣がなくて困るかも知れないから、為替で十円あげる。		①我怕你没有钱花受难为，现汇给你十元钱。②您也许手头缺零用钱，现寄去十块钱。③没有零花钱会不方便的，现给你汇去十元	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	この十円を引いてもまだ四十円あるから大丈夫だ。		①现支出十元，还剩四十元，不妨事。”②就是取出这十元，也还有四十块钱，所以不要紧的。”③这次取出十元，也还有四十元，不要紧的。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	年寄の方が脊は低い、然し顔はよく似ているから親子だろう。		①那个老年妇女，个子矮小，但两人面貌相象，看来是母女。②岁大的那个妇女，矮个子，但两人的长相却很相象，大概是母女吧。③纪大的那个人身材较矮，但长相很相似，也许是母女俩吧。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	遠いから何を云ってるのかわからない。		①因为离得远，听不清他们说些什么。②俺这地方太远，听不清他们说些什么。③因为离得远，不知他们说了些什么。	A-1	C	A-1	坊ちゃん（哥儿）
	住田まで上等が五銭で下等が三銭だから、僅か二銭違いで上下の区別がつく。		①头等的到住田才五分钱，普通车厢三分钱。上下只有两分钱的差别。②坐到住田车站，头等是五分钱，普通是三分钱，高低的区别，就差在这两分线上。③坐到住田，头等车厢五分钱，二等的三分钱，仅仅是二分钱的差额，居然要分出个上下来。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	尤も田舎者はけちだから、たった二銭の出入でも頗る苦になると見えて、大抵は下等へ乗る。		①不过，乡下人小气，这两分钱也看得很重，多半都乘普通的。②不过，看起来，这些乡巴佬都是些小气鬼，只差这两分钱也当成一回事，一般都坐普通席。③乡下人很小器，就那么二分钱，也看得很重，一般都坐二等车厢。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	おれはこの時何となく気の毒でたまらなかつたから、うらなり君のあとから、すぐ同じ車室へ乗り込んだ。		①此时,我对他倍感同情,跟在老秧君的后边,也迅速登上了普通车厢。②俺这时总觉得他可伶得很,所以跟在“老秧”君后边钻进了同一车厢。③此时,我对他非常同情,便跟在他后边,上了同一个车厢。	C	A-36	B-2	坊ちゃん(哥儿)
	おれは会議や何かでいざと極まると、咽喉が塞がって鏡舌れない男だが、平常は随分弁ずる方だから、色々湯壺のなかでうらなり君に話しかけてみた。		①我这个人逢到开会等场合,一旦要发言便觉得嗓子眼儿象被什么堵住似的,说不出话来,平常倒很爱多嘴多舌。于是,我和老秧君在浴室里海阔天空地谈开了。②俺如果在会议或其他类似场合,到了非发言不可的时刻,喉咙就象堵塞住了什么似的,话也不会讲了,可平时却又是相当能言善辩的。所以在浴池中向“老秧”君讲东讲西,不断与他搭话。③我在开会之类的场合,一旦决定要发言,咽喉就会堵住,说不上话来,可在平常还是挺能说的,所以在浴池里找出种种话题去和冬瓜脸君攀谈。	A-38	A-36	A-36	坊ちゃん(哥儿)
	尤も風呂の数は沢山あるのだから、同じ汽車で着いても、同じ湯壺で逢うとは極まっていない。		①浴室有好多处,即使同乘一列车来,也不一定能在同一浴室里见面。②不过,因为温泉旅馆里有好多间浴池,即使同一趟火车来的,也不一定在同一浴池里碰上。③因为浴池那么多,即使同车到达的人,也并不一定会在同一个浴池里碰上。	C	A-1	A-1	坊ちゃん(哥儿)
	一寸這入ってみたいが、又狸から会議の時にやられるかも知れないから、やめて素通りにした。		①很想进去看看,又怕狐狸在开会时提出批评,便打消这个念头,从大门口走过去了。②俺本想进去开开眼界,可又怕被“狗獾”开会的时候搞俺一通,所以就望门而过了。③很想进去看看,但说不定在开会时又要遭狐狸说一顿,所以只好作罢,就那么走了过去。	B-2	A-91	A-36	坊ちゃん(哥儿)
	つくしい人が不人情で、冬瓜の水膨れのような古賀さんが善良な君子なのだから、油断が出来ない。		①那样的美人儿是薄情的,象冬瓜一般浮肿的古贺先生却是个善良的君子。这世道真叫人大意不得。②长得漂亮的人,无情无义,而膀肿得象南瓜似的古贺先生却是个善良君子,可见必须多加小心。③相貌漂亮的,却不通情理;脸象冬瓜一样浮肿的古贺老师却是个善良的君子。世上的事的确不能只顾表面。	C	A-41	C	坊ちゃん(哥儿)
	箱根の向だから化物が寄り合ってるんだと云うかも知れない。		①她也许会,过了箱根就是妖魔鬼怪的地盘呀。②她也许会说这是因为俺来的地方是箱根山以西,所以牛鬼蛇神才成群结伙的出没。③兴许还会说:过了箱根山,那边尽是些妖魔鬼怪呢!	C	A-7	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれは、性来構わない性分だから、どんな事でも苦にしないで今日まで凌いで来たのだが、		①我生来对一切事情都不在乎,无忧无虑地活到今天。②俺天生就是什么也不在乎的性子,不管什么事,都不把它当回事,一直凑活着活到今天。③我生来就是个万事不在意的性子,无论什么事我都不犯愁,就这么着活到了今天。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	川の流れは浅いけれども早いから、神経質の水の様にやたらに光る。		①河水很浅,但流得很急,水也象有些神经质,发出奇异的光亮。②河水虽浅,但却很疾,所以水也象神经质似的一味一闪一闪的闪亮。③河水很浅,水流却很急,河水神经质地闪着亮光。	C	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれは考があるから、急に全速力で追っ懸けた。		①我暗自生疑,最大限度地加快脚步追了过去。②俺为了弄个究竟,便立刻用最快速度,追了上去。③我心里有了打算,便加快步伐赶了上去。	C	B-2	B-2	坊ちゃん(哥儿)
	土手の幅は六尺位だから、並んで行けば三人が漸くだ。		①河堤宽六尺许,三个人并排走着是很勉强的。②土堤的宽度大约有两米,并排勉强能走三个人。③土堤的宽度大约有两米,并排勉强能走三个人。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	ところが会議の席では案に相違して滔々と生徒敵罰論を述べたから、おや変だなど首を振った。		①然而开会时,他又出人意料,滔滔不绝讲述为何要严惩学生的一套道理,真是叫人摸不透的怪人。②但是,自从他在会议上出乎意料地慷慨陈词,提出严惩学生的主张之后,俺可就大感意外,觉得“唉,难捉摸呀”。③可是没想到他在开会时,却慷慨陈词,主张严惩学生,使我感到非常奇怪。	C	C	B-5	坊ちゃん(哥儿)
	野郎返事もしないで、まだ眼を刺って見せたから、此方も腹が立ってそのままにして置いた。		①可这家伙不理不睬,还是那样瞪着眼珠看着我。我也有些气恼,就不再理他了。②可这家伙,连理也不理俺,又朝俺瞪起眼珠来,俺也恼火了,就再也没有理他。③但这家伙不搭理,还是对我瞪眼睛。我一生气,就不再理睬了。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	ある日の事赤シャツが一寸君に話があるから、僕のうちまで来てくれと云うから、惜しいと思ったが温泉行きを欠勤して四時頃出掛けた。		①一天,红衬衫跟我说:“请到我家里来,有话跟你讲。”可惜我不能到温泉去了,四点钟就到他那里。②有一天,“红衬衫”说:“有点事和你商量,请你来舍下一趟。”俺虽觉得去不了温泉怪可惜的,但还是缺了去温泉这一课,四点钟左右到他家去了。③一天,红衬衫说:“跟你说点事,请到我家里来一下。”我十分可惜失去了一次去温泉洗澡的机会。四点钟左右我出发往他家去。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	その辭渡りものだから、生れ付いての田舎者よりも人が悪るい。		①又是外乡人，比土生土长的本地人更坏。②由于他走南闯北，比土生土长的乡巴佬心术还要坏。③而且他是外来人，比之于土生土长的乡下孩子还要坏。	C	A-15	C	坊ちゃん（哥儿）
その俸給から少しは融通が出来るかも知れないから、それで都合をつける様に校長に話してみようと思うんですがね		①或许可以从他的月薪里想想办法，我正要找校长谈谈，请他给个方便。②从那个调出的人的工资额里，也许可以调剂出一部分来。所以我想和校长去说说，为你安排一下。③说不定能从那个人的薪水里想点办法。我想去找校长谈谈，请他考虑考虑。		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
「もう発表になるから話しても差し支ないでしょう。実は古賀君です」		①“反正快要公布了，说出来也没关系，调任的是古贺啊。”②“马上就会发表，所以现在告诉你也不妨，就是古贺君。”③“快要公布了，说出来也不要紧吧。就是古贺君。”		C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
「日向の延岡で——土地が土地だから一級俸上って行く事になりました」		①“日向の延岡——地方虽然不好，但月薪增加一级。”②“日向の延岡——地方是偏僻了一些，所以这次调去，决定给他长一级薪水。”③“日向の延岡——地区是偏僻了点，因此决定给他提高一级薪水。”		C	A-36	A-37	坊ちゃん（哥儿）
追っては君にもっと働らいて頂かなくってはならん様になるかも知れないから、どうか今からその積りで覚悟をしてやって貰いたいですね		①将来有些事情也许要你多多协助，从现在起，你就作好思想准备吧。②今后也许会出现请你多担负些工作的情况。请你思想有所准备，下定决心干吧。③往后说不定还得要你更辛苦些，请你从现在起，就作好精神准备吧。		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	今より重大な責任と云えば、数学の主任だろうが、主任は山嵐だから、やつこさん中々辞職する気遣はない。		①说要我承担比现在更重大的责任，是数学主任吗？主任已经有豪猪了，这家伙死也不会辞职的。②说要我承担比现在更重大的责任，是数学主任吗？主任已经有豪猪了，这家伙死也不会辞职的。③所谓比现在更重大的责任，难道是当数学主任？可数学主任是野猪，那家伙根本没有辞职的意思。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	それに、生徒の人望があるから転任や免職は学校の得策であるまい。		①再说，他在学生中威望很高，将他调任或免职，对学校都很不利。②而且他在学生中很有威信，把他调出或免职，对学校说来，未必是上策。③何况他在学生中又有威望，调任和免职都非学校的上策。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	仕舞に話をかえて君俳句をやりますかと来たから、こいつは大変だと思つて、俳句はやりません、さようならと、そこそこ帰って来た。		①最后，他转了个话题，问道：“你会作俳句吗？”这下子可要命了，我连忙说：“不会作俳句，再见。”便匆匆回来了。②最后，他转变话题，突然向他提出：“你是不是作俳句呀？”俺想这可招惹不得，忙说俺可不作俳句，便匆匆说声“再见”，告辞回来了。③最后，他问我写不写俳句。我心想，这可要了命，连忙答道：“俳句我可不会，再见吧！”就匆匆地回来了。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
「さっき僕の月給をあげてやると云う御話でしたが、少し考が変つたから断わりに来たんです」		①“刚才你说要给我增加薪水，我现在改变了主意，特意来表示回绝。”②“刚才你说要增加俺的薪水，俺有点新的想法，不想接受，所以特地来告诉你。”③“刚才你说要给我加薪水。现在我的想法有些改变，特来表示回绝的。”		C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは仕方がないから、こう答えた。		①我实在没办法，只好回答：②俺不得已，这样回答道：③我被逼得没法，只好这么回答他：	B-9	C	B-9	坊ちゃん（哥儿）
その剰余を君に廻わすと云うのだから、君は誰にも気の毒がる必要はない筈です。		①这剩余部分就转拨给你。所以你没有对不起任何人的地方。②是把多余出来的钱转给你的，所以你当然没有必要感到对不起谁。③是将其多余的部分拨给你的，因此你没有必要觉得对不起谁。		A-36	A-36	A-37	坊ちゃん（哥儿）
	おれの頭はあまりえらくないのだから、何時もなら、相手がこう云う巧妙な弁舌を揮えば、おやそうかな、それじゃ、おれが間違つたと恐れ入って引きさがるのだけれども、今夜はそうは行かない。		①我的头脑不灵光，要是平时，经对方这样花言巧语一摆弄，我就立即觉得自己不对，便诚惶诚恐承认错误退出来。可是今晚不上然，②俺的头脑不那么机灵，如果是往常，经过对方这样花言巧语的一说，俺就会想：原来是这样，那么，是俺想错了。然后惶恐地退下来，可是今晚晚上却不能这样。③我的头脑比较简单。若是平常，对方如此巧言令舌，我也许会说：哎呀，是吗，这么说是我错了，而惶惶不安地退下去。可是今晚却不是这样。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
あなたの云う事は尤もですが、僕は増給がいやになつたんですから、まあ断ります。		①“你说的有道理。但是我不愿意加薪，好吧，我谢绝。”②您说的固然蛮有理，可是，俺不喜欢给俺长工资，所以不接受这个建议。③你说的很有道理，可对加薪已经不感兴趣了。喏，我表示拒绝。		C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	君が取り合わないで儲けがないものだから、あんな作りごとをこしらえて胡魔化したのだ。		①你不加理会，他赚不着钱，便捏了错来欺骗人。②你不搭理他，他赚不到钱，所以编造了那件事来造你的谣。③可你不与他打交道，他赚不到钱，就捏造出这么一套来诬陷人。	C	A-36	B-1	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	いやだったから、是非返す積りでいたが、		①“嗯，本来我讨厌让你请客，才执意还你。②唔，俺当时觉得不愿意领你老兄请客的情，所以俺一直想把钱还给你。③嗯，当初我不高兴要你请我，所以非要把钱还你不可。	B-6	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	その後段々考えてみると、やっぱり着って貰う方がいい様だから、引き込ますんだと説明した。		①其后想想，还是领了这份情为好，所以才收回的。”②过后俺仔细想了想，还是领你请客的情为好，所以这次把它收回。”③可后来慢慢想，觉得还是让你请我的好，所以又收回来了。”	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	実は取ろう取ろうと思ってたが、何だか妙だからそのままに置いていた。		①“我是想早就收回的，但不好意思，就一直放着了。”②“本来早就想把它收回来，但总觉得不好意思，所以让它一直放着。③实际上，早就想着拿走算了，拿走算了，但总觉得不好意思，就那么让它摆在那里了。”	B-1	A-36	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	おれのべらんめえ調子じゃ、到底物にならないから、大きな声を出す山嵐を雇って、一番赤シャツの荒胆を挫いでやろうと考え付いたから、わざわざ山嵐を呼んだのである。		①但一想到自己拙口笨舌，到底不成气候，因此打算借用豪猪的一副大嗓门，煞一煞红衬衫的威风，这才特地把他请来的。②可是俺那粗鲁的口吻，肯定登不了大雅之堂，所以俺想到，找“豪猪”这个大嗓门来做俺的替身，出其不意，狠狠杀一杀“红衬衫”的威风。这样，俺把“豪猪”约来了。③可是，用我这个心直口快的调子来说话，那是根本说不出个道道来的，所以想借野猪的大嗓门，先挫一挫红衬衫的锐气，这才特意把野猪邀来的。	A-37	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	おれのべらんめえ調子じゃ、到底物にならないから、大きな声を出す山嵐を雇って、一番赤シャツの荒胆を挫いでやろうと考え付いたから、わざわざ山嵐を呼んだのである。		①但一想到自己拙口笨舌，到底不成气候，因此打算借用豪猪的一副大嗓门，煞一煞红衬衫的威风，这才特地把他请来的。②可是俺那粗鲁的口吻，肯定登不了大雅之堂，所以俺想到，找“豪猪”这个大嗓门来做俺的替身，出其不意，狠狠杀一杀“红衬衫”的威风。这样，俺把“豪猪”约来了。③可是，用我这个心直口快的调子来说话，那是根本说不出个道道来的，所以想借野猪的大嗓门，先挫一挫红衬衫的锐气，这才特意把野猪邀来的。	B-15	C	B-15	坊ちゃん（哥儿）
	それに就ても古賀があまり好人物過ぎるから困る。		①古贺为人太老实，对这件事唯唯诺诺，叫人没办法。②古贺的老好人也太过分了，所以糟糕。③这也是因为古贺过于老实，不好办了。	C	A-36	A-69	坊ちゃん（哥儿）
	赤シャツから話があった時、断然断わるか、一応考えてみますと逃げればいいのに、あの弁舌に胡魔化されて、即席に許諾したものだから、あとから御母さんが泣きついてても、自分が談判に行っても役に立たなかつたと非常に残念がった。		①红衬衫当初一提起就该断然拒绝，或者推托一下，考虑考虑再说。谁知他被红衬衫的花言巧语蒙混住了，当场就一口答应下来。后来老母亲去器请求，自己跑去谈判，都无济于事。②当“红衬衫”第一次和他谈的时候，他理应或者坚决拒绝，或者容许我考虑考虑，推托一下就好了，但他被“红衬衫”的花言巧语给蒙住了，当场就答应了下来，因此，后来他母亲再去哀求，我去交涉，都无济于事了。”③当初红衬衫谈到此事时，若不便断然拒绝，也可托词回头考虑考虑，该有多好！可是，他却被那家伙的花言巧语给骗了，当场应了下来。这么一来，过后他母亲哭着去求情也好，自己去交涉也罢，都不起作用啦！”	C	A-37	C	坊ちゃん（哥儿）
	あいつは大人しい顔をして、悪事を働いて、人が何か云うと、ちゃんと逃道を拵らえて待ってるんだから、余っ程奸物だ。		①那家伙装得一本正经，却尽干坏事。别人一说什么，他就留下后路伺机待动，真是老奸巨滑。②那家伙伪装老实，来干坏事，如果有谁揭穿他，他早已设好了一条为自己逃避责任的退路来等你，真是个极其狡猾的家伙。③那家伙道貌岸然，可尽干坏事。若是有人说什么，他早就为自己留下退路等着呢，真是老奸巨滑。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	切れないと外聞がわるいから、おれは見合せた。		①我想，要是绷不断就丢面子了，所以只好作罢。②俺想，如果进不断，就会丢人现眼，结果俺也没试。③我想：要是崩不断多丢人，就没敢试。	A-36	A-65	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	そうこうするうち時間が来たから、山嵐と一所に会場へ行く。		①说着说着，时间到了。我和豪猪一同向会场走去。②俺何言来语去，不知不觉到了开欢送会的时间，俺和“豪猪”一起去赴会。③正在说这说那的时候，时间到了。于是，和野猪一起向会场走去。	C	C	A-38	坊ちゃん（哥儿）
	松の枝を挿して何にする気か知らないが、何力月立っても散る気遣がないから、銭が懸らなくて、よかるう。		①我不明白插松枝意味着什么。大概这松枝几个月也不凋谢，又省钱，倒也不错。②俺不知道插这种松枝有什么讲究，不过就是过几个月，也不会凋谢，倒可以不必多花钱。③我不知道插松枝是作什么，也许是不必担心过几个月凋谢吧，倒是个省钱的好办法。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	あとで聞いてみたら、瀬戸で出来る焼物だから、瀬戸と云うのだそうだ。		①后来才知道，瀬戸产的磁器叫瀬戸物。②后来俺一打听，据说在瀬戸产的瓷器，才叫瀬戸物。③后来一问，才知道瀬戸生产出来的陶瓷，才叫瀬戸陶瓷。	C	B-6	B-6	坊ちゃん（哥儿）
	おれは江戸っ子だから、陶器の事を瀬戸物というのかと思っていた。		①我是江戸哥儿，凡是磁器都认为是瀬戸物。②俺是江戸儿，所以一直认为所有瓷器都叫瀬戸物哩。③因为我是江戸儿，以为凡陶瓷品都是瀬戸货。	C	A-36	A-1	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	おれは洋服だから、かしこまるのが窮屈だったから、すぐ胡坐をかいた。		①我穿的是西服，跪坐起来很不舒服，就干脆盘着腿。②俺穿的是西装，跪着正坐，很不舒服，很快就改为盘腿而坐了。③我穿的是西服，跪着坐很难受，就改成了盘腿而坐。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは洋服だから、かしこまるのが窮屈だったから、すぐ胡坐をかいた。		①我穿的是西服，跪坐起来很不舒服，就干脆盘着腿。②俺穿的是西装，跪着正坐，很不舒服，很快就改为盘腿而坐了。③我穿的是西服，跪着坐很难受，就改成了盘腿而坐。	B-1	B-1	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	しかもそのいい方がいかにも、尤もらしくって、例のやさしい声を一層やさしくして、述べ立てるのだから、始めて聞いたものは、誰でもきっとたまされるに極ってる。		①他讲起话来那样煞有介事，本来就很亲切的语调此时更加优美动人。初次听他讲话的人，无论谁都会被他的蒙骗住的。②而且他的那种说法，听起来简直是发自肺腑，不由你不相信。他大讲特讲，把他那一贯柔和的声音，放得更加柔和。初次听他这样说话的人，不管谁，肯定都要受他蒙蔽的。③他说得如此逼真动听，温柔的腔调显得更加温柔了，初次听他说话的人，肯定都会受他的蒙骗。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	赤シャツが席に復するのを待ちかねて、山嵐がぬっと立ち上がったから、おれは嬉しかったので、思わず手をぱちぱちと拍った。		①红衬衫刚刚坐下，豪猪就霍然站了起来。我很高兴，不由地吧嗒吧嗒拍了几下。②在“红衬衫”刚一坐下，“豪猪”就迫不及待地站了起来。俺高兴极了，不由得鼓起掌来。③野猪不等红衬衫坐下，蓦地站了起来。我高兴极了，不由得啪啪地直拍巴掌。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは今度も手を叩こうと思ったが、又みんながおれの面を見ろといやだから、やめにして置いた。		①这回我还想拍手，一想到大家又要朝我瞧，只好作罢。②俺本想这次也要鼓掌，但又讨厌别人都朝俺看，所以没有这样做。③我又想拍巴掌，但想到会再惹来大家的目光，怪讨厌的，所以控制住了。	B-9	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	うらなり君がおれの前へ来て、一つ頂戴致しましょうと袴のひだを正して申し込まれたから、おれも窮屈にズボンのままかしこまって、一盃差し上げた。		①老秧君走到我跟前，整整衣襟，郑重地请求道：“为我斟一杯吧。”我只得就那么穿着西装裤别扭地跪坐着，敬了他一杯。②“老秧”君来到俺的面前说：“让我拜领您的一杯酒吧。”他整理了一下裙裳的衣褶，向俺这样提出说。俺也不顾西服裤子如何紧窄，正坐起来，给他递了一杯酒。③冬瓜脸君扶着个儿在把盏斟酒，看来是打算转上一圈，太辛苦啦！他来到我的面前，把裙裤的褶子理正，毕恭毕敬地说：“敬你一杯！”把我弄得很难，穿着西装裤，也只好改成跪坐姿势，回敬了一杯。	B-8	C	B-9	坊ちゃん（哥儿）
	少々退屈したから便所へ行行って、昔し風な庭を星明りにすかして眺めていると山嵐が来た。		①我觉得无聊，就到厕所去。透过星光向古老的庭院里一望，豪猪也出来了。②俺感到有些无聊，去了一趟厕所，然后在星空下眺望着庭院的景色。这时，“豪猪”也出来了。③我有些疲倦了，于是去上厕所，借着微弱的星光看了一下古老的庭院。这时，野猪来了。	B-1	C	A-38	坊ちゃん（哥儿）
	実はこの兩人共便所に来たのだが、酔ってるもんだから、便所へ道入るのを忘れて、おれ等を引っ張るのだから。		①实际上，这两个人是和我们一起上厕所的，大概因为喝醉了，把上厕所的事全忘了，便拉着我们往回走。②老实说，这两个人也是来上厕所的，不过都醉了，忘了上厕所，只顾扯俺两个人回去。③实际上，这两个人是来上厕所的，因为喝醉了，就忘了上厕所，却把我们两个给拖住了。	A-1	C	A-4	坊ちゃん（哥儿）
	おれも少し驚ろいたが、壁際へ押し付けられているんだから、凝として只見ていた。		①我有些惊讶，因为仍被按在墙壁上，只能凝神望着他们。②俺虽然有点吃惊，不过正在被推到墙边，只好呆呆地瞧着。③我有些吃惊，但因为被按在墙边，所以只能呆呆地瞧着。	A-99	B-9	A-7	坊ちゃん（哥儿）
	鈴ちゃん僕が紀伊の国を踊るから、一つ弾いて頂戴と云い出した。		①“阿铃，我要跳‘纪伊之国’，你来弹一支曲子吧。”②“铃姑娘，我来跳个纪伊国舞，你给弹弹弦子吧。”③“阿铃！我要跳纪伊之国，请你弹一曲吧！”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	山嵐は馬鹿に大きな声を出して、芸者、芸者と呼んで、おれが剣舞をやるから、三味線を弾けと号令を下した。		①豪猪扯着大嗓门发布号令：“艺妓，艺妓！我要舞剑，快弹起三弦琴来！”②“豪猪”提高了他那嗓门，象发命令似的叫道：“艺妓！艺妓！我来搞一段剑舞，你们来弹弦子！”③野猪大声地叫着“艺妓，艺妓！”命令似地说：“我要舞剑，给我弹三弦！”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれはさつきから肝癪が起っているところだから、日清談判なら貴様はちゃんちゃんだろうと、いきなり拳骨で、野だの頭をぼかりと喰わしてやった。		①我从刚才起就憋着一肚子气，“日清谈判，你就是清清。”猛地一拳，打在小丑的脑袋上。②俺早就已经恼火，于是俺说：“如果是日清交涉，那你就是中国佬。”说着便抡起拳头，朝着“蹩脚帮”的脑袋狠狠地给了他一下。③我从刚才就一直压着火气，所以发火说：“如果是日清谈判，你就是清、清！”随即朝帮腔佬的头猛地给了一拳。	C	A-38	A-36	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	学校の生徒は八百人もあるのだから、体操の教師が隊伍を整えて、一組一組の間を少しづつ明けて、それへ職員が一人か二人ずつ監督として割り込む仕掛けである。		①学校有八百名學生，体操教師整理好隊伍，班与班之間稍留空隙，插進一兩名教員帶隊。②學校的學生足有八百人，由体操教員整理隊伍，在班与班之間，稍微隔開一些，安排一兩個教員插進去，進行監督。③學校的學生約有八百人，由體育老師整理好隊，隊与隊之間，保持一定的間隔，插進去一兩個教職員作為監督。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	生徒は小供の上に、生意気で、規律を破らなくては生徒の体面にかかわると思ってる奴等だから、職員が幾人ついて行ったって何の役に立つもんか。		①學生都是些孩子，驕躁浮華，似乎不違反紀律就有失做學生的體面，不管配備多少教員，都無濟于事。②學生不但是群孩子，而且又是一些不聽話的、仿佛不破壞紀律就有損學生體面似的一群東西，就是跟去幾個教員又起什麼作用呢？③學生是些孩子，而且不懂道理，在這些傢伙的心里，总觉得如不破坏纪律，就有失学生的体面似的。因此，不管跟上多少个教职员去，也起不了什么作用。	C	C	A-37	坊ちゃん（哥儿）
	日本人はみな口から先へ生れるのだから、いくら小言を云ったって聞っこない。		①可日本人都是先生嘴巴，不管如何提醒都不加理睬。②日本人都是生来就活在嘴巴子上的，所以无论教員怎样叱責，也決不肯听从。③可日本人的嘴总是喋喋不休的，任你怎麼訓斥，也沒有人听。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	喋舌るのも只喋舌るのではない、教師のわる口を喋舌るんだから、下等だ。		①他們交談的不是一般的事情，而是淨說教師的壞話，所以更是低級無聊。②就是說話，也並不是無謂的亂說，而是講老師的壞話，真是群下流的东西！③他們說的並不是一般的閑話，而是在說老師的壞話，這就更加可惡了。	A-36	C	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	しかも大勢だから、誰が云うのだから分らない。		①那么多學生，分不清是誰說的。②由于是一大群人喊的，所以也就無法知道是誰說的。③因为人多，分不清是誰說的。	A-15	A-36	A-1	坊ちゃん（哥儿）
	もともと返報にした事だから、こちらの弁護は向うの非が拳がらない上は弁護にならない。		①本來我是對他們實行報復，所以在辯解時總要列出對方的不是，結果，對方採取先下手為強的策略。②既然是出於還報，為了說明俺有理，如果不舉出對方的“非”，就無法為自己辯護。③本來是我打算進行報復，那就應舉出對方的錯誤來為自己辯護。	A-36	A-21	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	そこで仕方がないから、こっちも向の筆法を用いて捕まえられないで、手の付け様のない返報をしなくてはならなくなる。		①出於無奈，我非得以其人之道還治其人之身了。②這樣，出於無奈，自己也必須使用與對方相同的手段，讓對方抓不住把柄，搞一些讓他們無法對付的報復。③沒有辦法，只好按照他們的辦法，去對付他們，只要別讓他們抓住錯處就行。	B-8	C	B-9	坊ちゃん（哥儿）
	駄目だが一年もこうやられる以上は、おれも人間だから駄目でも何でもそうならなくっちゃ始末がつかない。		①受了一年的窩囊氣，我也是人，管他什麼名不虛傳，不這樣做心不甘啊。②垮了當然不好，不過如果讓他們這樣搞俺一年，俺也是人嘛，那就顧不得垮不垮，不變成這樣的人是別無出路的。③丟臉是丟臉，可我也是人呀，與其這樣讓他們捉弄一年，管它什麼丟臉不丟臉，也只好這麼辦。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	変だから、列を右へはずして、向うを見ると、大手町を突き当って薬師町へ曲がる角の所で、行き詰ったざり、押し返したり、押し返されたりして揉み合っている。		①我很奇怪，便从右首离开了队列，向前方探望，先头的队伍停在大手町和药师町的交接处，乱糟糟地堵在那儿，一会儿拥过去，一会儿退下来。②俺觉得奇怪，便往右边离开队伍一点，向前方一看，在大手街的尽头，折向药师街的转角处，队伍堵住了，一阵子向前推去，一阵子又被推回来，拥来拥去。③我觉得奇怪，从右边离开队伍朝前望去，在大手街往药师街的拐角处，队伍走不动了，人们挤过去，又被推回来，乱成了一团。	B-2	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	大方狭い田舎で退屈だから、暇潰しにやる仕事なんだろう。		①也许是地方狭小，闲得无聊，借此消磨时光吧。②大概是因为在这种过于狭窄的小地方没事可干，作为一种消遣来搞的吧。③也许是在这狭小的乡下闷得慌，借吵架来消磨时光吧。	C	A-69	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは喧嘩は好きな方だから、衝突と聞いて、面白半分に駆け出して行った。		①我是喜欢吵架的一个，一听到发生了冲突，高兴地跑过去了。②俺因为是为喜爱打架的，一听说吵了架，也一半是为了瞧热闹，便向前跑去。③我喜欢吵架，一听说发生了冲突，怀着一半好奇的心理跑了过去。	C	A-1	C	坊ちゃん（哥儿）
	余興は午后にあると云う話だから、一先ず下宿へ帰って、此間中から、気に掛っていた、清への返事をかきかけた。		①听说演出要在下午举行，我先回到寓所，给我朝夕思念的阿清写回信。②据说下午有余兴演出，俺先暂且回到家里，开始写那封俺一直挂在心上的回复清婆的信。③余兴安排在下午，我便先回到住处，给一直思念的阿清婆写回信。	C	C	B-2	坊ちゃん（哥儿）
	今度はもっと詳しく書いてくれとの注文だから、なるべく念入に認めなくっちゃならない。		①她嘱咐我这次要详细一些，所以我必须认真写好这封信。②这次，清婆提出要俺写得更详细些，所以必须用心去写。③她嘱咐说这次回信要写得详细些，所以得尽可能认真地写。	A-36	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	今は熟たら、たんと召し上がれと云ったから、毎日少しずつ食ってやろう。		①“等熟了，你就尽量多吃吧。”我想，每天吃它几个也好。②她说：“等熟了，请您尽量吃吧。”俺说：“那好，俺现在就每天吃它一些。”③还说：“等将来长熟了，请你多吃。”所以我打算每天吃上几个。	C	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	今日は祝勝会だから、君と一所に御馳走を食おうと思って牛肉を買って来たよ、竹の皮の包を袂から引きずり出して、座敷の真中へ抛り出した。		①“今天召开祝捷会，我买了牛肉，和你好好吃一顿。”他说罢，就从袖筒掏出一个竹皮包来，扔到房子中央。②“今天是战捷庆祝会，我想和你在一起打打牙祭，买来了牛肉。”说着便从衣袖里伸出一个竹叶包来，扔在席子当中。③“今天庆祝胜利，想和你吃一顿，买来了牛肉。”说着从袖筒里取出用竹叶裹着的一包，放在房间的中間。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは下宿で芋煮豆腐煮になってる上、蕎麦屋行き、団子屋行きを禁じられてる隙だから、そいつは結構だと、すぐ婆さんから鍋と砂糖をかり込んで、煮方に取りかかった。		①我每天在寓所里被迫吃芋煮和豆腐，又被禁止到面条馆和团子铺去，一见到这个喜出望外，立即向老婆婆借来锅和糖，着手做菜。②俺在这家每天都吃白薯、豆腐，同时又正值不准俺去荞麦馆、糯米团子铺的当儿，俺说：“好极了。”便立刻从女房东那里借来锅子和白糖，开始烧起牛肉来。③我在房东家不是塞山羊，就是填豆腐，而且又不让去荞麦馆和团子店，在这遭罪的时候，拿来了牛肉，实在是太好了。立即从房东老太太那里借来锅和砂糖，动手烹调。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	どこまでも人を胡魔化す気だから気に食わない。		①这小子处处都想蒙骗过去，真可恶。②以为这就可以骗过人的耳目，真让俺看不上！③这家伙无时无刻不在骗人，真叫人看不惯。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
「少し位身体が疲れたって構わんさ。あんな好物をあのままにして置くと、日本の為にならないから、僕が天に代って誅戮を加えるんだ」		①“身体累一点没关系，眼看着坏蛋作恶放手不管，对国家不利。我要替天行道，决心将他诛戮。”②“就是身子累点也没关系嘛，对这种坏蛋，如果就那么放过去，对日本也是不利的。我要代天行诛呢！”③“身体累一点不要紧。让那种奸险的家伙痛快着，对日本是一大害，所以我要代天而诛之。”	C	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）	
「まだ柵屋に懸合ってないから、今、今夜は駄目だ」		①“还没有和■屋旅馆说好，今晚上不行。”②“还没有向升屋打招呼呢，今晚③“还没有与■店交涉好，今晚不行。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）	
「近々のうちやるさ。いずれ君に報知をするから、そうしたら、加勢してくれ給え」		①“最近总要联系的，到时我来请你帮忙。”②“反正最近就办，我会通知你，你就来帮把手吧。”③“最近就得干。反正会通知你，到时候可要来帮忙。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）	
	毎年八幡様の御祭りには屋台が町内へ廻ってくるんだから、汐酌みでも何でもちゃんと心得ている。		①每年举行八幡大菩萨纪念会时，彩车也到城内来，什么《挑海女》之类的舞蹈我都看过。②每年八幡庙会的时候，表演舞蹈的彩车也巡回到俺住的那条街来，对于什么汲潮水舞啦，还有什么舞啦，俺都熟悉得很。③每年举行八幡神祭典的时候，舞蹈彩车都在市内转，不论是采盐舞还是其它的舞蹈，我都印象十分深刻。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	土佐つぼの馬鹿踊なんか、見たくもないと思っただけれども、折角山嵐が勸めるもんだから、つい行く気になって門へ出た。		①至于土佐地方的狂舞乱跳我更不想看。但是，豪猪拼命相劝，也只好走一趟。②对土佐佬胡折腾的舞蹈，俺本不想去看，不过难得“豪猪”这样邀俺，所以俺也动了个去的兴头，同他一起去了。③土佐那种土里土气的舞蹈算什么，真不想去看。可是，野猪特意邀请，便也想去看看。	B-9	A-36	B-2	坊ちゃん（哥儿）
	歌は頗る悠長なもので、夏分の水飴の様に、だらしがなが、句切りをとるためにぼこぼんを入れるから、のべつの様でも拍子は取れる。		①歌儿冗长，象夏季的糖稀一样扯也扯不断，那咚咚的鼓声便是用来断句的。所以，听起来虽然绵延不绝，但还是有节奏感。②歌子非常悠长，就象夏天的饴糖一样，扯不断拉不断。但为了断开句子，中间插进碎碎的一声鼓，所以虽似连绵不断，但还是有节奏的。③歌谣的腔调拖得相当长，就象夏天流不断线的糖稀一样。为了断句，就夹进去“扑咚咚”的鼓声。虽说没完没了，到也有些节拍。	A-36	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	見ている訳にも行かないから取り纏める積だろう。		①他大概想，总不能置之不理，想过去平息一下吧。②他大概是因为不能袖手旁观，打算去安抚学生们的吧。③他大概是想不能置之不理，要去加以制止吧。	C	A-69	C	坊ちゃん（哥儿）
	中学は式後大抵は日本服に着替えているから、敵味方はすぐわかる。		①中学生在仪式结束后大都换了民族服装，所以敌我双方一看就明白。②中学方面，在庆祝会后大多换上和服，所以谁是敌我，一目了然。③中学生在典礼之后大都改穿了日本便服，因此敌我双方，一目了然。	A-36	A-36	A-37	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	然し入り乱れて組んづ、解れつ戦つてから、どこから、どう手を付けて引き分けていいか分からない。		①但彼此扭打在一起，难解难分，不知从哪里下手才好。②但因为双方混在一起，你想揪住我，我想推开你，正在混战，所以想要拉开双方，简直不知道该从哪里下手，怎样下手才好。③可是，双方乱绞在一起，正打得起劲，不知从哪里着手把人拉开为好。	C	A-7	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは飛白の袴を着ていたから泥だらけになったけれども、山嵐の羽織程な損害はない。		①我穿着一件染有白花的夹袄，满身泥泞，可是不象豪猪的外褂那般破烂。②俺穿着飞白纹的夹袍，虽然沾满了污泥，但没有象“豪猪”的大褂那样撕破得厉害。③我穿的是白色碎花夹衣，虽说上面全是污泥，但没有野猪的大褂损失那么大。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	久しく喧嘩をしつげなから、こんなに答えるんだろう。		①好久没有打架了，所以才如此吃不消吧。②因为好久没有打架了，所以才出现这样的反应吧。③好久没有打架了，才落得这个下场。	A-83	A-94	B-6	坊ちゃん（哥儿）
	おれは新聞を丸めて庭へ投げつけたが、それでもまだ気に入らなかったから、わざわざ後架へ持って行って棄てて来た。		①我把报纸揉成一团扔到院子里，但这样还不解气，又把它扔到粪坑里。②俺把报纸揉成个团儿，摔到院子里去，但还觉不解恨，又特地把它捡回来，拿到茅房去，扔到茅房里。③我把报纸揉成一团扔到了院子里，还感到不足以消气，又特意去捡回来，扔到了茅房里。	B-4	B-4	B-4	坊ちゃん（哥儿）
	今日の新聞に辟易して学校を休んだなどと云われちゃ一生の名折れだから、飯を食っての一号に出頭した。		①假如人家认为我是看了今天报纸上的消息之后才请假休息的，那是我一生的耻辱。所以吃过饭我第一个到学校去了。②如果让人家说，俺是为了今天的报纸，感到招架不住，不敢去上课了，那将是一辈子的耻辱。所以俺一吃完早饭，便头一个到学校去了。③如果被人家说我是让今天的报纸吓住了，才没有到学校去，那有损我一生的名誉。所以吃过饭后，我第一个到了学校。	A-36	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	おれと山嵐は机を並べて、隣り同志の近い仲で、御負けにその机が部屋の戸口から真正面にあるんだから運がわるい。		①我和豪猪是桌并桌、肩挨肩的亲密伙伴，碰巧又正对着门口。真倒霉！②俺和“豪猪”桌子相连，是邻座的亲密关系，不但如此，倒霉的是俺的桌子正面对房门。③我和野猪的桌子紧挨着，而且又正对着门口，很是倒霉。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	新聞の記事は校長とも相談して、正誤を申し込む手続にして置いたから、心配しなくてもいい。		①我已同校长商量了，要求给予更正，请不必担心。②报上的报道，我和校长商量后，已经办好了更正手续，请不必担心。③至于报上的新闻，已与校长商量过，办好了要求更正的交涉，请不必担心。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	僕の弟が堀田君を誘に行ったから、こんな事が起ったので、僕は実に申し訳がない。		①我的弟弟邀请堀田君去，出了这样的事，我实在抱歉。②是我的弟弟邀堀田君一起去的，所以才发生了这件事，我觉得很对不起。③是我的弟弟去邀请的堀田君，发生了这件事，我实在抱歉。	C	A-83	C	坊ちゃん（哥儿）
	それでこの件に就ては飽くまで尽力する積だから、どうかあしからず、などと半分謝罪的な言葉を並べている。		①对于此事，我将竭尽全力，务请原谅。”他一半安慰一半谢罪地诉说了一通。②因此，关于这件事，我决心全力以赴，请你们多予谅解。”③我对此事一定尽力帮忙，请加原谅。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	然し自分がわるくないのにこつちから身を引くのは法螺吹きの新聞屋を益増長させる訳だから、新聞屋を正誤させて、おれが意地にも務めるのが順当だと考えた。		①但转念一想，自己并没有错，这样辞职离开此地，反而更助长了报纸造谣撒谎的气焰，倒不如让报纸更正错误，我坚持着干下去更合乎道理。②不过，明明俺自己并没有错，如果俺先擅辞稿，那就只能使那些胡吹的报混子更加嚣张，所以俺决心这个教员一定得干到底，让报混子进行更正，才合乎道理。③可是，我没有做错事，自己主动辞职，这只会助长造谣的报馆的气焰。我想为了让报馆更正错误，我得硬顶着干下去才是正理。	B-19	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	「あんな奸物の遣る事は、何でも証拠の拳がらない様に、拳がらない様にと工夫するんだから、反駁するのはむずかしいね」		①“这个狡诈的家伙，做下坏事不留任何痕迹，没有证据可抓，反驳起来是很困难的。”②“那种坏蛋，每干一件事，总在尽力琢磨，让你怎样也抓不住把柄，所以反击是非常困难的。”③“那种阴险家伙，无论干什么事都是反复考虑好了，让你拿不着任何证据。所以要反驳他是很困难的。”	C	A-36	A-36	坊ちゃん（哥儿）
	「それもよからう。おれは策略は下手なんだから、万事宜しく頼む。いざとなれば何でもする」		①“这当然可以。不过我缺乏计策，一切都指望你了。到了必要的时候，我什么都能干。”②“这也好。俺在想计策上是极笨的。一切全指望你啦。只要需要俺干，俺干什么都可以。”③“那也好。我不会出谋划策，所以全靠你了。到时候，我什么都干。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	あんまり腹が立ったから、それじゃ私が一人で行って主筆に談判すると云ったら、		①我很生气，说：“那好，我自己去同主编交涉。”②俺火冒三丈地说：“要是那样，我自己去和主笔交涉去。”③我实在生气，说：“那么，我自己去找主编谈判。”	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
「君はあまり単純過ぎるから、置いたって、どうしても胡魔化されると考えてるのさ」		①“你过于单纯，他把你留下来，可以随便蒙骗你。”②“他是在考虑：你十分单纯，所以把你留下来，用点什么办法，就可以把你糊弄过去的。”③“因为你过于单纯，他们认为把你留下，怎么也能蒙混过去。”		C	A-36	A-1	坊ちゃん（哥儿）
それに、来てから一月立つか立たないのに辞職したと云うと、君の将来の履歴に関係するから、その辺も少しは考えたらいいでしょう」		①。而且你刚来一个月就辞职，这关系到你将来的履历。你还是好好考虑一下为好。”②再说，你来了也只有短短的个月，就辞职不干了，要影响你将来的经历嘛。这一点，希望您稍微考虑考虑为妙啊。”③而且你来这里还不到一个月，就提出辞职，那是会关系到你将来的资历的。这方面你要好好考虑考虑为好。”		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	考え直すって、直し様のない明々白々たる理由だが、狸が着くなったり、赤くなったりして、可愛想になったから一と先考え直す事として引き下がった。		①想什么，道理不是明摆着的吗？看到狐狸的面孔白一阵，红一阵，怪可怜的。于是我答应再想想。就退出来了。②他让俺重新考虑，但这是个非常明明白白的道理，再也毋庸考虑了。但是看到“狗獾”的脸色青一阵红一阵，怪可怜的，于是俺答应他再考虑，便出来了。③再想一想，理由明摆着，还有什么好想的。可是，我见狐狸的脸色白一阵，红一阵，显得怪可怜的，就答应再想想，退了出来。	A-38	A-38	B-1	坊ちゃん（哥儿）
	辞表の事はいざとなるまでそのままにして置いて差支あるまいとの話だったから、山嵐の云う通りにした。		①他叫我把辞职的事先放一放，到必要的时候提出来。我就照他的话办。②他早已料到会如此的，辞呈不到最后，不提出也没关系，因此俺就按他的话办了。③提交辞呈的事到时候再说，先那么摆着也不要紧。”既然他这么说，我就照他说的做。	C	A-37	A-22	坊ちゃん（哥儿）
	どうも山嵐の方がおれよりも利巧らしいから万事山嵐の忠告に従う事にした。		①豪猪到底比我精明，我决定万事都听从他的忠告。②看来，“豪猪”这个人比俺聪明，俺决定一切按“豪猪”的忠告行事。③因为不管怎么说，野猪比我聪明些，所以我决定一切听从野猪的忠告。	C	C	A-7	坊ちゃん（哥儿）
	赤シャツが忍んで来ればどうせ夜だ。しかも宵の口は生徒やその他の目があるから、少なくとも九時過ぎに極つてる。		①红衬衫总是夜里偷偷地来。刚刚天黑时，学生和其他人眼杂，所以他至少在九点之后，②“红衬衫”如果悄悄来，反正是在夜间的。而且，如果他在傍晚的时候来，还有可能让学生或其他人看见，所以他最早也得九点过后才来。③红衬衫要到夜晚才会偷偷地来，而且天刚黑时，学生和其他人等耳目众多，所以至少也得过了九点。	A-36	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
	おれは性急な性分だから、熱心になると徹夜でもして仕事をやるが、その代り何によらず長持ちのした試しがない。		①我是天生性急的人，热心起来可以干通宵，但不论哪一样都不能持之以恒。②俺是个急性子脾气，所以一旦认真起来，就是整宿不睡也能干工作。相反，不知为什么，却从来没有持久过。③我是个急性子，来劲的时候，通宵干也行，但无论干什么，我都不能持之以恒。	C	A-36	C	坊ちゃん（哥儿）
「どうしてって、ああ云う狡い奴だから、芸者を先へよこして、後から忍んでくるかも知れない」		①“你问为什么？那家伙很狡猾，他也许叫艺妓先来，然后自己悄悄地跟来。”②“你问为什么，他是个那样狡猾的家伙，很可能先把艺妓打发来，随后他们再悄悄地带。”③“为什么？因为红衬衫是那个狡猾的家伙，所以他会叫艺妓先来，然后自己再偷偷地来。”		C	C	A-7	坊ちゃん（哥儿）
「宿屋はいいが、気が放せないから困る」		①“旅馆方面倒不去管它，只是放心不下，真难受。”②“旅馆方面倒没什么，只是我总是这样紧张，受不了。”③“店家倒不要紧，只是放不下心，怪讨厌的。”		C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	「おい見ろ見ろ」と小声になったから、おれは思わずどきりとした。		①——喂，看，看！”他压低嗓门说道，我精神为之一振。②——喂，喂，快看，快看！”他放低了声音说。俺不由一震。③喂，你瞧，你瞧！”他压低了声音说，我不由得心神为之一振。	C	C	C	坊ちゃん（哥儿）
	窓から首を出す訳には行かないから、姿を突き留める事は出来ないが、段々近付いて来る模様だ。		①我们不能从窗户伸头向下望，无法知道是什么人，只觉得是逐渐向这里走来。②我们不便从窗子往外探头，所以无法认清是谁，但是好象人越走越近，③因为不能从窗口伸头出去，无法确定是什么人，不过象是渐渐地向远处走来。	C	A-36	A-1	坊ちゃん（哥儿）
「強がるばかりで策がないから、仕様ががない」		①“有勇无谋，不成气候。”②“他们只会蛮横，不懂策略，有什么用。”③“只是蛮勇，不讲策略，所以不行。”		C	C	A-36	坊ちゃん（哥儿）
「あの男もべらんめえに似てますね。あのべらんめえと来たら、男み肌の坊っちゃんだから愛嬌がありますよ」		①“那家伙象个傻瓜，说起那小傻瓜，是个侠义哥儿，倒也不乏可爱之处啊。”②“那家伙也和要贫嘴的是一路货色。提到那个要贫嘴的，是个好打抱不平的哥儿，倒怪招人希罕哩。”③“那个家伙也象个傻瓜。说起那个傻瓜，倒是个讲义气的公子哥儿，有几分可爱之处。”		B-19	B-19	C	坊ちゃん（哥儿）

原文		訳文		分類一覧			作品名
会話文	地の文	会話文	地の文				
	山嵐は下へ行って今夜ことによると夜中に用事があって出るかも知れないから、出られる様にして置いてくれと頼んで来た。		①豪猪下楼对老板关照说,今晚半夜也许有事要出去,大门请不要上锁。②“豪猪”下到一楼去向旅馆的人打招呼说:“今天晚上也许在半夜里有事,得出去一趟,请给留门。”③野猪下楼去关照店家说:“今晚说不定夜里有事需要出去,门别上锁,我们好进出。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	一番汽車はまだないから、二人とも城下まであるかなければならない。		①头班火车还没到,他俩必须步行回城去。②因为当时头班火车还没有发车,他们两个人必须一直步行回到城下街去。③第一班火车还没有发车,两人只能走回城里去。	C	A-1	B-22	坊ちゃん(哥儿)
	野だは狼狽の気味で逃げ出そうと云う景色だったから、おれが前へ廻って行手を塞いでしまった。		①小丑显出一副狼狽相,想挣扎逃跑,我转身绕到他的前面,堵住了去路。②“蹩脚帮”显出狼狽的样子,想拔脚逃跑,俺转到他前边去,挡住了他的去路。③帮腔佬显得很狼狽,正想跑,我绕到了他的前边,挡住了去路。	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	追っかける時に袂の中の卵がぶらぶらして困るから、両手で握りながら来たのである。		①追逐时,生怕袖子里的鸡蛋滚来滚去,两手才这样攥紧的。②在追赶他们的时候,衣袖里的鸡蛋摇来晃去,很碍事,所以俺是用两只手捏着衣袖跑来的。③原来刚才追人的时候,袖筒里的鸡蛋晃来晃去很不得劲,用两手捏着跑来的。	C	A-36	C	坊ちゃん(哥儿)
	然し野だが尻持を突いたところを見て始めて、おれの成功した事に気がついたから、此畜生、此畜生と云いながら残る六つを無茶苦茶に擲き付けたら、野だは顔中黄色になった。		①我看到小丑一屁股倒下来,才发现这一招取得了成功,“这畜生!畜生!”一边喊,一边把剩下的六个鸡蛋一股脑儿都扔出去了。小丑满脸都变成了黄色。②可是当俺看见“蹩脚帮”吓得一个屁股蹲儿跌在那里,俺这才发觉这样打法是收效了,于是俺一边骂着“混帐!混帐!”把剩下的六个鸡蛋,全都狠命地摔到“蹩脚帮”的脸上,“蹩脚帮”满脸变成黄的啦。③可是,当看到帮腔佬一屁股摔倒的时候,才发觉我意外的成功。于是,我一边骂着:你这畜生,你这畜生!把剩下的六个鸡蛋也胡乱砸了上去,帮腔佬满脸变成了黄色。	C	A-38	A-38	坊ちゃん(哥儿)
	「貴様等は奸物だから、こうやって天誅を加えるんだ。」	①“你们两个奸贼,我们是替天行道。②“豪猪”说:“你们这两个家伙都是奸狡货,所以我们才这样代天行诛的。③“你们两个奸贼听着,我们这样做,是替天除奸。”		C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	堀田と同じ所に待ってるから警察へ訴えたければ、勝手に訴えろ」と云って、二人してすたすたあるき出した。	①我和堀田呆在同一个地方,要想报告警察局,就去报告好了。”说罢,我们两个扬长而去。②俺和堀田待在一块儿等你们,你们想要找警察就随你们的便!”然后他们便大步离开了。③和堀田在同一个地方等着你们,想要报警,随便报好了!”说完,我们两人扬长而去。		C	C	C	坊ちゃん(哥儿)
	おれは早速辞表を書こうと思ったが、何と書いていいか分からないから、私儀都合有之辞職の上東京へ帰り申候につき左様御承知被下度候以上とかいて校長宛にして郵便で出した。		①我打算赶快写辞呈,可是不知怎么写才好。于是,我只写了这几行字:“敝人有事,故辞职返东京,请予照准,特告。”然后通过邮局寄达校长。②俺想马上写辞呈,但又不知怎样写才好,于是写了下边的字样:鄙人因故辞去教职,迨返东京,将特此旨奉闻,谨后。然后用信寄给了校长。③我想赶紧写张辞职书,可又不知怎么写好,就简单写了:“本人因事辞职,返回东京,请予照准,特此奉闻。”是邮寄给校长的。	A-38	A-38	B-1	坊ちゃん(哥儿)
	おれも余り嬉しかったから、もう田舎へは行かない、東京で清とうちを持つんだと云った。		①+++“我再不去乡下啦,就在东京找座房子和你住在一起。”我也十分高兴地说。②。俺也高兴极了,说:“再也不去那种穷地方啦,俺在东京,和清婆你一起住。”③我也很高兴,说:“不再到乡下去了,在东京和阿清婆一起过。”	C	C	C	坊ちゃん(哥儿)